

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 29 年度調査）

ニコチン依存症管理料による禁煙治療の効果等に関する調査
報告書

◇◆目 次◇◆

I. 調査の概要	1
II. 調査の結果	4
1. 回収結果	4
2. 施設調査の結果	5
(1) 施設の概要等（平成 29 年 6 月末現在）	5
①施設種類	5
②許可病床数	5
③標榜診療科	6
④開設者	8
(2) ニコチン依存症管理料の算定対象となる禁煙治療の体制・取組状況等	9
①ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期	9
②禁煙治療に従事している職員数（実人数）	10
③医師の禁煙治療に携わっている年数	11
④禁煙治療に係る専任の看護師・准看護師に対するトレーニングの実施状況等	12
⑤禁煙治療のための専門外来の有無等	14
⑥禁煙治療の体制	15
⑦1 人の患者に対する 1 回あたりの指導時間	16
⑧禁煙治療の内容	21
⑨5 回の禁煙治療について途中の脱落を防ぐために行っている工夫	22
⑩禁煙に失敗した患者への対応	23
(3) 自由診療も含めた禁煙治療の取組状況等	24
①自由診療による禁煙治療の実施状況	24
②自由診療による禁煙治療を行う場合	25
③1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数	26
④テレビ電話等による遠隔診療を組み合わせた治療の実施状況	29
(4) ニコチン依存症管理料の算定対象となる禁煙治療等に関する考え等	30
①1 年間におけるニコチン依存症管理料を算定した患者数等	30
②1 年間におけるニコチン依存症管理料の平均継続回数	35
③ニコチン依存症管理料を算定した患者数と年齢別構成割合	36
④平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等	38
3. 患者調査の結果	43
(1) ニコチン依存症管理料算定開始時の状況	43
①患者の基本属性	43
②ニコチン依存症管理料の算定開始時点における喫煙年数	45
③ニコチン依存症管理料の算定開始時点における 1 日あたりの喫煙本数	46

④ニコチン依存症管理料の算定開始時点におけるブリンクマン指数	48
⑤ニコチン依存症管理料の算定開始時点における TDS 点数.....	50
⑥ニコチン依存症管理料の再算定の有無	52
⑦ニコチン依存症管理料算定開始時点における治療中の合併症の有無等	54
(2) 保険適用期間中の経過と追加治療の有無.....	57
①ニコチン依存症管理料の算定回数の状況	57
②5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況.....	62
③5回の治療を途中で中止した患者の中止時の禁煙状況	69
④保険適用中の禁煙補助剤の使用状況.....	70
(3) 保険治療終了後の状況等	72
①保険治療終了後の追加禁煙治療の有無	72
②5回の治療をすべて終了した患者の治療9か月後の禁煙状況.....	73
③算定回数別の治療終了9か月後の禁煙状況.....	81
④治療9か月後の禁煙失敗時に喫煙したたばこの種類.....	91

参考資料

I. 調査の概要

1. 目的

平成 28 年度診療報酬改定では、ニコチン依存症管理料について、標準的な回数の治療実施を促す観点から評価の見直しが行われた。また、若年層のニコチン依存症患者にもニコチン依存症治療を実施できるよう、対象患者の喫煙本数に関する要件の見直しが行われた。

本調査では、このような診療報酬改定の内容を踏まえ、ニコチン依存症管理料を算定している医療機関と当該医療機関で禁煙治療を受けた患者の状況等について調査を行い、診療報酬改定の効果・影響等を検証することを目的としている。

<主なねらい>

- ・ ニコチン依存症管理料算定医療機関における平均継続回数の把握
- ・ 要件緩和による若年層の患者の治療状況の把握
- ・ ニコチン依存症管理料の算定回数別の禁煙成功率の把握
- ・ 禁煙治療体制（禁煙治療に携わる職員数等）の把握 / 等

2. 調査対象

本調査では、「ニコチン依存症管理料」の施設基準の届出を行っている保険医療機関の中から無作為抽出した保険医療機関 2,500 施設を「施設調査（様式 1）」の対象とした。

また、当該施設において平成 28 年 6 月に「ニコチン依存症管理料」の算定を開始した全患者を「患者調査（様式 2）」の対象とした。

3. 調査方法

- ・ 本調査では、調査対象施設（医療機関）が記入する自記式調査票（様式 1・様式 2）を郵送配布した。
- ・ 「施設調査（様式 1）」については、平成 29 年 6 月の施設概要や禁煙治療体制等を尋ねた。
- ・ また、「患者調査（様式 2）」については、調査対象患者の治療終了から 10～11 か月目となる平成 29 年 7 月～8 月に、その時点での禁煙／喫煙状況を対象施設が電話により調査し、その結果を調査票に記載する形式とした。
- ・ 対象施設は、記入した様式 1・様式 2 の調査票を同封の上、調査事務局宛の専用返信封筒にて返送するという形式により郵送回収とした。
- ・ 調査実施時期は、平成 29 年 7 月 12 日～平成 29 年 9 月 27 日である。

4. 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

調査の種類	主な内容
施設調査（様式 1）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 開設主体、施設種別、許可病床数、標榜診療科 ○ 禁煙治療体制・取組状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・ ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期 ・ 禁煙治療に従事している職員数、医師における禁煙治療に携わっている年数 ・ 禁煙治療に係る専任の看護師または准看護師に対するトレーニングの実施状況等 ・ 禁煙治療のための専門外来の有無、専門外来の診療時間 ・ 禁煙治療の体制 ・ 患者に対する 1 回あたりの平均指導時間（初回、2 回目以降の指導） ・ 禁煙治療の内容 ・ 途中の脱落を防ぐために工夫していること ・ 禁煙に失敗した患者に対して行っている対応 ・ 自由診療での禁煙治療の実施の有無、自由診療で禁煙治療を行う場合の内容 ・ 平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数 ・ テレビ電話等による遠隔診療を組み合わせた治療の実施の有無、平成 29 年 6 月 1 か月間における対象患者数 ・ 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日の 1 年間におけるニコチン依存症管理料を算定した患者数、このうち 5 回の禁煙治療を終了した患者数、禁煙に成功した患者数、禁煙治療中止時に禁煙していた患者数、ニコチン依存症管理料「初回の治療」の算定回数、ニコチン依存症管理料の 1 年間の延べ算定回数 ・ 平成 27 年 6 月及び平成 28 年 6 月 1 か月間にニコチン依存症管理料を算定した患者の年齢階級別人数 ○ ニコチン依存症管理料の算定対象となる禁煙治療に関する考え等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等 ・ 禁煙治療を行う上で困っていること、課題等
患者調査（様式 2）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の属性

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性別、年齢 ○ ニコチン依存症管理料算定開始時の状況 ・ 喫煙年数、1日あたりの喫煙本数、TDS点数 ・ ニコチン依存症管理料の再算定（過去にニコチン依存症管理料を算定した実績）の有無 ・ 合併症の有無、合併症の内容 ○ ニコチン依存症管理料算定期間中の状況等 ・ ニコチン依存症管理料の算定日、治療中止時の禁煙状況 ・ 5回目の指導終了時の禁煙状況 ・ 保険適用中の禁煙補助剤の使用状況 ・ 保険治療終了後の追加禁煙治療の有無 ○ 保険治療終了後の状況等 ・ 指導終了9か月後の禁煙状況、失敗した場合に喫煙したたばこの種類
--	---

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下のとおり、調査検討委員会を設置・開催した。

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

- | | | |
|---|--------|---|
| | 饗庭 三代治 | 順天堂大学医学部総合診療科研究室 客員教授 |
| | 久保田 聡美 | 高陵病院 教育顧問 |
| ○ | 関 ふ佐子 | 横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授 |
| | 中村 正和 | 公益社団法人 地域医療振興協会
ヘルスプロモーション研究センター センター長 |
| | 松原 由美 | 早稲田大学人間科学学術院 准教授 |

Ⅱ. 調査の結果

1. 回収結果

様式1については、発送数2,500施設に対し、有効回答数（施設数）は1,149件で、有効回答率は46.0%であった。

様式2に記載された患者票のうち、有効回答となった患者数は1,308人分であった。

図表 1 回収の状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
回答施設数(様式1)	2,500	1,149	46.0%
様式2に記載された有効患者数	-	1,308	-

(注) 様式2に記載された患者のうち、ニコチン依存症管理料の初回の算定日が平成28年6月以外となっている患者データについては対象外としたため、上記の「有効回答数」には含まれていない。

2. 施設調査の結果

【調査対象等】

調査対象：「ニコチン依存症管理料」の施設基準の届出を行っている保険医療機関の中から無作為抽出した2,500施設

回答数：1,149施設

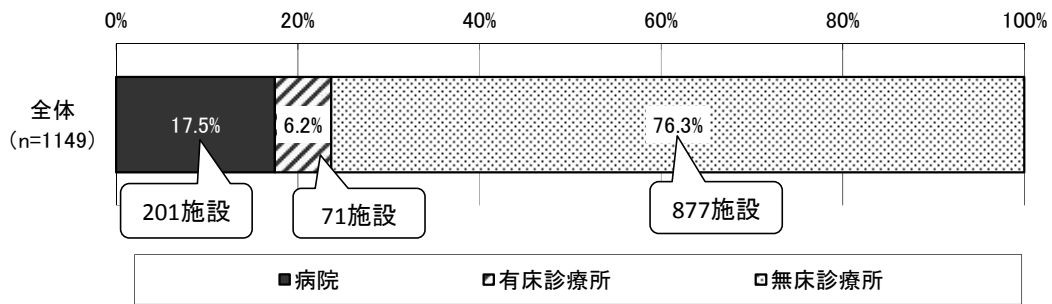
回答者：開設者・管理者

(1) 施設の概要等（平成29年6月末現在）

①施設種類

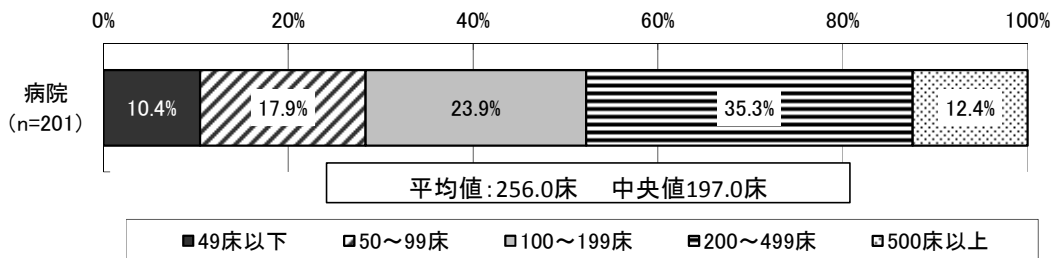
回答施設1,149施設の施設種類についてみると、「病院」が17.5%（201施設）、「有床診療所」が6.2%（71施設）、「無床診療所」が76.3%（877施設）であった。

図表2 施設種類

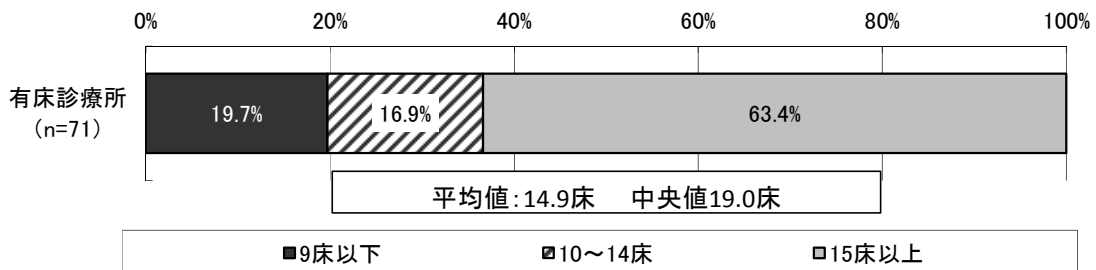


②許可病床数

図表3 許可病床数（病院）

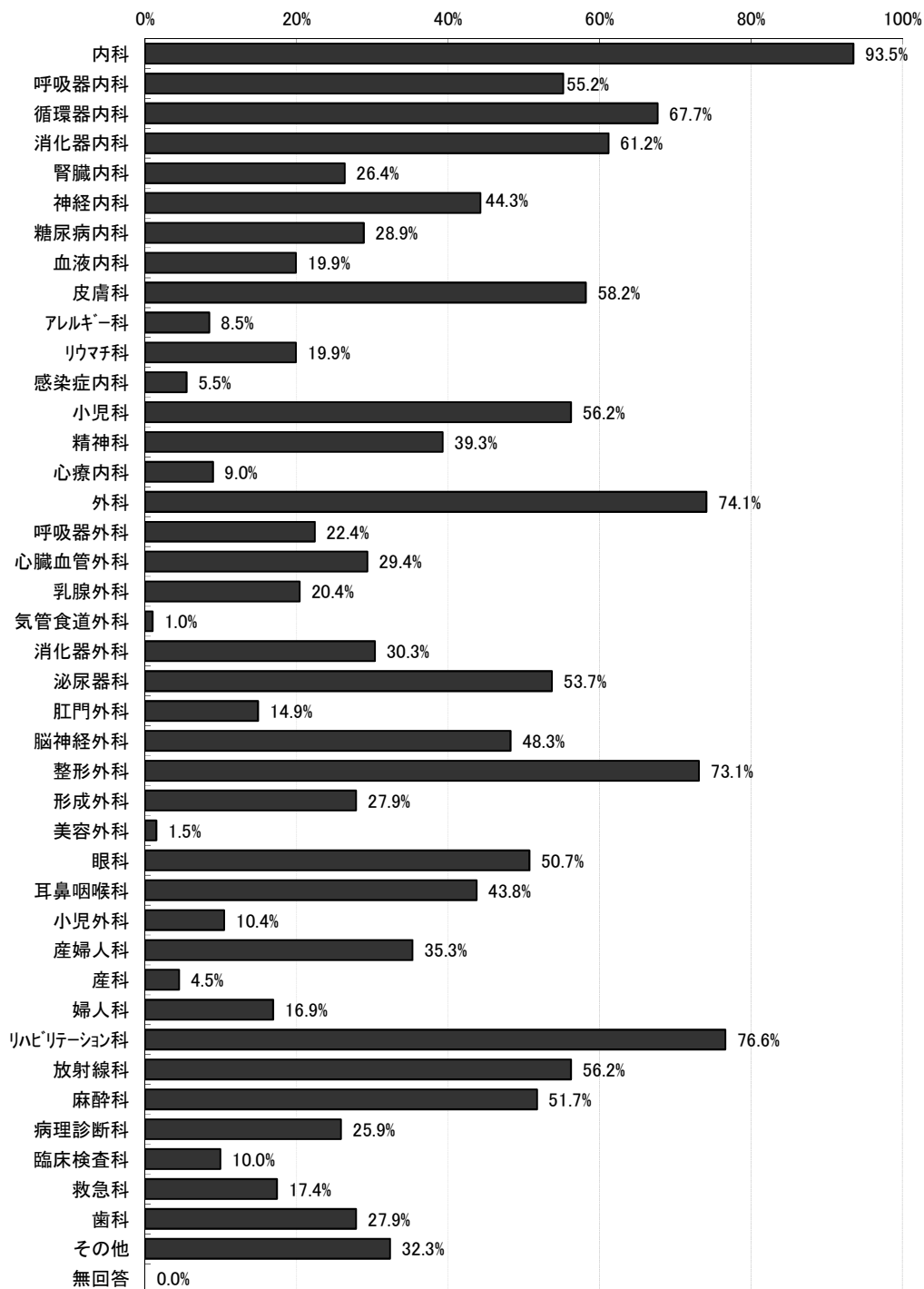


図表4 許可病床数（有床診療所）

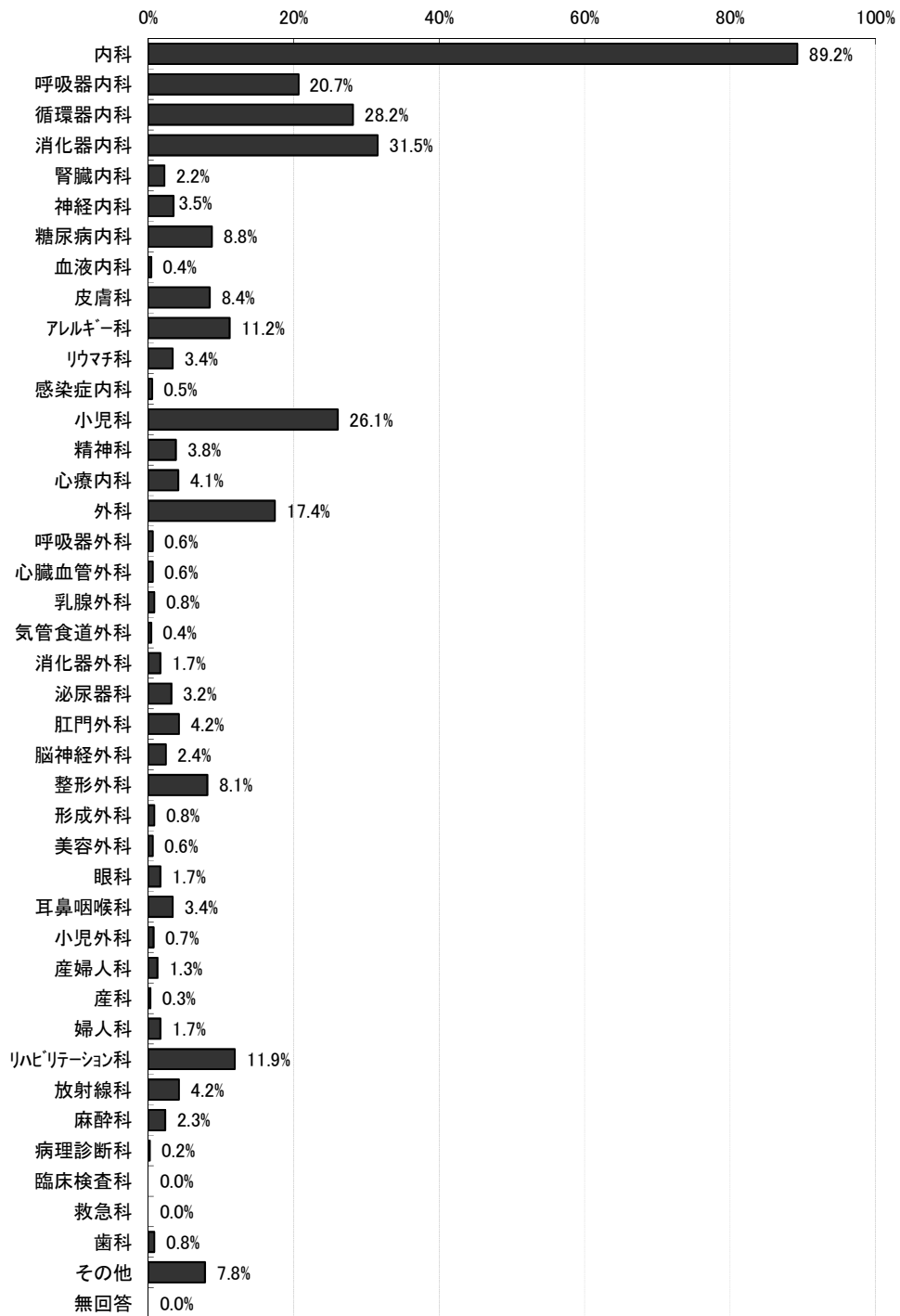


③標榜診療科

図表 5 標榜診療科（病院、複数回答、n=201）



図表 6 標榜診療科（診療所、複数回答、n=948）



④開設者

開設者についてみると、「医療法人」(52.7%)が最も多く、次いで「個人」(32.6%)、「公立」(6.7%)であった。

施設種類別にみると、病院では「医療法人」(46.3%)が最も多く、次いで「公立」(22.9%)、「その他の法人」(10.4%)であった。診療所でも「医療法人」(54.0%)が最も多く、次いで「個人」(39.1%)であった。

図表 7 開設者

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	国	公立	公的	社会保 険関係 団体	医療 法人	個人	学校 法人	その他 の法人	無回答
全体	1,149	14	77	18	3	605	374	9	42	7
	100.0	1.2	6.7	1.6	0.3	52.7	32.6	0.8	3.7	0.6
病院	201	14	46	15	3	93	3	6	21	0
	100.0	7.0	22.9	7.5	1.5	46.3	1.5	3.0	10.4	0.0
診療所	948	0	31	3	0	512	371	3	21	7
	100.0	0.0	3.3	0.3	0.0	54.0	39.1	0.3	2.2	0.7

(注) 開設者による分類は下記の通り。

国：厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立研究開発法人、独立行政法人地域医療機能推進機構、その他(国)

公立：都道府県、市町村、地方独立行政法人

公的：日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会

社会保険関係団体：健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合

医療法人：医療法人、社会医療法人

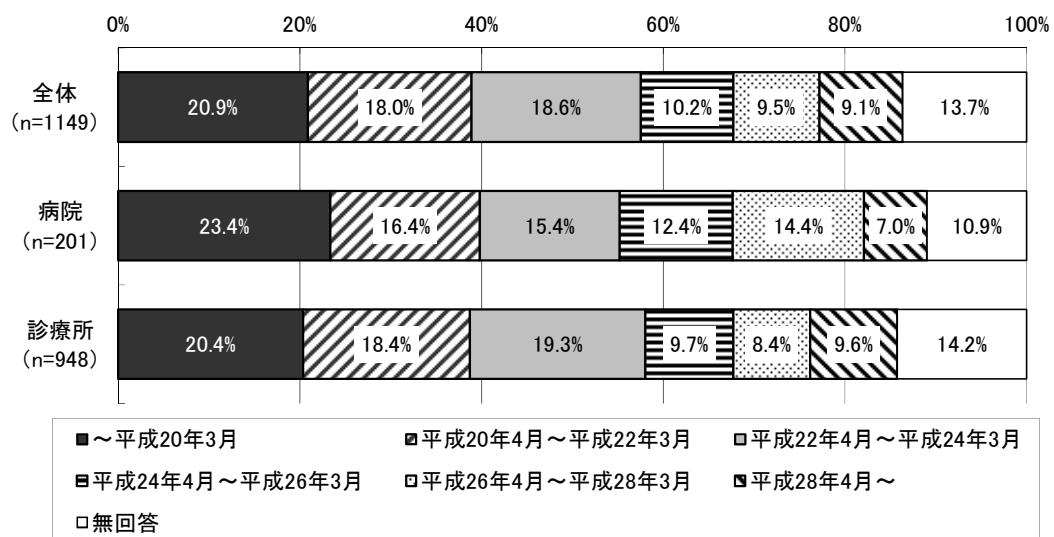
その他の法人：公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

(2) ニコチン依存症管理料の算定対象となる禁煙治療の体制・取組状況等

①ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期

ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期についてみると、「～平成20年3月」(20.9%)が最も多く、次いで「平成22年4月～平成24年3月」(18.6%)、「平成20年4月～平成22年3月」(18.0%)であり、平成24年3月以前に届出を行った施設が約6割を占めた。また、診療報酬改定後の「平成28年4月～」は約1割であった。

図表 8 ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期



②禁煙治療に従事している職員数（実人数）

禁煙治療に従事している職員数（実人数、専従者・専任者）は以下のとおりである。

図表 9 禁煙治療に従事している職員数（実人数）（全体、n=1,119）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.1	0.6	1.0	0.2	0.5	0.0
看護師・准看護師	1.6	1.3	1.0	0.5	1.1	0.0
その他の職員	0.4	1.0	0.0	0.1	0.7	0.0
合計	3.1	2.0	3.0	0.8	1.5	0.0

（注）禁煙治療に従事している職員数（実人数、専従者・専任者）について記入のあった1,119施設を集計対象とした。

図表 10 禁煙治療に従事している職員数（実人数）（病院、n=197）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.4	1.2	1.0	0.2	0.5	0.0
看護師・准看護師	1.6	1.3	1.0	0.3	0.8	0.0
その他の職員	0.1	0.7	0.0	0.0	0.2	0.0
合計	3.2	2.2	3.0	0.5	1.0	0.0

（注）禁煙治療に従事している職員数（実人数、専従者・専任者）について記入のあった197施設を集計対象とした。

図表 11 禁煙治療に従事している職員数（実人数）（診療所、n=922）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.1	0.4	1.0	0.1	0.5	0.0
看護師・准看護師	1.6	1.3	1.0	0.5	1.1	0.0
その他の職員	0.4	1.0	0.0	0.2	0.7	0.0
合計	3.0	1.9	3.0	0.8	1.6	0.0

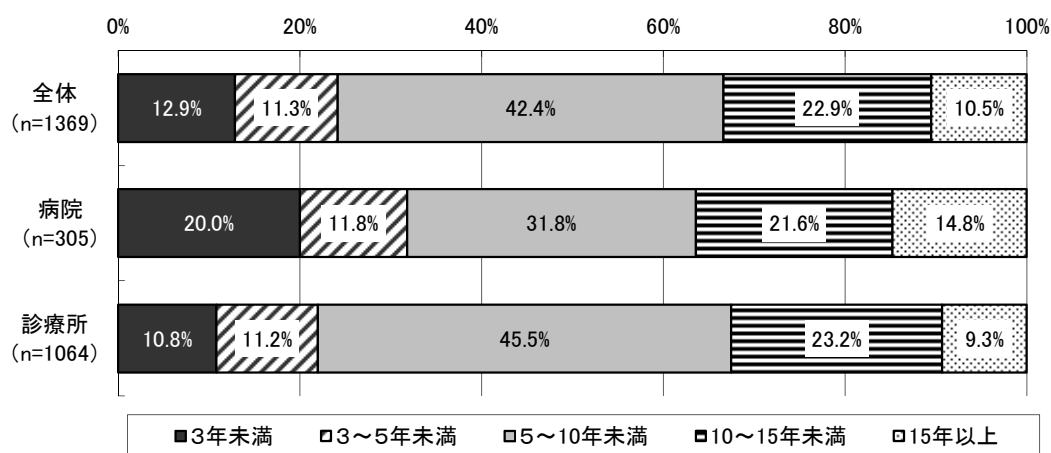
（注）禁煙治療に従事している職員数（実人数、専従者・専任者）について記入のあった922施設を集計対象とした。

③医師の禁煙治療に携わっている年数

医師の禁煙治療に携わっている年数についてみると、「5～10年未満」(42.4%)が最も多く、次いで「10～15年未満」(22.9%)、「3年未満」(12.9%)、「3～5年未満」(11.3%)、「15年以上」(10.5%)であった。医師の禁煙治療に携わっている年数は平均 8.3 年(中央値 7.6)であった。

施設種類別にみると、病院の医師は平均 8.8 年(中央値 7.3)であり、診療所の医師は平均 8.2 年(中央値 7.6)であった。病院の医師では、診療所の医師と比較して「3年未満」の割合が高い一方で、「15年以上」の割合も高くなっている。

図表 12 医師の禁煙治療に携わっている年数別割合(医師数ベース)



(注) n は医師数。禁煙治療に携わる医師が複数である施設の場合、最大 4 名分の年数を回答していただいた。

図表 13 医師の禁煙治療に携わっている年数(医師数ベース)

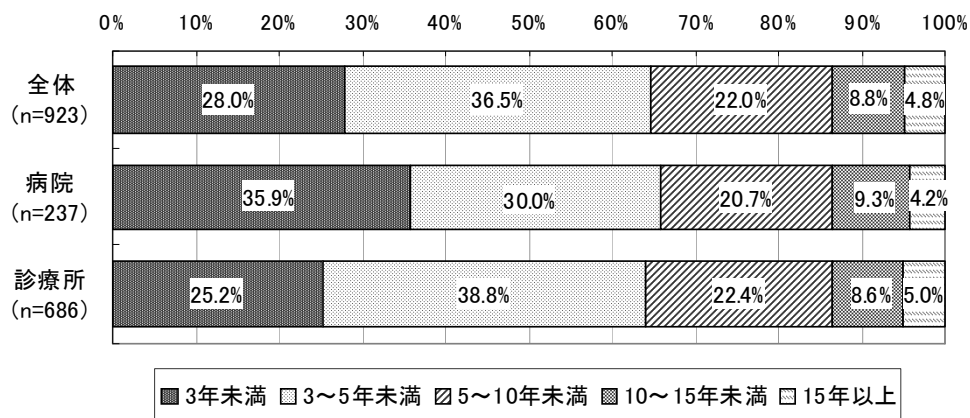
(単位:年)

	人数(人)	平均	標準偏差	中央値
全体	1,369	8.3	5.5	7.6
病院	305	8.8	7.3	7.3
診療所	1,064	8.2	4.9	7.6

(注) n は医師数。禁煙治療に携わる医師が複数である施設の場合、最大 4 名分の年数を回答していただいた。

(参考) 平成 21 年度調査

医師の禁煙治療に携わっている年数 (医師数ベース)



医師の禁煙治療に携わっている年数 (医師数ベース) : 平均値・中央値

(単位: 年)

	件数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全 体	923	5.00	4.69	3.33
病 院	237	4.88	5.03	3.17
診 療 所	686	5.04	4.57	3.33

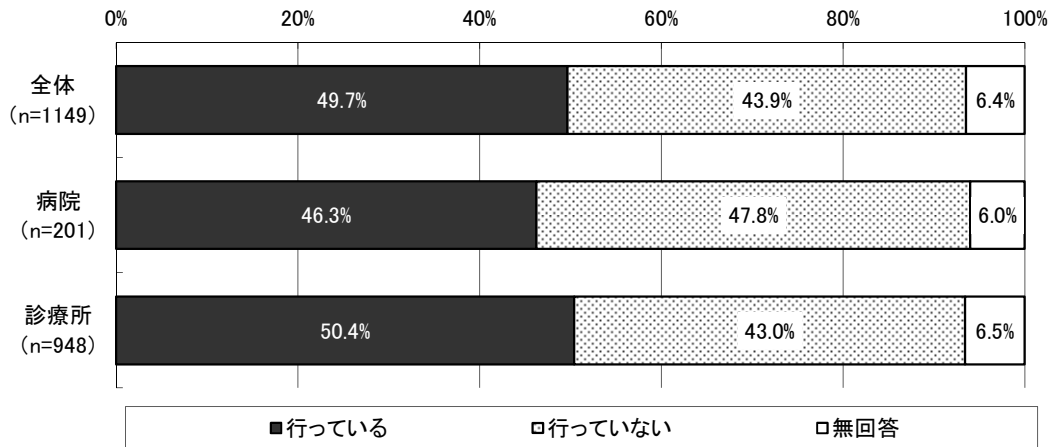
④禁煙治療に係る専任の看護師・准看護師に対するトレーニングの実施状況等

1) トレーニングの実施状況

禁煙治療に係る専任の看護師・准看護師に対するトレーニングの実施状況についてみると、「行っている」が49.7%、「行っていない」が43.9%であった。

施設種類別にみると、「行っている」の割合は、病院では46.3%、診療所では50.4%であった。

図表 14 禁煙治療に係る専任の看護師・准看護師に対するトレーニングの実施状況

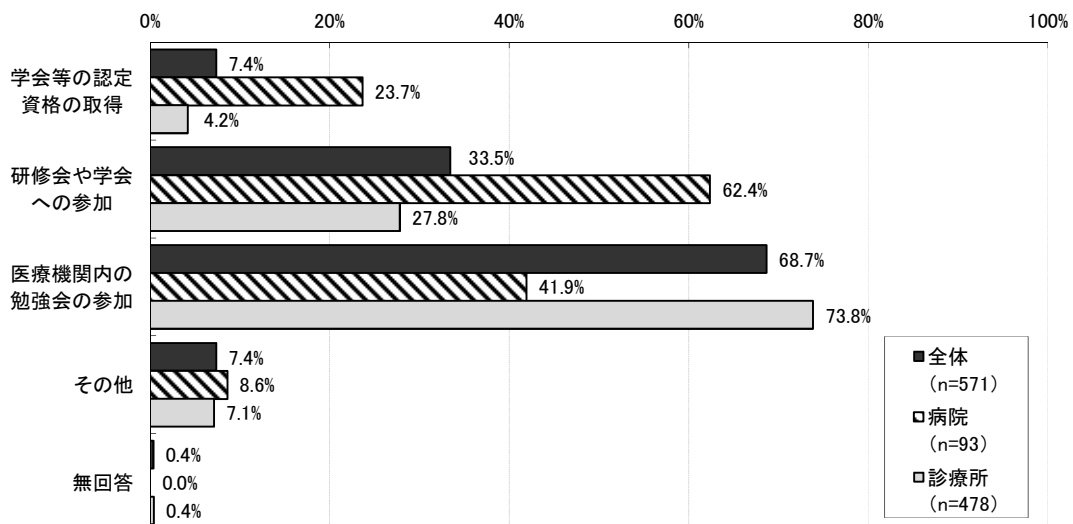


2) トレーニングの内容

禁煙治療に係る専任の看護師・准看護師に対するトレーニングを「行っている」と回答した施設にその内容を尋ねたところ、「医療機関内の勉強会の参加」(68.7%)が最も多く、次いで「研修会や学会への参加」(33.5%)であった。

施設種類別にみると、病院では「研修会や学会への参加」(62.4%)が最も多く、次いで「医療機関内の勉強会の参加」(41.9%)、「学会等の認定資格の取得」(23.7%)であった。診療所では「医療機関内の勉強会の参加」(73.8%)が最も多く、次いで「研修会や学会への参加」(27.8%)であった。病院と診療所とではトレーニングの実施内容に大きな違いがみられた。

図表 15 禁煙治療に係る専任の看護師・准看護師に対するトレーニングの実施内容
(トレーニングを「行っている」と回答した施設、複数回答)



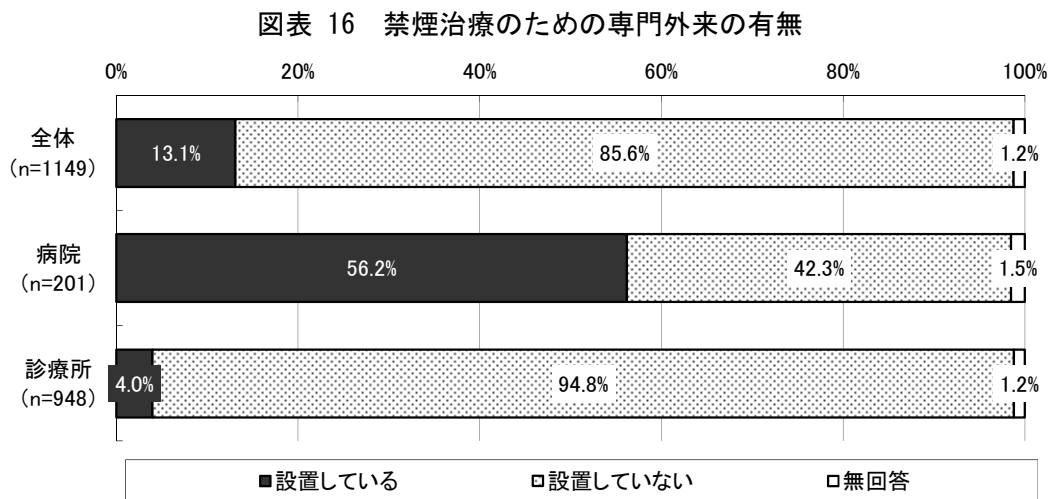
(注) 「その他」の内容として、「eラーニング」、「医師会が行う講習会」、「製薬会社が行う講習会」、「文献等による勉強会」、「カウンセリング技術に関する教育」等が挙げられた。

⑤禁煙治療のための専門外来の有無等

1) 禁煙治療のための専門外来の有無

禁煙治療のための専門外来の有無についてみると、「設置している」が 13.1%、「設置していない」が 85.6%であった。

施設種類別にみると、病院では「設置している」が 56.2%と過半数を占めた。一方、診療所では「設置している」は 4.0%にとどまった。



2) 禁煙治療のための専門外来における診療時間

禁煙治療のための専門外来を「設置している」と回答した施設における、専門外来の 1 週間あたりの診療時間についてみると、平均 3.4 時間（中央値 2.0）であった。

施設種類別にみると、病院では平均 3.0 時間（中央値 2.0）、診療所では平均 4.4 時間（中央値 3.0）であった。

図表 17 禁煙治療のための専門外来における 1 週間あたりの診療時間
（専門外来を「設置している」と回答した施設）

（単位：時間）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	142	3.4	4.0	2.0
病院	105	3.0	3.0	2.0
診療所	37	4.4	5.9	3.0

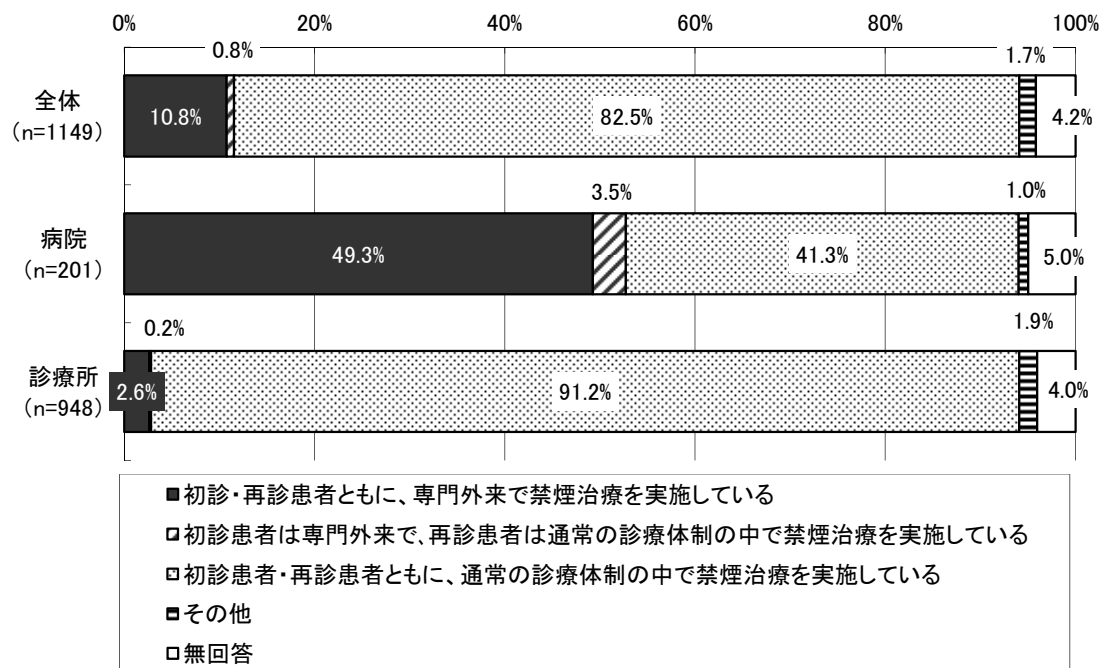
（注）禁煙治療のための専門外来を設置していると回答した 151 施設のうち、1 週間あたりの診療時間について記入のあった 142 施設を集計対象とした。

⑥禁煙治療の体制

禁煙治療の体制についてみると、「初診患者・再診患者ともに、通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(82.5%)が最も多く、次いで「初診・再診患者ともに、専門外来で禁煙治療を実施している」(10.8%)であった。

施設種類別にみると、病院では「初診・再診患者ともに、専門外来で禁煙治療を実施している」(49.3%)が、「初診患者・再診患者ともに、通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(41.3%)よりも多かった。一方、診療所では「初診患者・再診患者ともに、通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」が9割を超えており、病院と診療所とでは大きな違いがみられた。

図表 18 禁煙治療の体制



(注) 「その他」の内容として、「初診・再診ともに予約制」、「1名は専門外来、他2名は通常診療内」、「初診時のみ予約制」、「初診患者のみ一番最後の時間にし、時間をかけて説明している」、「初診のみ早朝に予約」、「初診のみ時間外に予約」等が挙げられた。

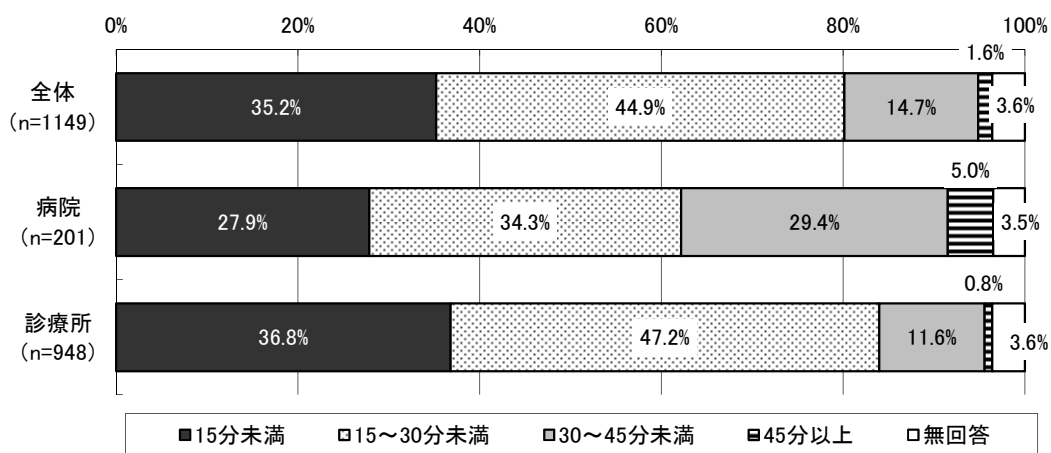
⑦1人の患者に対する1回あたりの指導時間

1) 医師の平均指導時間（初回の指導）

患者に対する1回あたりの医師の平均指導時間（初回の指導）別施設割合についてみると、「15～30分未満」（44.9%）が最も多く、次いで「15分未満」（35.2%）、「30～45分未満」（14.7%）、「45分以上」（1.6%）という順であった。

施設種類別にみると、病院では「15～30分未満」（34.3%）が最も多く、次いで「30～45分未満」（29.4%）、「15分未満」（27.9%）、「45分以上」（5.0%）であり、医師の指導時間は平均21.6分（中央値20.0）であった。診療所でも「15～30分未満」（47.2%）が最も多く、次いで「15分未満」（36.8%）、「30～45分未満」（11.6%）、「45分以上」（0.8%）であり、医師の指導時間は平均16.1分（中央値15.0）であった。

図表 19 患者に対する1回あたりの医師の平均指導時間（初回の指導）別施設割合



図表 20 患者に対する1回あたりの医師の平均指導時間（初回の指導）

（単位：分）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,096	17.1	9.5	15.0
病院	193	21.6	13.4	20.0
診療所	903	16.1	8.1	15.0

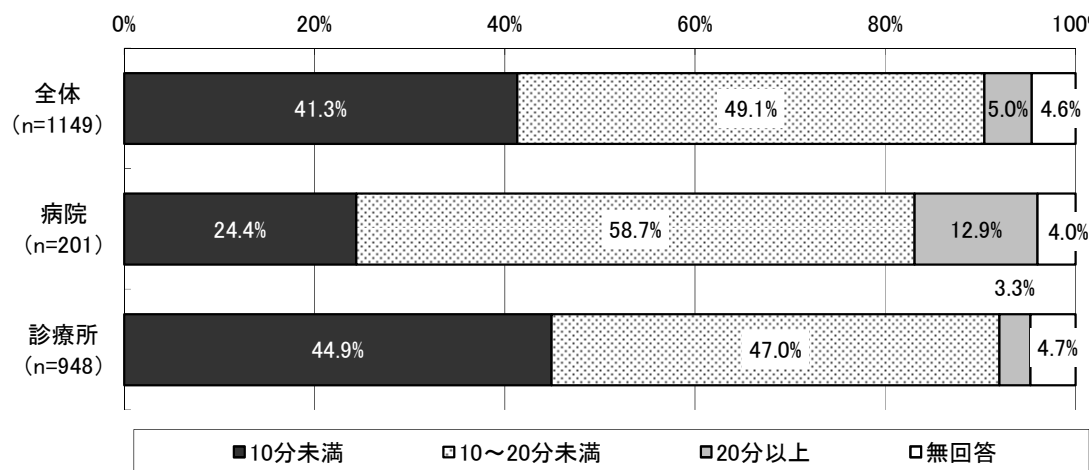
（注）医師の平均指導時間の初回の指導時間と2回目以降の指導時間のいずれについても記入のあった1,096施設を集計対象とした。

2) 医師の平均指導時間（2回目以降の指導）

患者に対する1回あたりの医師の平均指導時間（2回目以降の指導）別施設割合についてみると、「10～20分未満」（49.1%）が最も多く、次いで「10分未満」（41.3%）、「20分以上」（5.0%）という順であった。

施設種類別にみると、病院では「10～20分未満」（58.7%）が6割近くと最も多く、次いで「10分未満」（24.4%）、「20分以上」（12.9%）であり、医師の2回目以降の指導時間は平均12.0分（中央値10.0）であった。診療所でも「10～20分未満」（47.0%）が最も多いが「10分未満」（44.9%）も4割を超えた。また、診療所の医師の2回目以降の指導時間は平均8.7分（中央値10.0）であった。

図表 21 患者に対する1回あたりの医師の平均指導時間（2回目以降の指導）別施設割合



図表 22 患者に対する1回あたりの医師の平均指導時間（2回目以降の指導）

（単位：分）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,096	9.3	5.6	10.0
病院	193	12.0	7.2	10.0
診療所	903	8.7	5.1	10.0

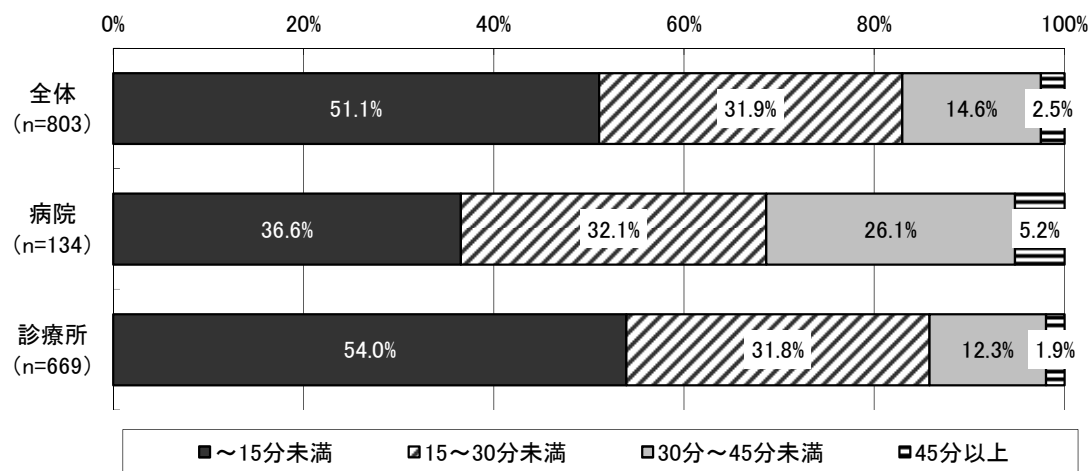
（注）医師の平均指導時間の初回の指導時間と2回目以降の指導時間のいずれも記入のあった1,096施設を集計対象とした。

3) 看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）

患者に対する 1 回あたりの看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）別施設割合についてみると、「～15 分未満」（51.1%）が最も多く、次いで「15～30 分未満」（31.9%）、「30～45 分未満」（14.6%）、「45 分以上」（2.5%）という順であった。

施設種類別にみると、病院では「～15 分未満」（36.6%）が最も多く、次いで「15～30 分未満」（32.1%）、「30～45 分未満」（26.1%）であった。また、病院における、看護師・准看護師の初回の指導時間は平均 19.7 分（中央値 15.0）であった。診療所では「～15 分未満」（54.0%）が最も多く、次いで「15～30 分未満」（31.8%）、「30～45 分未満」（12.3%）、「45 分以上」（1.9%）であった。診療所における、看護師・准看護師の初回の指導時間は平均 14.8 分（中央値 10.0）であった。

図表 23 患者に対する 1 回あたりの看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）別施設割合（看護師・准看護師が初回の指導を実施している施設）



（注）看護師・准看護師の平均指導時間の初回の指導時間と 2 回目以降の指導時間のいずれも記入があった 1,002 施設のうち、「0 分」という回答の 199 施設を除外して集計対象とした。

図表 24 患者に対する 1 回あたりの看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）（「0」除く）

（単位：分）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	803	15.6	10.6	10.0
病院	134	19.7	12.4	15.0
診療所	669	14.8	10.1	10.0

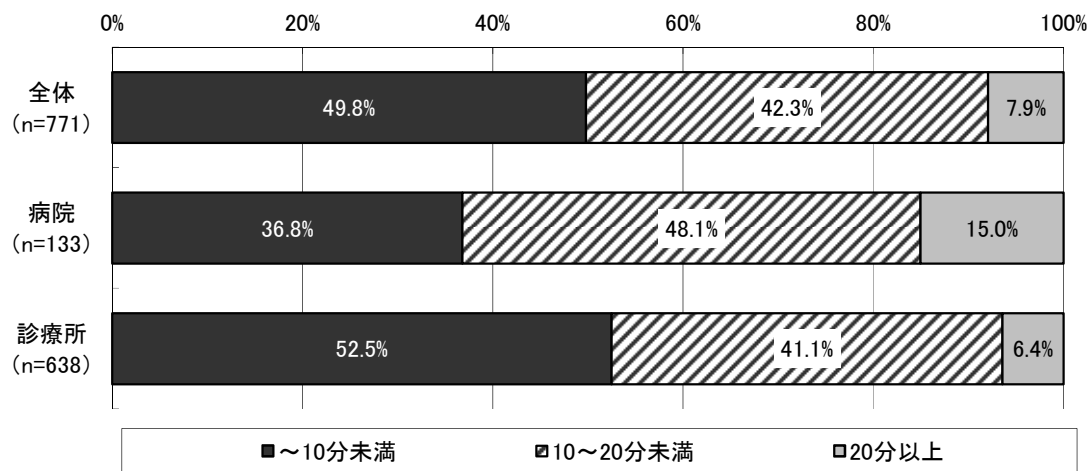
（注）看護師・准看護師の平均指導時間の初回の指導時間と 2 回目以降の指導時間のいずれも記入があり、このうち「0」という回答を除く 803 施設を集計対象とした。

4) 看護師・准看護師の平均指導時間（2回目以降の指導）

患者に対する1回あたりの看護師・准看護師の平均指導時間（2回目以降の指導）別施設割合についてみると、「～10分未満」（49.8%）が最も多く、次いで「10～20分未満」（42.3%）、「20分以上」（7.9%）であった。

施設種類別にみると、病院では「10～20分未満」（48.1%）が最も多く、次いで「～10分未満」（36.8%）、「20分以上」（15.0%）であり、看護師・准看護師の2回目以降の指導時間は平均11.1分（中央値10.0）であった。また、診療所では「～10分未満」（52.5%）が最も多く、次いで「10～20分未満」（41.1%）、「20分以上」（6.4%）であり、看護師・准看護師の2回目以降の指導時間は平均8.4分（中央値5.0）であった。

図表 25 患者に対する1回あたりの看護師・准看護師の平均指導時間（2回目以降の指導）別施設割合（看護師・准看護師が2回目以降の指導を実施している施設）



(注) 看護師・准看護師の平均指導時間の初回の指導時間と2回目以降の指導時間のいずれも記入があった1,002施設のうち、「0分」という回答の231施設を除外して集計対象とした。

図表 26 患者に対する1回あたりの看護師・准看護師の平均指導時間（2回目以降の指導）（「0」除く）

(単位：分)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	771	8.9	5.6	10.0
病院	133	11.1	6.9	10.0
診療所	638	8.4	5.2	5.0

(注) 看護師・准看護師の平均指導時間の初回の指導時間と2回目以降の指導時間のいずれも記入があり、このうち「0」という回答を除く771施設を集計対象とした。

5) その他の医療職の平均指導時間

患者に対する 1 回あたりのその他の医療職の平均指導時間（初回の指導）についてみると、その他の医療職が指導している 109 施設における、初回の指導時間は平均 10.4 分（中央値 5.0）であった。施設種類別にみると、病院では平均 14.9 分（中央値 10.0）、診療所では平均 9.1 分（中央値 5.0）であった。

次に 2 回目以降の平均指導時間についてみると、その他の医療職が指導している 96 施設における、2 回目以降の指導時間は平均 6.8 分（中央値 5.0）であった。施設種類別にみると、病院では平均 9.1 分（中央値 5.0）、診療所では平均 6.1 分（中央値 5.0）であった。

図表 27 患者に対する 1 回あたりのその他の医療職の平均指導時間（初回の指導）
（「0」除く）

（単位：分）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	109	10.4	9.2	5.0
病院	24	14.9	12.3	10.0
診療所	85	9.1	7.8	5.0

（注）その他の医療職の平均指導時間の初回の指導時間と 2 回目以降の指導時間のいずれも記入があり、このうち「0」という回答を除く 109 施設を集計対象とした。

図表 28 患者に対する 1 回あたりのその他の医療職の平均指導時間（2 回目以降の指導）
（「0」除く）

（単位：分）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	96	6.8	6.1	5.0
病院	21	9.1	7.7	5.0
診療所	75	6.1	5.4	5.0

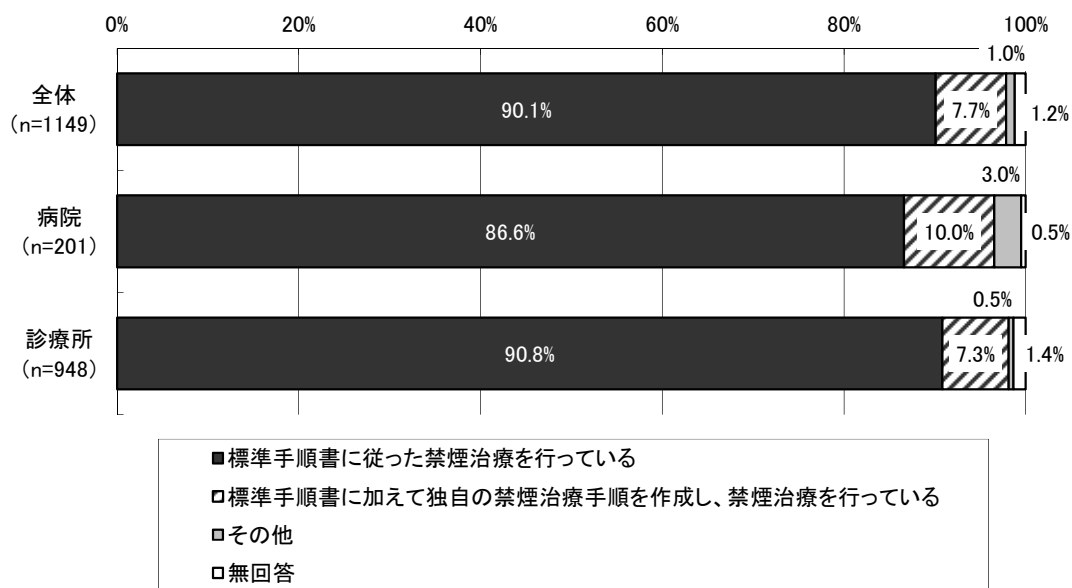
（注）その他の医療職の平均指導時間の初回の指導時間と 2 回目以降の指導時間のいずれも記入があり、このうち「0」という回答を除く 96 施設を集計対象とした。

⑧禁煙治療の内容

禁煙治療の内容についてみると、「標準手順書に従った禁煙治療を行っている」が90.1%、「標準手順書に加えて独自の禁煙治療手順を作成し、禁煙治療を行っている」が7.7%であった。

施設種類別にみると、病院では診療所と比較して「標準手順書に従った禁煙治療を行っている」の割合が4.2ポイント低く、「標準手順書に加えて独自の禁煙治療手順を作成し、禁煙治療を行っている」の割合が2.7ポイント高かった。

図表 29 禁煙治療の内容

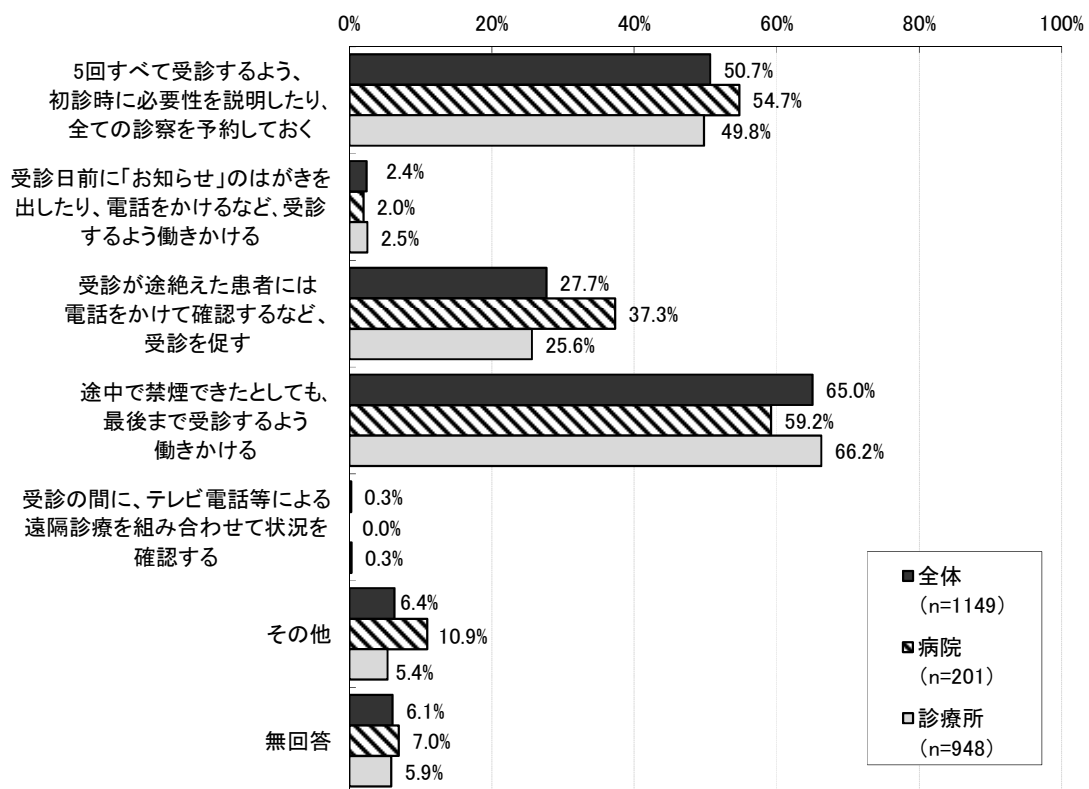


⑨5回の禁煙治療について途中の脱落を防ぐために行っている工夫

5回の禁煙治療について途中の脱落を防ぐために行っている工夫をみると、「途中で禁煙できたとしても、最後まで受診するよう働きかける」(65.0%)が最も多く、次いで「5回すべて受診するよう、初診時に必要性を説明したり、全ての診察を予約しておく」(50.7%)、「受診が途絶えた患者には電話をかけて確認するなど、受診を促す」(27.7%)という順であった。

施設種類別にみると、病院では診療所と比較して、「受診が途絶えた患者には電話をかけて確認するなど、受診を促す」が11.7ポイント、「5回すべて受診するよう、初診時に必要性を説明したり、全ての診察を予約しておく」が4.9ポイント高かった。

図表 30 5回の禁煙治療について途中の脱落を防ぐために行っている工夫（複数回答）

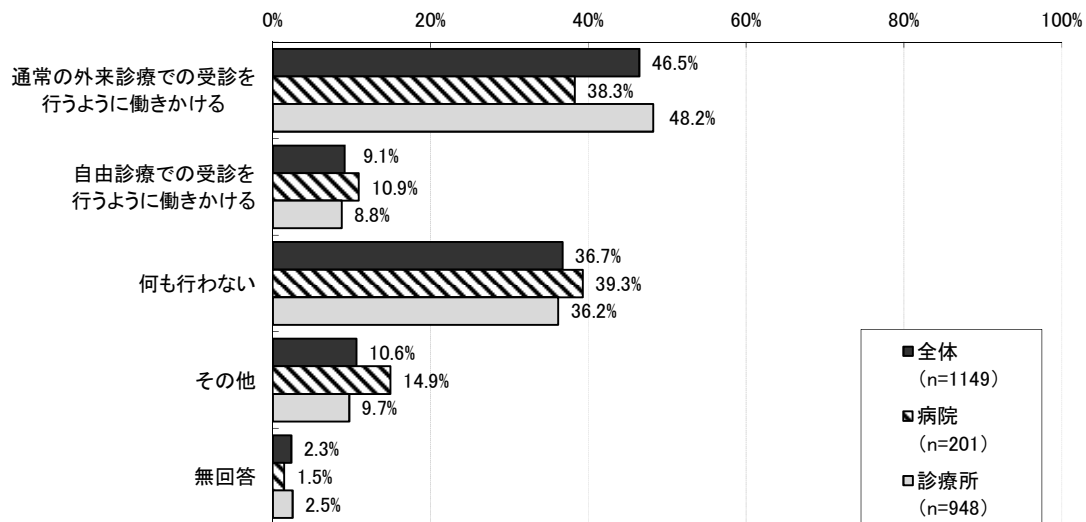


(注) 「その他」の内容として、「次回の予約を確定する」、「初診時に受診予定日を書いた紙を渡す」、「禁煙外来専用の診察券を作成し、次回受診時期を書き入れて渡す」、「5回受診することに同意する旨の署名をもらう」、「医師の十分な問診と電話での相談」、「外来の都度、資料を十分に提供し、自宅での禁煙維持に働きかける」、「禁煙外来以外の受診時にも声かけを行う」、「禁煙できなかったとしても、禁煙受診を継続するようアドバイスをして励ます」、「禁煙日記等を使い啓発」、「指導前に検査を行い、たばこによって汚れた肺の画像を見せる」、「肺年齢、動脈硬化検査を追加して実施し、モチベーションを維持させている」、「途中で吸ってしまっても叱らず、吸わない方法を話し合う」、「副作用で薬をやめて喫煙が始まらないよう、副作用が出た時は再診してもらうよう指導」、「保険適用のための条件、約束事について丁寧に説明する」、「前回より頑張ったこと、変化があったことを一緒に喜び、次回受診へつなげる」等が挙げられた。

⑩禁煙に失敗した患者への対応

禁煙に失敗した患者への対応についてみると、「通常の外来診療での受診を行うように働きかける」(46.5%)が最も多く、「自由診療での受診を行うよう働きかける」は1割に満たなかった。また、「何も行わない」が36.7%であった。

図表 31 禁煙に失敗した患者への対応（複数回答）



(注) 「その他」の内容として、「1年後に再チャレンジするよう働きかける」、「禁煙治療を失敗しても再度治療できることを1年後に郵送」、「通常の外来診察で定期的に声かけ」、「手紙・電話で連絡をする」、「必要に応じて自力禁煙におけるアドバイスをする」、「市販のニコチンガムなどを勧める」、「来院しない理由、失敗か成功かを必ず確認し、失敗の理由がわかれば記録し、次回の参考に行っている」等が挙げられた。

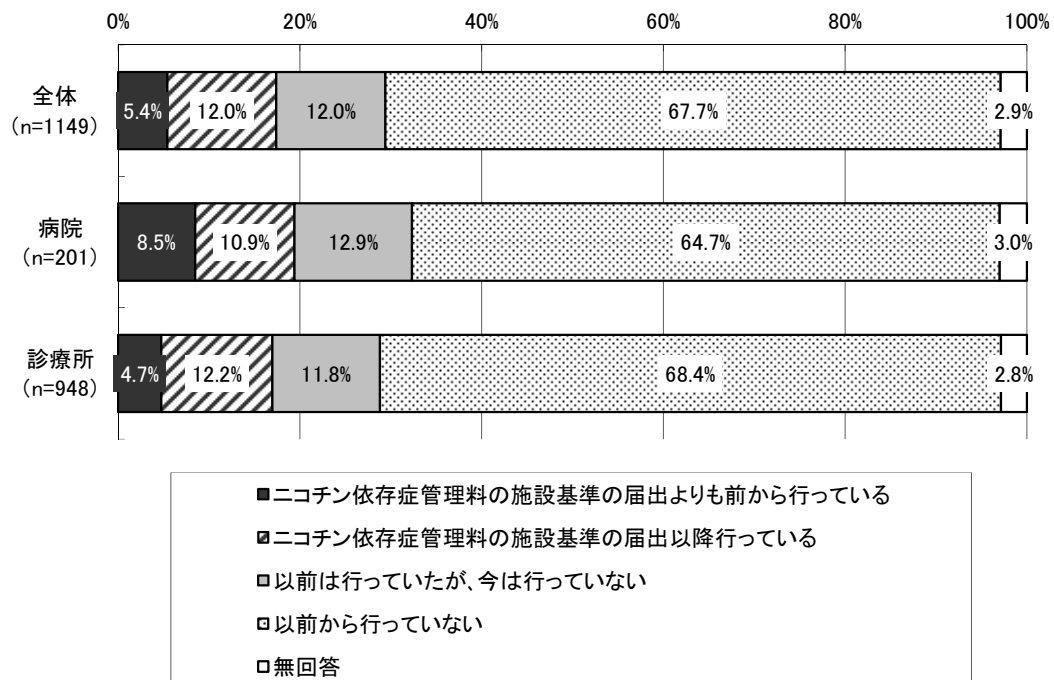
(3) 自由診療も含めた禁煙治療の取組状況等

①自由診療による禁煙治療の実施状況

自由診療による禁煙治療の実施状況についてみると、「以前から行っていない」(67.7%)が最も多かった。これに、「以前は行っていたが、今は行っていない」(12.0%)を合わせるとおよそ8割が自由診療による禁煙治療を実施していない。

一方、「ニコチン依存症管理料の施設基準の届出よりも前から行っている」が5.4%、「ニコチン依存症管理料の施設基準の届出以降に行っている」が12.0%であり、自由診療による禁煙治療を行っている施設は2割弱であった。

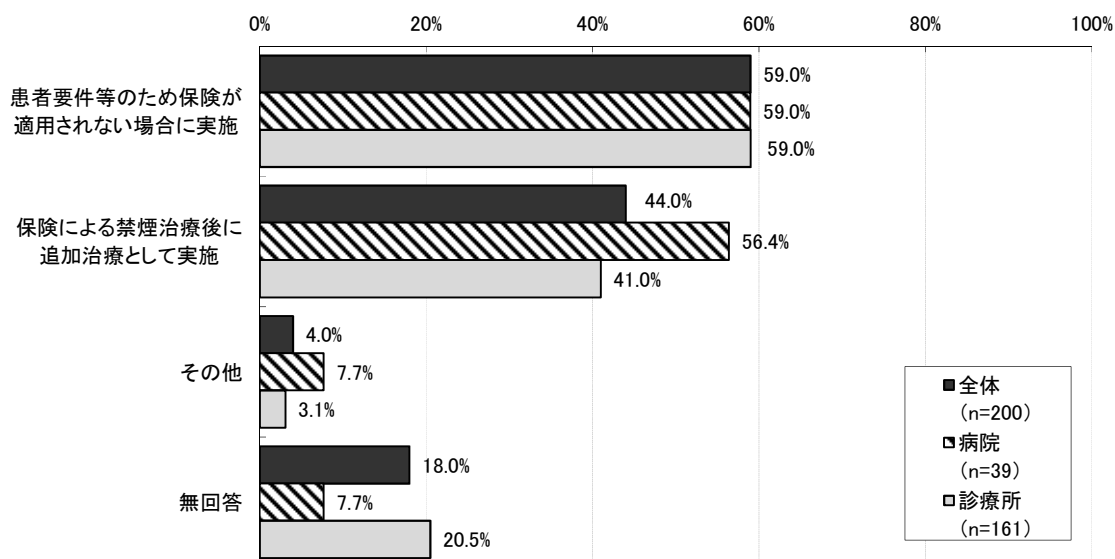
図表 32 自由診療による禁煙治療の実施状況



②自由診療による禁煙治療を行う場合

自由診療による禁煙治療を行う場合についてみると、「患者要件等のため保険が適用されない場合に実施」が59.0%、「保険による禁煙治療後に追加治療として実施」が44.0%であった。

図表 33 自由診療による禁煙治療を行う場合
(自由診療による禁煙治療を行っている施設、複数回答)



- (注)・「患者要件等のため保険が適用されない場合に実施」の「主な対象者」の内容として、「1年以内に保険診療で禁煙治療を行ったことがある患者」、「未成年者の場合」、「35歳以上でプリンクマン指数が200未満の患者」、「TDS点数が4点以下の患者」、「2週間ごとに受診できない患者が希望した場合」、「海外出張等、受診が確実にできない場合」、「バレニクリンを6か月服用する場合」、「保険適用で処方した薬が合わず、別の薬に変更になった患者」等が挙げられた。
- ・「その他」の内容として、「希望者にニコチネルで対応」、「患者自身が動機を高める目的で敢えて自由診療を希望」等が挙げられた。

③1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数

1) 保険適用（ニコチン依存症管理料の算定）患者数

平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数のうち、保険適用（ニコチン依存症管理料の算定）患者数をみると、1 施設あたり平均 2.8 人（中央値 2.0）であった。

施設種類別にみると、病院では平均 3.5 人（中央値 3.0）、診療所では平均 2.6 人（中央値 1.0）であった。

図表 34 平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数
 <保険適用（ニコチン依存症管理料の算定）患者数>

（単位：人）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,111	2.8	8.6	2.0
病院	201	3.5	3.9	3.0
診療所	910	2.6	9.3	1.0

（注）平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数<保険適用（ニコチン依存症管理料の算定）患者数>について記入があった 1,111 施設を集計対象とした。

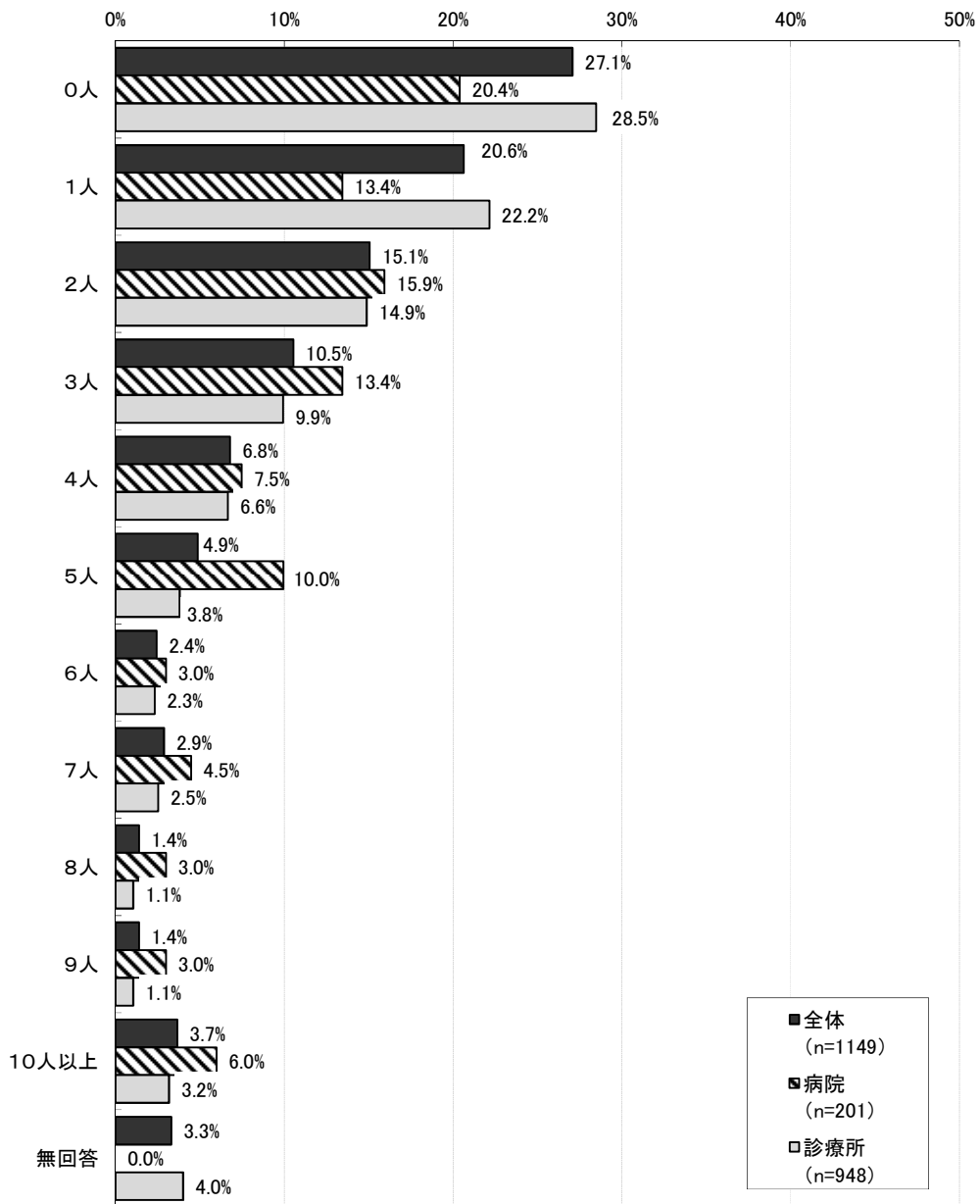
図表 35 平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数
 <保険適用（ニコチン依存症管理料の算定）患者数>（「0」除く）

（単位：人）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	800	3.9	9.9	2.0
病院	160	4.4	3.8	3.0
診療所	640	3.8	10.9	2.0

（注）平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数<保険適用（ニコチン依存症管理料の算定）患者数>について記入があった 1,111 施設のうち、「0」と回答した 311 施設を除外して集計対象とした。

図表 36 平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数
 <保険適用（ニコチン依存症管理料の算定）患者数>別施設分布



2) 自由診療の患者数

平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数のうち、自由診療の患者数をみると、1 施設あたり平均 0.1 人（中央値 0.0）であった。

病院、診療所のいずれにおいても自由診療の患者数の実績は少なかった（実績があった施設は病院が 2 施設、診療所が 13 施設であり、患者数の中央値は 1.0 人であった）。

図表 37 平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数
 <自由診療の患者数>

（単位：人）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	179	0.1	0.3	0.0
病院	36	0.1	0.2	0.0
診療所	143	0.1	0.3	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数<自由診療の患者数>について記入があった 179 施設を集計対象とした。

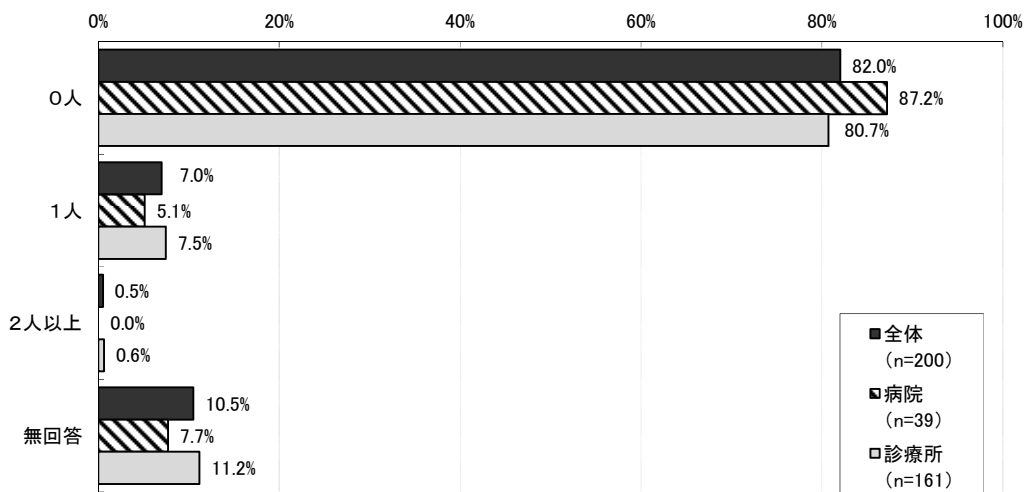
図表 38 平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数
 <自由診療の患者数>（「0」除く）

（単位：人）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	15	1.1	0.3	1.0
病院	2	1.0	-	1.0
診療所	13	1.1	0.3	1.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数<自由診療の患者数>について記入があった 179 施設のうち、「0」と回答した 164 施設を除外して集計対象とした。

図表 39 平成 29 年 6 月 1 か月間に禁煙治療を行った患者の延べ人数
 <自由診療の患者数>別施設分布

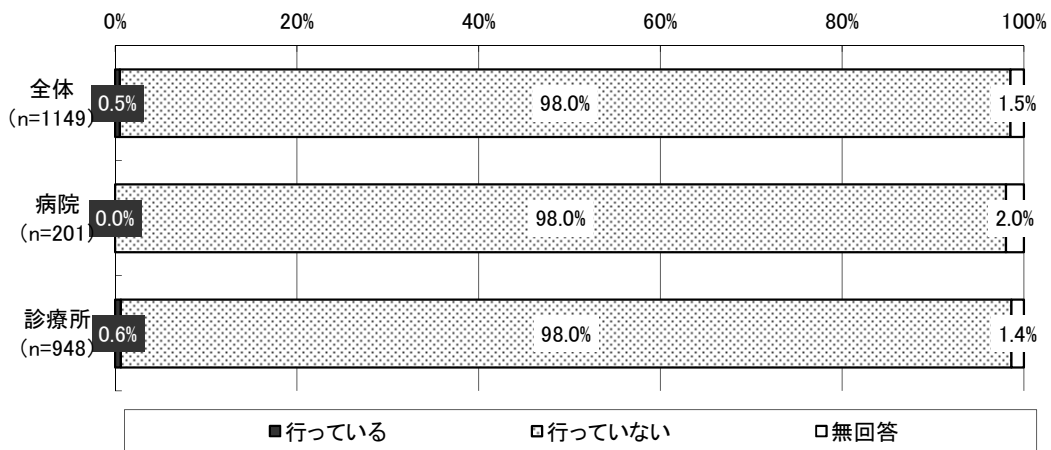


④テレビ電話等による遠隔診療を組み合わせた治療の実施状況

テレビ電話等による遠隔診療を組み合わせた治療の実施状況についてみると、「行っている」は0.5%（6施設、いずれも診療所）であった。

また、この6施設において、平成29年6月1か月に遠隔診療を組み合わせた治療を実施した対象患者数は、保険適用（ニコチン依存症管理料の算定）患者、自由診療患者ともに0人であった。

図表 40 テレビ電話等による遠隔診療を組み合わせた治療の実施状況



(4) ニコチン依存症管理料の算定対象となる禁煙治療等に関する考え等

①1年間におけるニコチン依存症管理料を算定した患者数等

1) ニコチン依存症管理料を算定した患者数

平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料を算定した患者数についてみると、算定患者がいなかった施設(「0人」)が61施設(全施設の5.3%)であった。

ニコチン依存症管理料の算定実績があった1,003施設では、1年間の算定患者数は1施設あたり平均13.5人(中央値10.0)であった。

図表 41 1年間のニコチン依存症管理料を算定した患者数別分布

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0人	1人～5人	6人～10人	11人～20人	21人以上	無回答
全体	1,149 100.0	61 5.3	274 23.8	238 20.7	305 26.5	186 16.2	85 7.4
病院	201 100.0	10 5.0	26 12.9	38 18.9	67 33.3	45 22.4	15 7.5
診療所	948 100.0	51 5.4	248 26.2	200 21.1	238 25.1	141 14.9	70 7.4

(注) 平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者数。

図表 42 1年間のニコチン依存症管理料の算定患者数

(単位：人)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,064	12.8	14.1	10.0
病院	186	15.4	12.6	13.0
診療所	878	12.2	14.3	9.0

(注) 平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者数について記入があった1,064施設を集計対象とした。

図表 43 1年間のニコチン依存症管理料の算定患者数(「0」を除く)

(単位：人)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,003	13.5	14.2	10.0
病院	176	16.3	12.4	14.0
診療所	827	13.0	14.4	9.0

(注) 平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者数について記入があった1,064施設のうち、「0」と回答した61施設を除外して集計対象とした。

2) 5回の禁煙治療を終了した患者数

平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料を算定した患者のうち、5回の禁煙治療を終了した患者数別分布をみると、「0人」(20.8%)が最も多く、次いで「6人～10人」(16.7%)、「1人」(14.2%)という順であった。

5回の禁煙治療を終了した患者数(1年間)は1施設あたり平均4.2人(中央値2.5)であった。施設種類別にみると、病院では平均6.6人(中央値5.0)、診療所では平均3.7人(中央値2.0)であった。

図表 44 5回の禁煙治療を終了した患者数別分布

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0人	1人	2人	3人	4人～5人	6人～10人	11人以上	無回答
全体	1,149 100.0	239 20.8	163 14.2	130 11.3	101 8.8	142 12.4	192 16.7	97 8.4	85 7.4
病院	201 100.0	29 14.4	12 6.0	20 10.0	12 6.0	22 10.9	52 25.9	39 19.4	15 7.5
診療所	948 100.0	210 22.2	151 15.9	110 11.6	89 9.4	120 12.7	140 14.8	58 6.1	70 7.4

(注) 平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者のうち、5回の禁煙治療をすべて終了した患者数。

図表 45 5回の禁煙治療を終了した患者数

(単位：人)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,064	4.2	5.7	2.5
病院	186	6.6	6.6	5.0
診療所	878	3.7	5.4	2.0

(注) 平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者数について記入があった1,064施設を集計対象とした。

図表 46 5回の禁煙治療を終了した患者数(「0」除く)

(単位：人)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	825	5.5	6.0	4.0
病院	157	7.8	6.5	6.0
診療所	668	4.9	5.7	3.0

(注) 平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者数について記入があった1,064施設のうち、5回の禁煙治療を終了した患者数が「0」と回答し239施設を除外して集計対象とした。

3) ニコチン依存症管理料を算定した患者における5回禁煙治療終了率

平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料を算定した患者がいた施設（n=1,003）における、5回禁煙治療終了率を算出した結果が以下である。「20%以上～40%未満」（26.8%）が最も多く、次いで「40%以上～60%未満」（20.3%）であった。また、「0%」という施設が17.7%ある一方で、「80%以上」という施設が8.4%あった。

施設種類別にみると、5回禁煙治療終了率は、病院が平均43.5%（中央値42.3）、診療所が平均32.7%（中央値28.6）であり、病院の方が高かった。

図表 47 ニコチン依存症管理料を算定した患者における5回禁煙治療終了率別分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0%	0%超～ 20%未満	20%以上 ～40%未 満	40%以上 ～60%未 満	60%以上 ～80%未 満	80%以上
全体	1,003	178	162	269	204	106	84
	100.0	17.7	16.2	26.8	20.3	10.6	8.4
病院	176	19	21	36	48	33	19
	100.0	10.8	11.9	20.5	27.3	18.8	10.8
診療所	827	159	141	233	156	73	65
	100.0	19.2	17.0	28.2	18.9	8.8	7.9

(注)・平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者が1人以上いた1,003施設を集計対象とした。

・5回禁煙治療終了率=5回の禁煙治療を終了した患者数/ニコチン依存症管理料を算定した患者数により算出した（以下、同様）。

図表 48 ニコチン依存症管理料を算定した患者における5回禁煙治療終了率

（単位：%）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,003	34.6	27.8	31.6
病院	176	43.5	27.8	42.3
診療所	827	32.7	27.5	28.6

(注) 平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者が1人以上いた1,003施設を集計対象とした。

4) 5回の禁煙治療終了者における禁煙成功率

平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料を算定した患者で、5回の禁煙治療を終了した患者のうち、治療終了時点で4週間以上の禁煙に成功した患者の占める割合（5回の禁煙治療終了者における禁煙成功率）別施設分布をみると、「100%」（68.5%）が7割近くを占めた。

施設種類別にみると、100%という施設の割合は、病院では51.0%、診療所では72.6%であった。また、病院では平均87.3%（中央値100.0）、診療所では89.6%（中央値100.0）であった。

図表 49 5回禁煙治療終了者における禁煙成功率別施設分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0%以上～10%未満	10%以上～20%未満	20%以上～30%未満	30%以上～40%未満	40%以上～50%未満	50%以上～60%未満	60%以上～70%未満	70%以上～80%未満	80%以上～90%未満	90%以上～100%未満	100%
全体	825	21	0	4	8	5	37	49	35	70	31	565
	100.0	2.5	0.0	0.5	1.0	0.6	4.5	5.9	4.2	8.5	3.8	68.5
病院	157	1	0	0	1	2	6	17	12	27	11	80
	100.0	0.6	0.0	0.0	0.6	1.3	3.8	10.8	7.6	17.2	7.0	51.0
診療所	668	20	0	4	7	3	31	32	23	43	20	485
	100.0	3.0	0.0	0.6	1.0	0.4	4.6	4.8	3.4	6.4	3.0	72.6

（注）・平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者で5回の禁煙治療終了者が1人以上いた825施設を集計対象とした。

・禁煙成功率＝禁煙に成功した患者数／5回の禁煙治療終了者数により算出した（以下、同様）。

図表 50 5回禁煙治療終了者における禁煙成功率

（単位：%）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	825	89.1	21.4	100.0
病院	157	87.3	17.2	100.0
診療所	668	89.6	22.3	100.0

（注）平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者で5回の禁煙治療終了者が1人以上いた825施設を集計対象とした。

5) ニコチン依存症管理料を算定した患者における禁煙率

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日までの 1 年間にニコチン依存症管理料を算定した患者が 1 人以上いた 1,003 施設について禁煙率別施設分布をみると、「100%」（17.7%）が最も多く、次いで「～70%未満」（17.6%）、「～60%未満」（16.0%）であった。

施設種類別にみると、病院は平均 63.3%（中央値 65.2）、診療所は平均 64.0%（中央値 64.7）であった。

図表 51 ニコチン依存症管理料を算定した患者における禁煙率別施設分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	10% 未満	～20% 未満	～30% 未満	～40% 未満	～50% 未満	～60% 未満	～70% 未満	～80% 未満	～90% 未満	～ 100% 未満	100%
全体	1,003	43	21	46	58	71	160	177	118	107	24	178
	100.0	4.3	2.1	4.6	5.8	7.1	16.0	17.6	11.8	10.7	2.4	17.7
病院	176	4	6	4	10	18	26	36	26	22	5	19
	100.0	2.3	3.4	2.3	5.7	10.2	14.8	20.5	14.8	12.5	2.8	10.8
診療所	827	39	15	42	48	53	134	141	92	85	19	159
	100.0	4.7	1.8	5.1	5.8	6.4	16.2	17.0	11.1	10.3	2.3	19.2

（注）・平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日までの 1 年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者が 1 人以上いた 1,003 施設を集計対象とした。

・（5 回禁煙治療終了時の禁煙者＋治療途中中止時の禁煙者）／ニコチン依存症管理料を算定した患者数により算出した（以下、同様）。

図表 52 ニコチン依存症管理料を算定した患者における禁煙率

（単位：%）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,003	63.8	26.5	64.9
病院	176	63.3	23.6	65.2
診療所	827	64.0	27.1	64.7

（注）平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日までの 1 年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者が 1 人以上いた 1,003 施設を集計対象とした。

②1 年間におけるニコチン依存症管理料の平均継続回数

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日までの 1 年間の平均継続回数別施設分布をみると、「3 回以上～4 回未満」(44.5%) が最も多く、次いで「2 回以上～3 回未満」(25.8%)、「4 回以上」(24.0%) という順であった。また、平均継続回数が「2 回未満」という施設は 5.7% であった。

施設種類別にみると、病院は平均 3.6 回(中央値 3.6)、診療所は平均 3.2 回(中央値 3.3) であった。

図表 53 ニコチン依存症管理料の平均継続回数別施設分布

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	2 回未満	2 回以上～ 3 回未満	3 回以上～ 4 回未満	4 回以上
全体	1,003	57	259	446	241
	100.0	5.7	25.8	44.5	24.0
病院	176	3	31	85	57
	100.0	1.7	17.6	48.3	32.4
診療所	827	54	228	361	184
	100.0	6.5	27.6	43.7	22.2

(注)・平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日までの 1 年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者が 1 人以上いた 1,003 施設を集計対象とした。

・ニコチン依存症管理料の 1 年間の延べ算定回数／ニコチン依存症管理料の「初回」の算定回数により算出した(以下、同様)。

図表 54 ニコチン依存症管理料の平均継続回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,003	3.3	0.9	3.3
病院	176	3.6	0.8	3.6
診療所	827	3.2	0.9	3.3

(注)平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日までの 1 年間にニコチン依存症管理料の「初回」を算定した患者が 1 人以上いた 1,003 施設を集計対象とした。

③ニコチン依存症管理料を算定した患者数と年齢別構成割合

1,044 施設における、各 1 か月間にニコチン依存症管理料の算定を開始した合計患者数は平成 27 年 6 月が 2,511 人であるのに対し、平成 28 年 6 月は 2,311 人と 200 人減少している。年齢別構成割合をみると、34 歳以下の患者の割合は 14.4%から 15.8%へと 1.4 ポイント増加している。

施設種類別にみると、病院ではニコチン依存症管理料を算定した合計患者数は平成 27 年 6 月が 490 人であるのに対し平成 28 年 6 月が 512 人となっており、増加している。しかし、34 歳以下の患者の割合はいずれも 8.4%で割合に変化はみられなかった。診療所では合計患者数は平成 27 年 6 月が 2,021 人であるのに対し平成 28 年 6 月が 1,799 人と大きく減少しているが、34 歳以下の患者の割合は 15.9%から 17.9%へと 2.0 ポイント増加している。

図表 55 各 1 か月間にニコチン依存症管理料の算定を開始した患者の合計患者数と年齢別構成割合（全体、n=1,044）

	平成 27 年 6 月		平成 28 年 6 月	
	合計人数(人)	構成割合(%)	合計人数(人)	構成割合(%)
34 歳以下	362	14.4	365	15.8
35～64 歳	1,659	66.1	1,469	63.6
65～74 歳	375	14.9	376	16.3
75 歳以上	115	4.6	101	4.4
合計	2,511	100.0	2,311	100.0

(注) 平成 27 年 6 月、平成 28 年 6 月の各 1 か月間にニコチン依存症管理料の算定を開始した患者数についてすべて記入があった施設を集計対象とした。

図表 56 各 1 か月間にニコチン依存症管理料の算定を開始した患者の合計患者数と年齢別構成割合（病院、n=193）

	平成 27 年 6 月		平成 28 年 6 月	
	合計人数(人)	構成割合(%)	合計人数(人)	構成割合(%)
～34 歳以下	41	8.4	43	8.4
35～64 歳	290	59.2	292	57.0
65～74 歳	118	24.1	137	26.8
75 歳以上～	41	8.4	40	7.8
合計	490	100.0	512	100.0

(注) 平成 27 年 6 月、平成 28 年 6 月の各 1 か月間にニコチン依存症管理料の算定を開始した患者数についてすべて記入があった施設を集計対象とした。

図表 57 各 1 か月間にニコチン依存症管理料の算定を開始した患者の合計患者数と
年齢別構成割合（診療所、n=851）

	平成 27 年 6 月		平成 28 年 6 月	
	合計人数(人)	構成割合(%)	合計人数(人)	構成割合(%)
～34 歳以下	321	15.9	322	17.9
35～64 歳	1,369	67.7	1,177	65.4
65～74 歳	257	12.7	239	13.3
75 歳以上～	74	3.7	61	3.4
合計	2,021	100.0	1,799	100.0

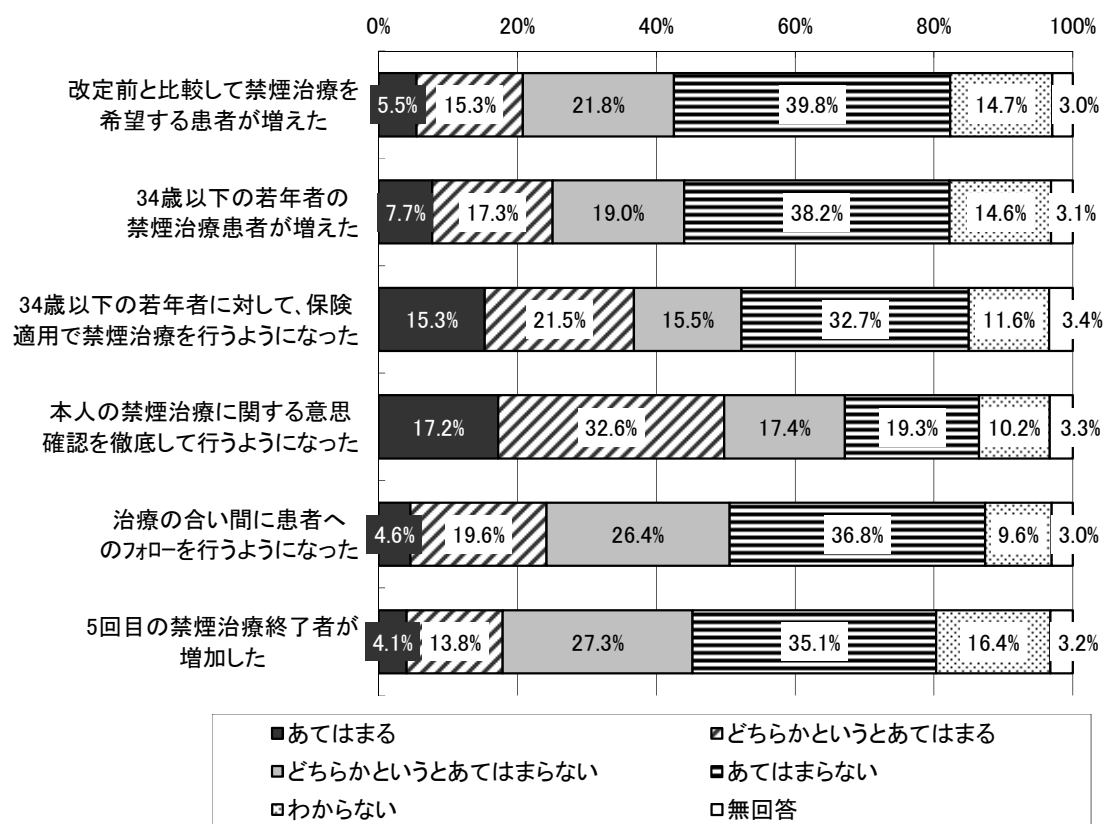
(注) 平成 27 年 6 月、平成 28 年 6 月の各 1 か月間にニコチン依存症管理料の算定を開始した患者数についてすべて記入があった施設を集計対象とした。

④平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等

平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等についてみると、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合は、「本人の禁煙治療に関する意思確認を徹底して行うようになった」(49.8%) が最も高く、次いで「34 歳以下の若年者に対して、保険適用で禁煙治療を行うようになった」(36.8%) であった。

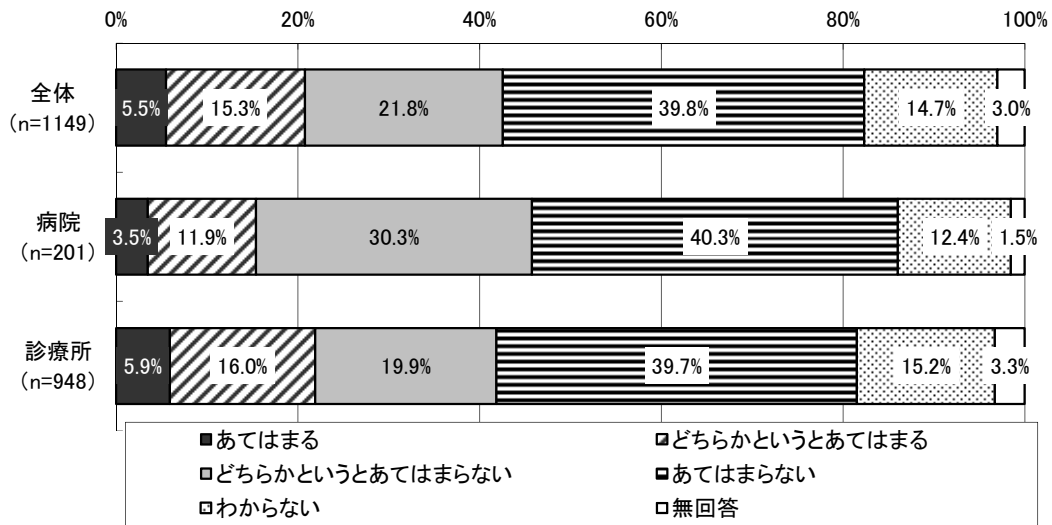
しかし、「本人の禁煙治療に関する意思確認を徹底して行うようになった」を除くと、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合よりも「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」を合わせた割合の方が高かった。

図表 58 平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等



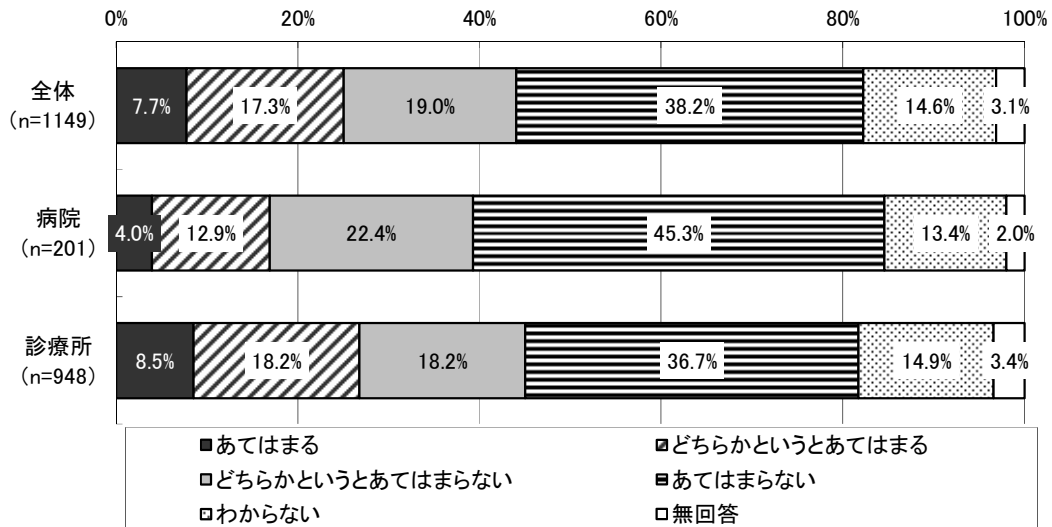
図表 59 平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等

1) 改定前と比較して禁煙治療を希望する患者が増えた



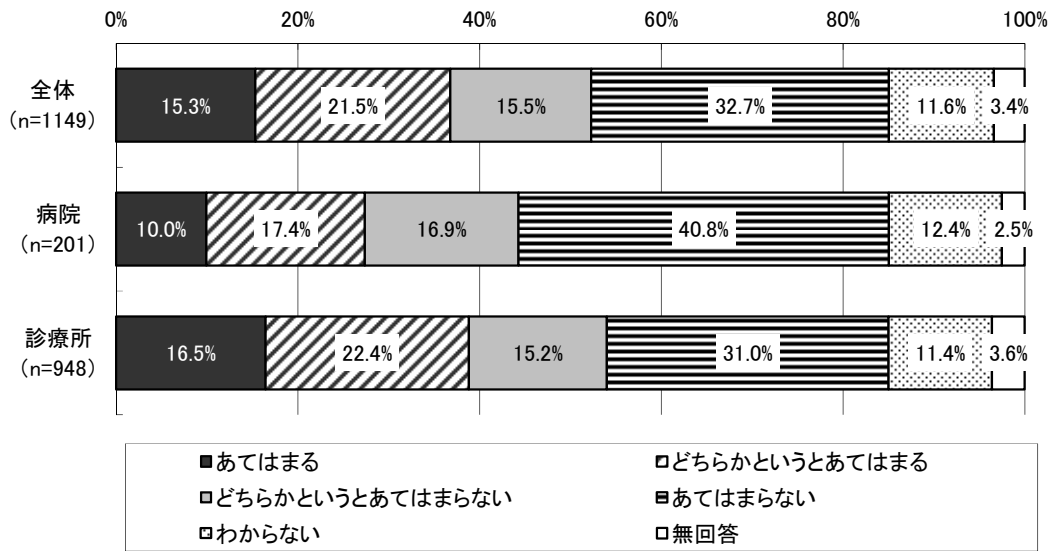
図表 60 平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等

2) ブリンクマン指数の要件を外したことで、34 歳以下の若年者の禁煙治療患者が増えた



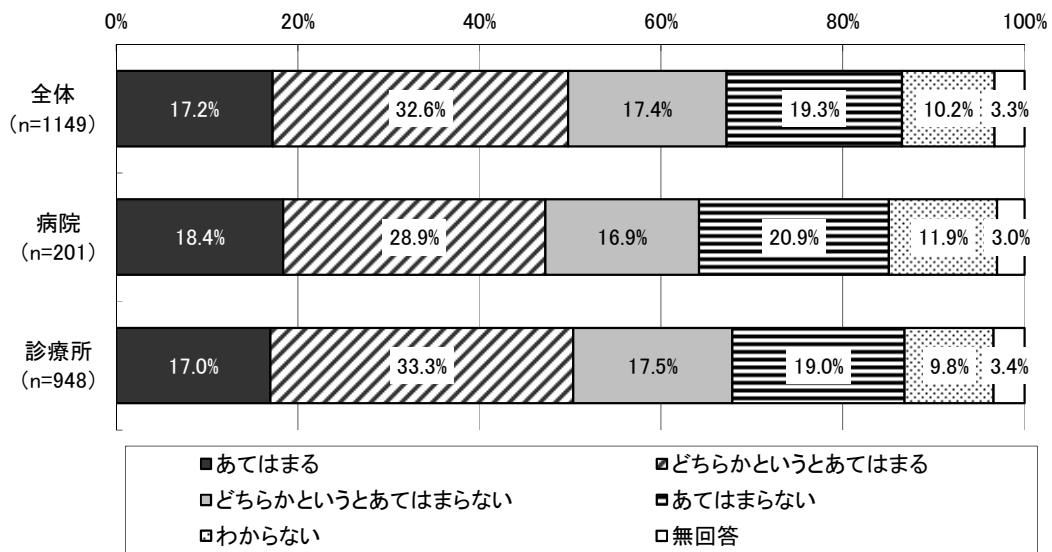
図表 61 平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等

3) 34 歳以下の若年者に対して、保険適用で禁煙治療を行うようになった



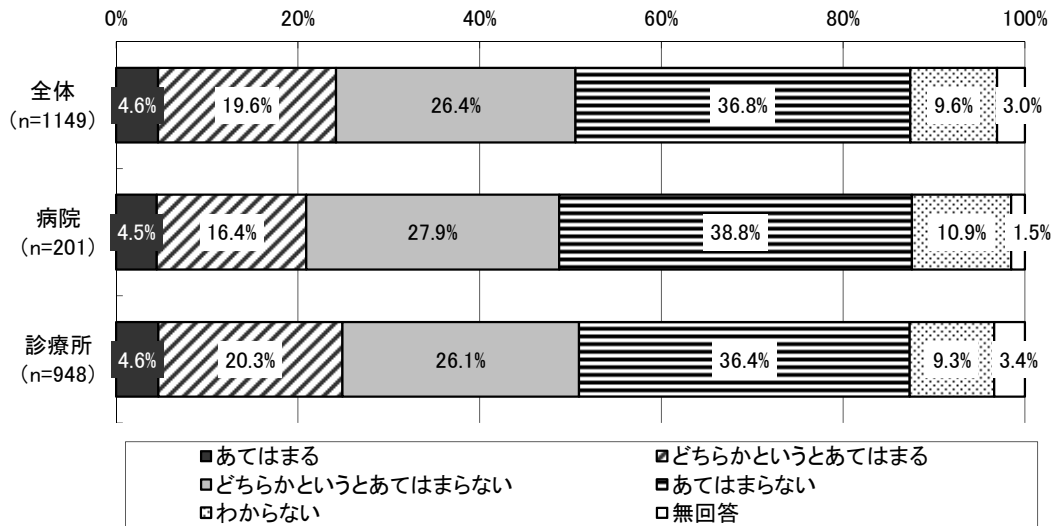
図表 62 平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等

4) 本人の禁煙治療に関する意思確認を徹底して行うようになった



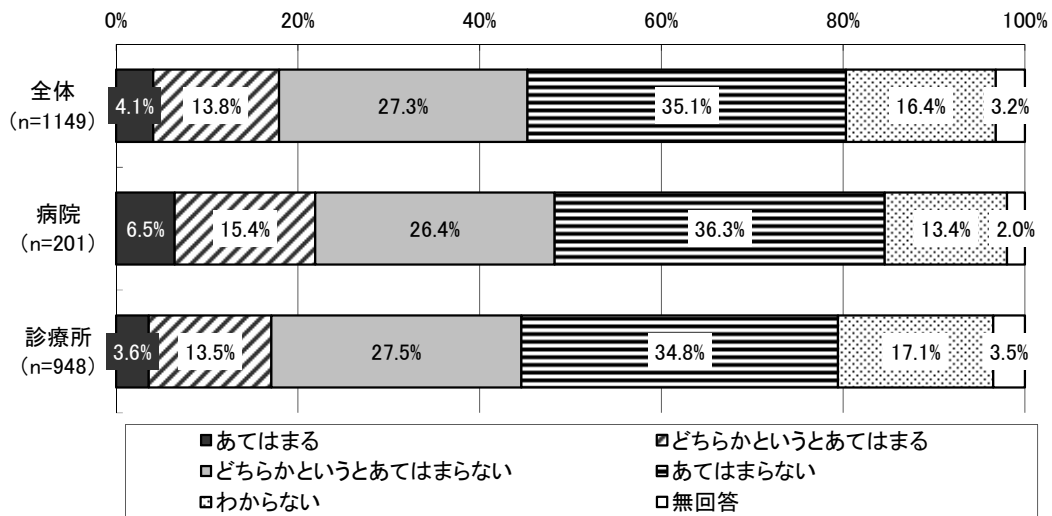
図表 63 平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等

5) 禁煙治療の継続率を高めるよう、治療と治療の合い間に患者へのフォローを行うようになった



図表 64 平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等

6) 5 回目の禁煙治療終了者が増加した



図表 65 平成 28 年度診療報酬改定による影響・効果等
(その他、自由記述式)

- 若年者で呼吸器疾患（喘息）を持つ患者に禁煙治療を行えるようになったことは、大変良いと感じている。
- 未成年者の喫煙の多くは親からの相談である。診療報酬改定によりニコチン依存症治療の保険診療の可能性が出てきたことは歓迎する。
- 若年者の禁煙治療に対する意識・決意は脆弱で 5 回終了するまで頑張るつもりがない者が多い。
- 薬が合わず、やむなく中断する場合もある。ニコチン依存症管理料の平均継続回数が 2 回未満の場合の減算制度は医療機関の禁煙外来離れにつながるのではないか。
- 確実に禁煙できそうな人を選ぶようになり、本来、禁煙を勧めた方が良いと思われる患者に対して積極的に働きかけをしなくなる可能性がある。
- 34 歳以下の若年者が保険適用になることについて一般に周知されていない。
- 平成 28 年度から患者が減少したが、一番の要因は煙の出ない電子たばこの普及だと思う。
- 診療報酬改定の影響は良くも悪くもあまり感じない。ただ、数年前と比較し、喫煙者、禁煙希望者の絶対数が減っているように感じる。
- 対象患者が少なく、診療報酬改定の影響なのかどうか判断できない。

3. 患者調査の結果

【調査対象等】

調査対象：施設調査の対象施設において、平成 28 年 6 月にニコチン依存症管理料の算定を開始した患者。

回答数：1,308 人

回答者：禁煙治療の担当者

(1) ニコチン依存症管理料算定開始時の状況

①患者の基本属性

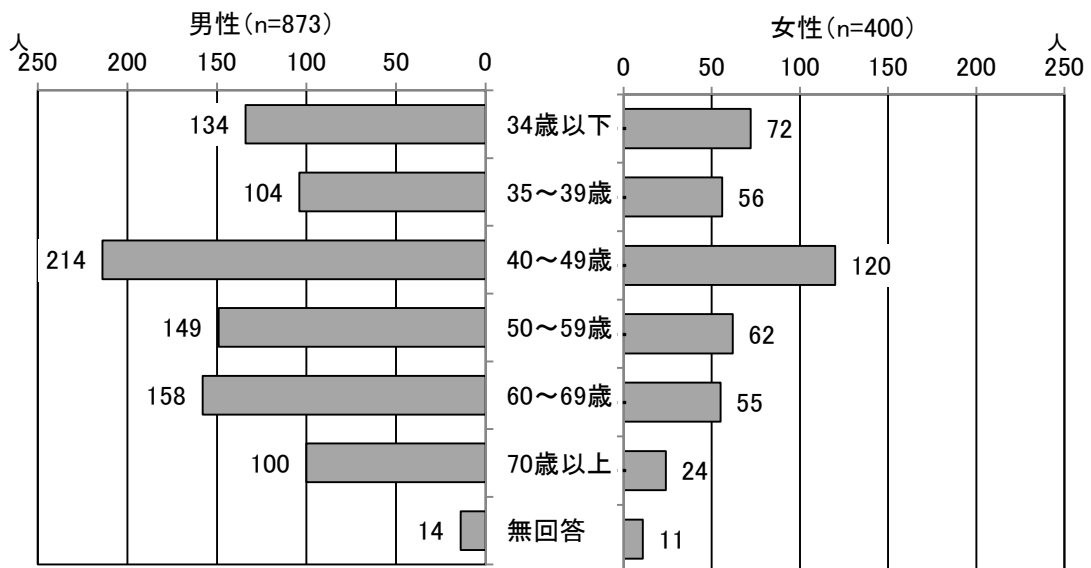
本調査で分析対象とした患者は、男性 873 人（全体の 66.7%）、女性 400 人（30.6%）、性別無回答 35 人（2.7%）で合計 1,308 人であった。

男性では「40～49 歳」（214 人）が最も多く、次いで「60～69 歳」（158 人）、「50～59 歳」（149 人）、「34 歳以下」（134 人）、「35～39 歳」（104 人）、「70 歳以上」（100 人）であった。女性では「40～49 歳」（120 人）が最も多く、次いで「34 歳以下」（72 人）、「50～59 歳」（62 人）、「35～39 歳」（56 人）、「60～69 歳」（55 人）、「70 歳以上」（24 人）であった。

40 歳未満の割合は、男性では 27.2%、女性では 32.0%となっているなど、男性よりも女性の方が年齢階級の低い患者の割合が高かった。

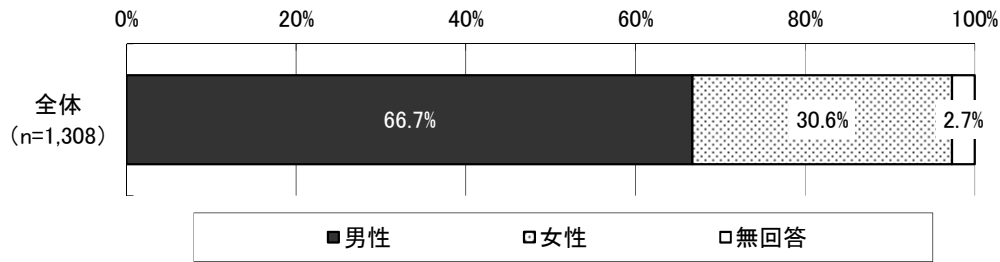
平均年齢をみても、男性は平均 50.1 歳（中央値 48.0）、女性は 46.5 歳（中央値 44.0）となっており、女性の方が低かった。

図表 66 性別及び年齢

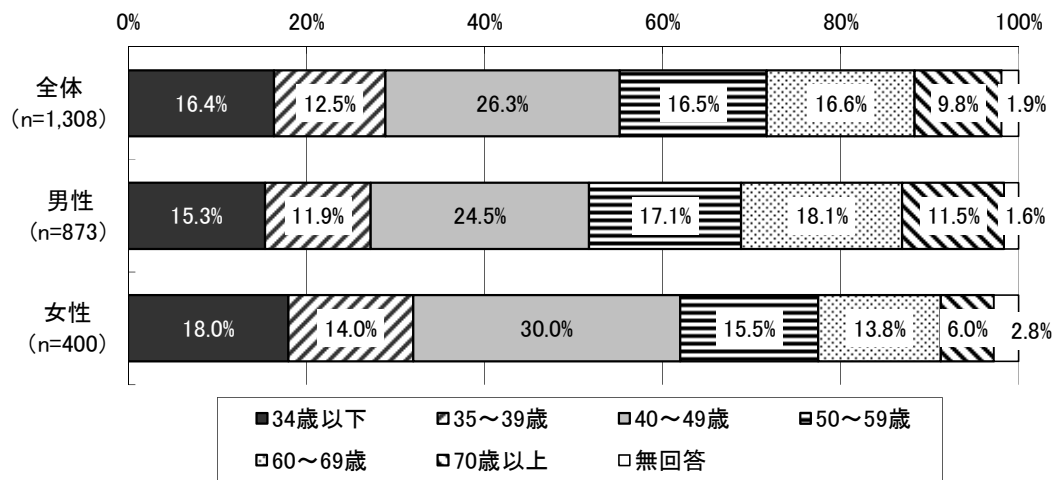


(注) 年齢は禁煙治療開始時の年齢。性別について回答のなかった 35 人を除いている。

図表 67 性別



図表 68 年齢構成別割合（男女別）



(注)「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

図表 69 年齢（男女別）

(単位：歳)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,283	49.0	14.5	47.0
男性	859	50.1	14.9	48.0
女性	389	46.5	13.5	44.0

(注)・年齢について記入のあった1,283人を集計対象とした。

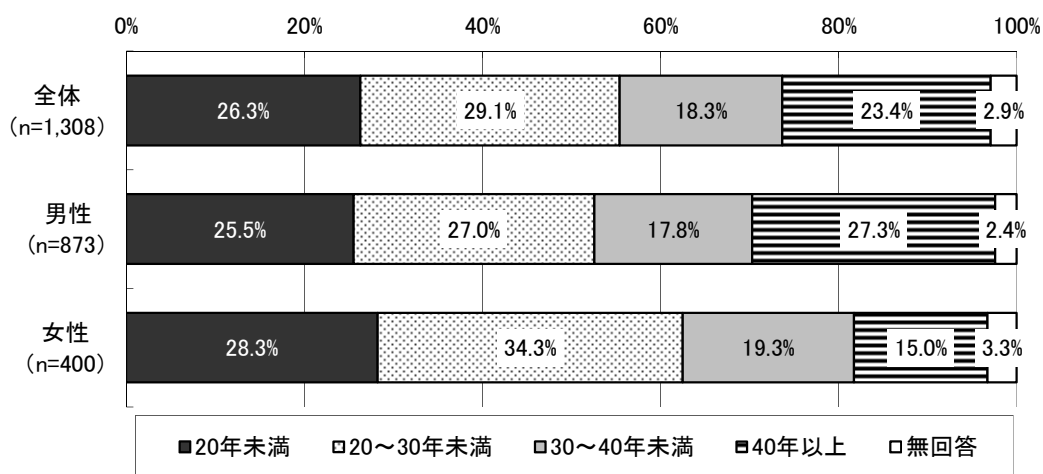
・「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

②ニコチン依存症管理料の算定開始時点における喫煙年数

ニコチン依存症管理料の算定開始時点における喫煙年数別割合についてみると、「20～30年未満」(29.1%)が最も多く、次いで「20年未満」(26.3%)、「40年以上」(23.4%)、「30～40年未満」(18.3%)であった。喫煙年数は平均27.5年(中央値25.0)であった。

男女別にみると、男性では「40年以上」(27.3%)が最も多く、女性と比較して「40年以上」の割合が12.3ポイント高かった。一方、女性では「20～30年未満」(34.3%)が最も多かった。男性の喫煙年数は平均28.6年(中央値27.0)、女性が25.0年(中央値24.0)であり、男性が女性よりも平均値ベースで3.6年長かった。

図表 70 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における喫煙年数別割合(男女別)



(注)「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

図表 71 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における喫煙年数(男女別)

(単位：年)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,270	27.5	13.4	25.0
男性	852	28.6	14.0	27.0
女性	387	25.0	11.5	24.0

(注)・喫煙年数について記入のあった1,270人を集計対象とした。

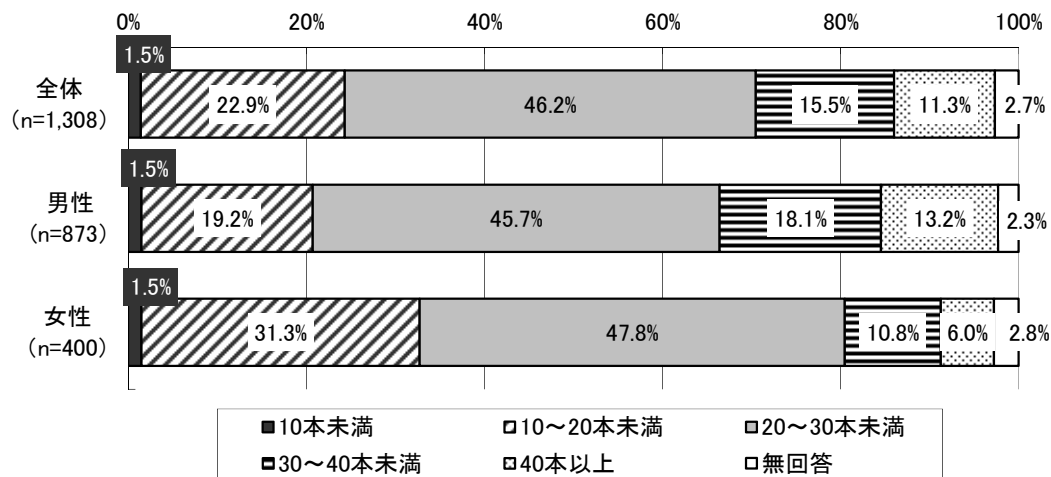
・「全体」には、性別について回答のなかった31人が含まれる。

③ニコチン依存症管理料の算定開始時点における1日あたりの喫煙本数

ニコチン依存症管理料の算定開始時点における1日あたりの喫煙本数別割合についてみると、「20～30本未満」(46.2%)が最も多く、次いで「10～20本未満」(22.9%)、「30～40本未満」(15.5%)、「40本以上」(11.3%)であった。1日あたりの喫煙本数は平均22.8本(中央値20.0)であった。

男女別にみると、男性は女性と比較して「10～20本未満」の割合が低く、「30～40本未満」、「40本以上」の割合が高かった。1日あたりの喫煙本数は、男性が平均23.9本(中央値20.0)で、女性が平均20.2本(中央値20.0)であり、男性が女性よりも平均値ベースで3.7本多かった。

図表 72 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における1日あたりの喫煙本数別割合(男女別)



(注)「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

図表 73 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における1日あたりの喫煙本数(男女別)

(単位：本)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,273	22.8	10.2	20.0
男性	853	23.9	10.7	20.0
女性	389	20.2	7.9	20.0

(注)・1日あたりの喫煙本数について記入のあった1,273人を集計対象とした。

・「全体」には、性別について回答のなかった31人が含まれる。

年齢階級別に 1 日あたりの喫煙本数をみると、「50～59 歳」が平均 24.0 本で最も多かった。60 歳未満の年齢階級では年齢階級が高くなるほど 1 日あたりの喫煙本数が多くなる傾向がみられた。ただし、いずれの年齢階級も中央値は 20.0 本であった。

図表 74 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における 1 日あたりの喫煙本数別割合
(年齢階級別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	10 本未満	10～20 本 未満	20～30 本 未満	30～40 本 未満	40 本以上	無回答
全体	1,308 100.0	19 1.5	299 22.9	604 46.2	203 15.5	148 11.3	35 2.7
34 歳以下	214 100.0	6 2.8	57 26.6	99 46.3	30 14.0	18 8.4	4 1.9
35～39 歳	164 100.0	0 0.0	35 21.3	80 48.8	20 12.2	19 11.6	10 6.1
40～49 歳	344 100.0	0 0.0	80 23.3	160 46.5	60 17.4	35 10.2	9 2.6
50～59 歳	216 100.0	3 1.4	39 18.1	99 45.8	41 19.0	29 13.4	5 2.3
60～69 歳	217 100.0	4 1.8	47 21.7	99 45.6	35 16.1	32 14.7	0 0.0
70 歳以上	128 100.0	3 2.3	35 27.3	59 46.1	15 11.7	13 10.2	3 2.3

(注)「全体」には、年齢について回答のなかった 25 人が含まれる。

図表 75 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における 1 日あたりの喫煙本数(年齢階級別)

(単位：本)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,273	22.8	10.2	20.0
34 歳以下	210	21.3	9.0	20.0
35～39 歳	154	23.1	9.6	20.0
40～49 歳	335	23.0	9.9	20.0
50～59 歳	211	24.0	10.3	20.0
60～69 歳	217	23.7	11.7	20.0
70 歳以上	125	21.9	10.2	20.0

(注)・1 日あたりの喫煙本数について記入のあった 1,273 人を集計対象とした。

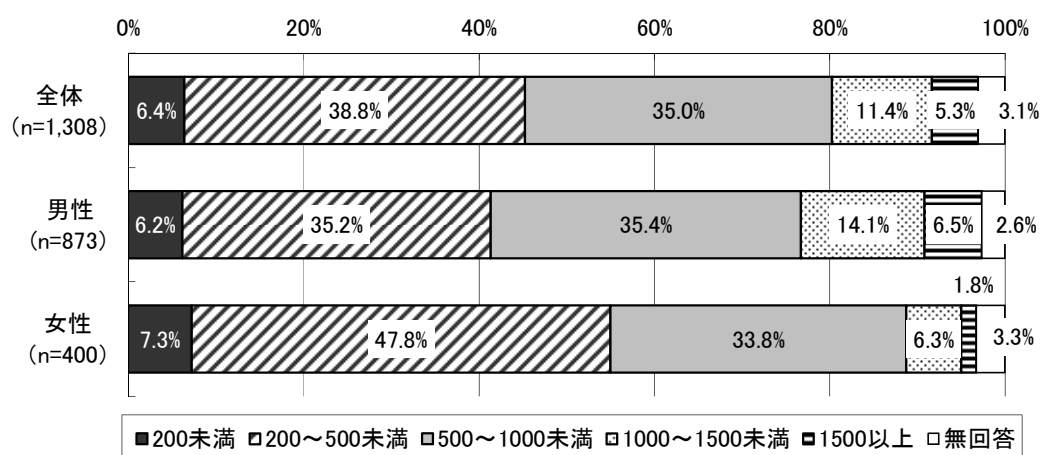
・「全体」には、年齢について回答のなかった 21 人が含まれる。

④ニコチン依存症管理料の算定開始時点におけるブリンクマン指数¹

ニコチン依存症管理料の算定開始時点におけるブリンクマン指数別割合についてみると、「200～500未満」(38.8%)が最も多く、次いで「500～1000未満」(35.0%)、「1000～1500未満」(11.4%)、「200未満」(6.4%)、「1500以上」(5.3%)であった。

男女別にみると、男性では女性と比較して、「200～500未満」の割合が低く、「1000～1500未満」、「1500以上」の割合が高かった。ブリンクマン指数は、男性が平均 689.2 (中央値 600.0)、女性が 502.0 (中央値 405.0) であり、平均値でも男性が女性より 187.2 高かった。

図表 76 ニコチン依存症管理料の算定開始時点におけるブリンクマン指数別割合 (男女別)



(注)「全体」には、性別について回答のなかった 35 人が含まれる。

図表 77 ニコチン依存症管理料の算定開始時点におけるブリンクマン指数 (男女別)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,268	634.1	448.3	505.0
男性	850	689.2	482.0	600.0
女性	387	502.0	312.1	405.0

(注)・喫煙年数と 1 日あたりの喫煙本数の両方について記入のあった 1,268 人を集計対象とした。

・「全体」には、性別について回答のなかった 31 人が含まれる。

¹ 「ブリンクマン指数」とは、1 日の喫煙本数に喫煙年数を乗じて得た数のことであり、35 歳以上の患者の場合、この数値が 200 以上であることがニコチン依存症管理料の算定対象患者要件の 1 つとなっている。

年齢階級別にみると、34歳以下では「200～500未満」（55.6%）が最も多く、次いで「200未満」（38.8%）であった。年齢階級が高くなるほど、「1000～1500未満」、「1500以上」の割合が高くなる傾向がみられた。

ブリンクマン指数について平均値をみると、34歳以下は223.0、35～39歳が398.8、40～49歳が541.0、50～59歳が773.9、60～69歳が983.4、70歳以上が1,024.5と、年齢階級が高くなるほど、ブリンクマン指数の平均値も高くなった。

図表 78 ニコチン依存症管理料の算定開始時点におけるブリンクマン指数別割合
(年齢階級別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	200未満	200～ 500未満	500～ 1000未満	1000～ 1500未満	1500以上	無回答
全体	1,308 100.0	84 6.4	508 38.8	458 35.0	149 11.4	69 5.3	40 3.1
34歳以下	214 100.0	83 38.8	119 55.6	7 3.3	0 0.0	0 0.0	5 2.3
35～39歳	164 100.0	0 0.0	123 75.0	26 15.9	2 1.2	1 0.6	12 7.3
40～49歳	344 100.0	0 0.0	170 49.4	144 41.9	17 4.9	3 0.9	10 2.9
50～59歳	216 100.0	0 0.0	37 17.1	124 57.4	42 19.4	7 3.2	6 2.8
60～69歳	217 100.0	0 0.0	32 14.7	115 53.0	35 16.1	35 16.1	0 0.0
70歳以上	128 100.0	0 0.0	17 13.3	36 28.1	49 38.3	23 18.0	3 2.3

(注)「全体」には、年齢について回答のなかった25人が含まれる。

図表 79 ニコチン依存症管理料の算定開始時点におけるブリンクマン指数（年齢階級別）

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,268	634.1	448.3	505.0
34歳以下	209	223.0	132.3	200.0
35～39歳	152	398.8	202.8	341.0
40～49歳	334	541.0	260.7	480.0
50～59歳	210	773.9	357.5	700.0
60～69歳	217	983.4	571.0	846.0
70歳以上	125	1,024.5	455.0	1,000.0

(注)・喫煙年数と1日あたりの喫煙本数の両方について記入のあった1,268人を集計対象とした。

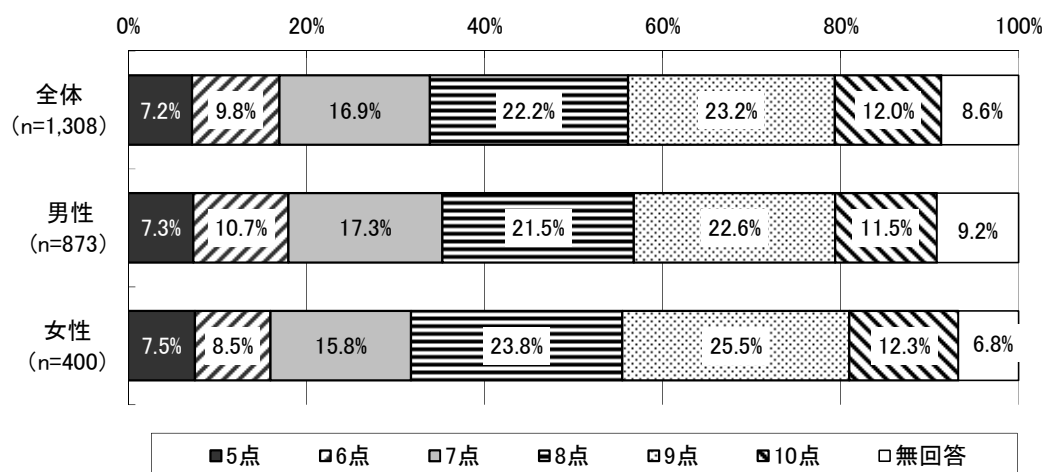
・「全体」には、年齢について回答のなかった21人が含まれる。

⑤ニコチン依存症管理料の算定開始時点における TDS 点数²

ニコチン依存症管理料の算定開始時点における TDS 点数別割合についてみると、「9 点」(23.2%) が最も多く、次いで「8 点」(22.2%)、「7 点」(16.9%)、「10 点」(12.0%)、「6 点」(9.8%)、「5 点」(7.2%) であった。

男女別にみると、TDS 点数は、男性が平均 7.8 点 (中央値 8.0)、女性が平均 7.9 点 (中央値 8.0) であった。

図表 80 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における TDS 点数別割合 (男女別)



(注)「全体」には、性別について回答のなかった 35 人が含まれる。

図表 81 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における TDS 点数 (男女別)

(単位：点)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,195	7.9	1.4	8.0
男性	793	7.8	1.5	8.0
女性	373	7.9	1.4	8.0

(注)・TDS 点数について記入のあった 1,195 人を集計対象とした。
・「全体」には、性別について回答のなかった 29 人が含まれる。

² 「TDS」とは、ニコチン依存症のスクリーニングテスト (Tobacco Dependence Screener) であり、10 項目の質問で該当するものが 5 項目以上 (TDS 点数が 5 点以上) であることが、ニコチン依存症管理料の算定対象患者要件の 1 つとなっている。

年齢階級別にみると、いずれの年齢階級も中央値は 8.0 点であった。

図表 82 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における TDS 点数別割合（年齢階級別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全体	1,308 100.0	94 7.2	128 9.8	221 16.9	291 22.2	304 23.2	157 12.0	113 8.6
34歳以下	214 100.0	8 3.7	19 8.9	35 16.4	53 24.8	59 27.6	19 8.9	21 9.8
35～39歳	164 100.0	10 6.1	14 8.5	29 17.7	40 24.4	31 18.9	28 17.1	12 7.3
40～49歳	344 100.0	27 7.8	34 9.9	56 16.3	81 23.5	80 23.3	45 13.1	21 6.1
50～59歳	216 100.0	17 7.9	25 11.6	31 14.4	41 19.0	57 26.4	24 11.1	21 9.7
60～69歳	217 100.0	20 9.2	22 10.1	41 18.9	45 20.7	48 22.1	25 11.5	16 7.4
70歳以上	128 100.0	12 9.4	11 8.6	24 18.8	27 21.1	23 18.0	13 10.2	18 14.1

（注）「全体」には、年齢について回答のなかった 25 人が含まれる。

図表 83 ニコチン依存症管理料の算定開始時点における TDS 点数（年齢階級別）

（単位：点）

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,195	7.9	1.4	8.0
34歳以下	193	8.0	1.3	8.0
35～39歳	152	8.0	1.5	8.0
40～49歳	323	7.9	1.5	8.0
50～59歳	195	7.9	1.5	8.0
60～69歳	201	7.8	1.5	8.0
70歳以上	110	7.7	1.5	8.0

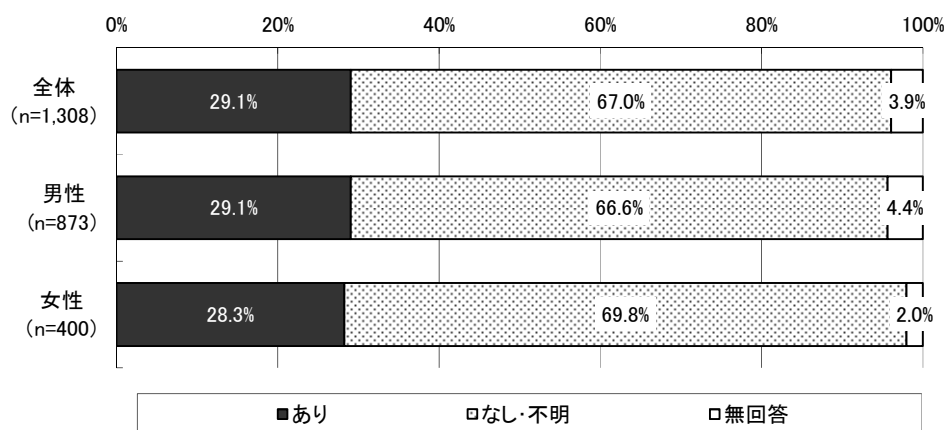
（注）・TDS 点数について記入のあった 1,195 人を集計対象とした。

・「全体」には、年齢について回答のなかった 21 人が含まれる。

⑥ニコチン依存症管理料の再算定³の有無

ニコチン依存症管理料の再算定の有無についてみると、「あり」が29.1%、「なし」が67.0%であった。

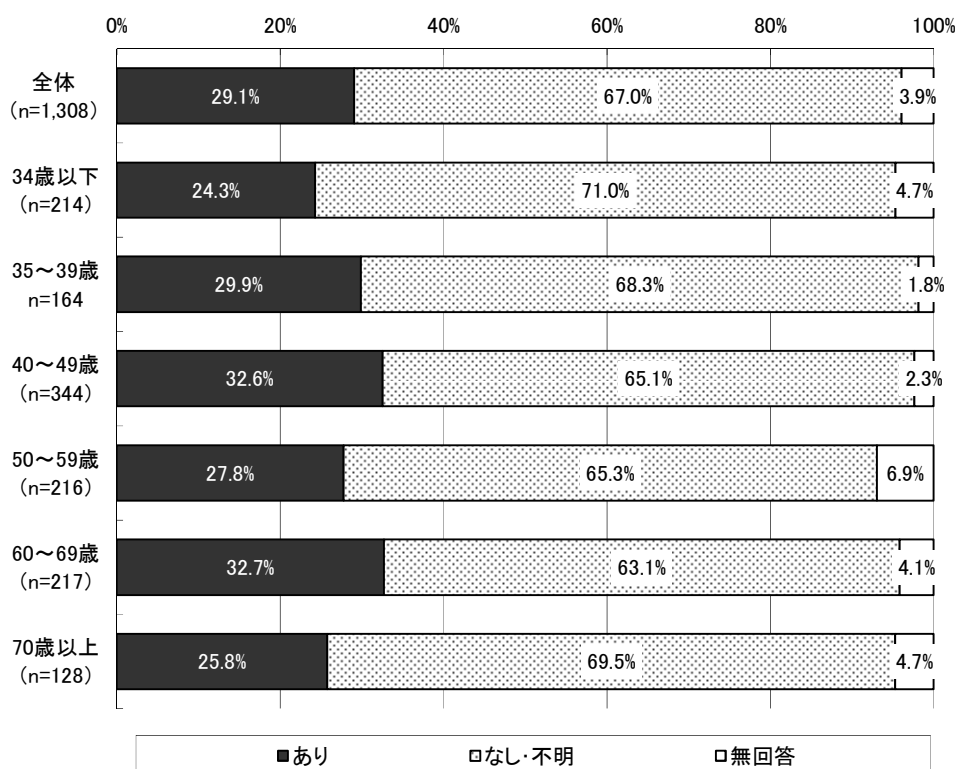
図表 84 ニコチン依存症管理料の再算定の有無（男女別）



(注)「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

年齢階級別にみると、40～49歳、60～69歳では「あり」の割合が3割を超えた。

図表 85 ニコチン依存症管理料の再算定の有無（年齢階級別）

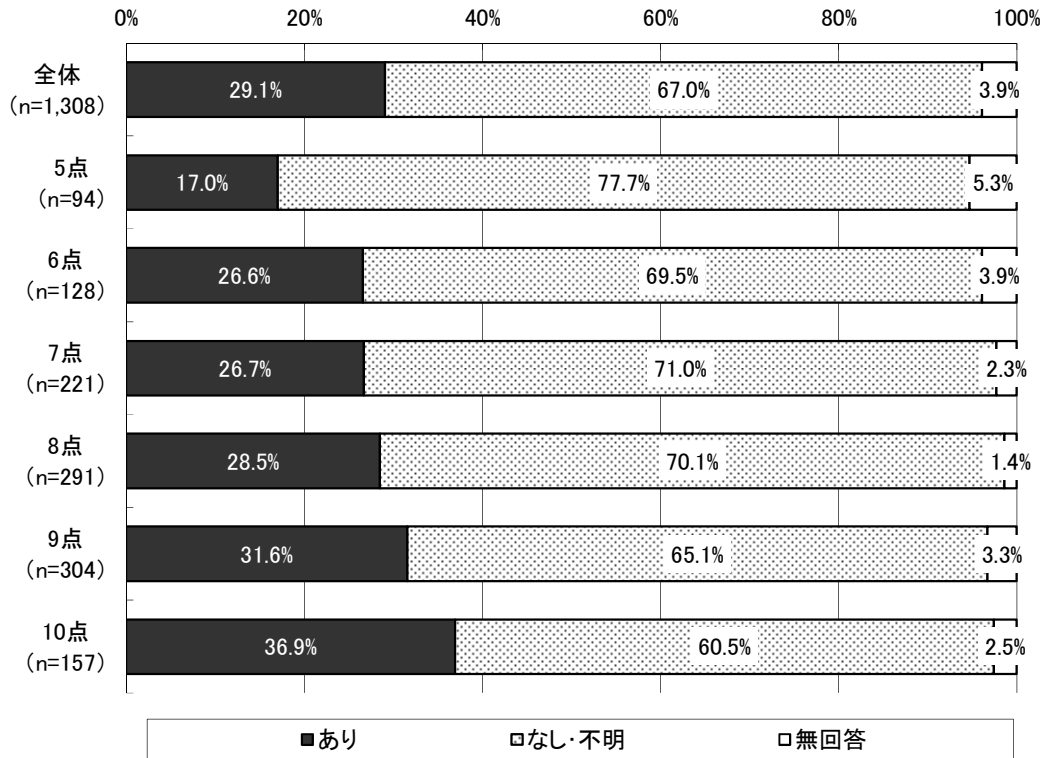


(注)「全体」には、年齢について回答のなかった25人が含まれる。

³ 「ニコチン依存症管理料の再算定の有無」では、平成28年6月より前に、当該患者がニコチン依存症管理料を算定したことがある（今回の禁煙治療を行った医療機関に限らない）かどうかを尋ねた結果である。

ニコチン依存症管理料の算定開始時点の TDS 点数別にみると、点数が高くなるほど、「あり」の割合が高くなる傾向がみられた。

図表 86 ニコチン依存症管理料の再算定の有無（TDS 点数別）



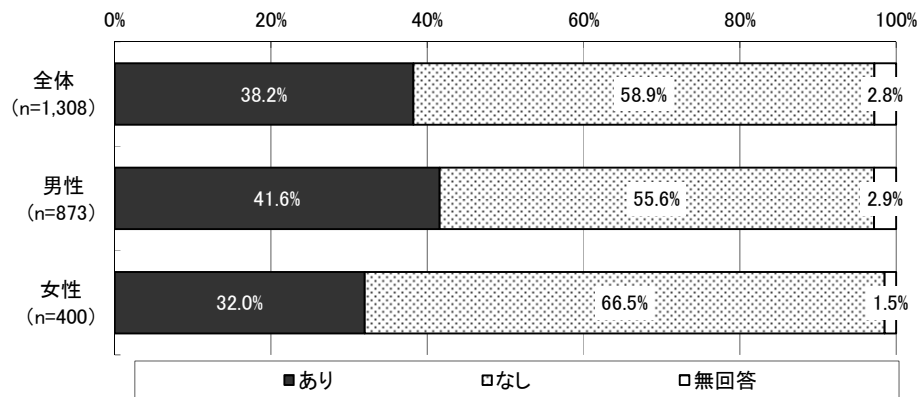
(注)「全体」には、TDS 点数について回答のなかった 113 人が含まれる。

⑦ニコチン依存症管理料算定開始時点における治療中の合併症の有無等

ニコチン依存症管理料算定開始時点における治療中の合併症の有無についてみると、「あり」が38.2%、「なし」が58.9%であった。

男女別にみると、合併症が「あり」という割合は、男性が41.6%、女性が32.0%であり、男性の方が女性よりも9.6ポイント高かった。

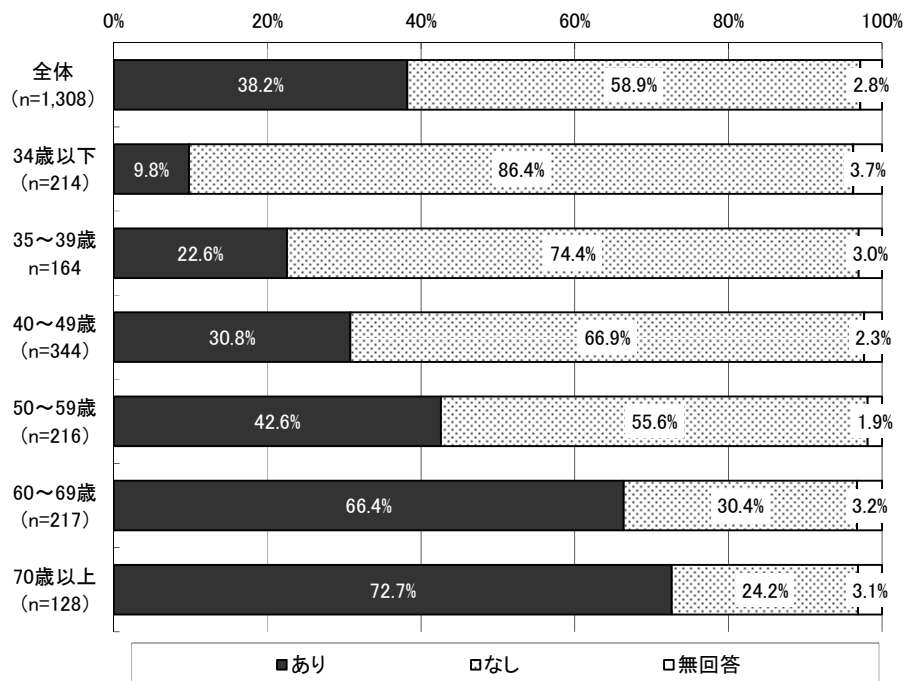
図表 87 ニコチン依存症管理料算定開始時点における治療中の合併症の有無（男女別）



(注)「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

年齢階級別に合併症の有無をみると、合併症が「あり」という割合は、年齢階級が高くなるほど、高かった。70歳以上では「あり」が7割を超えた。

図表 88 ニコチン依存症管理料算定開始時点における治療中の合併症の有無（年齢階級別）

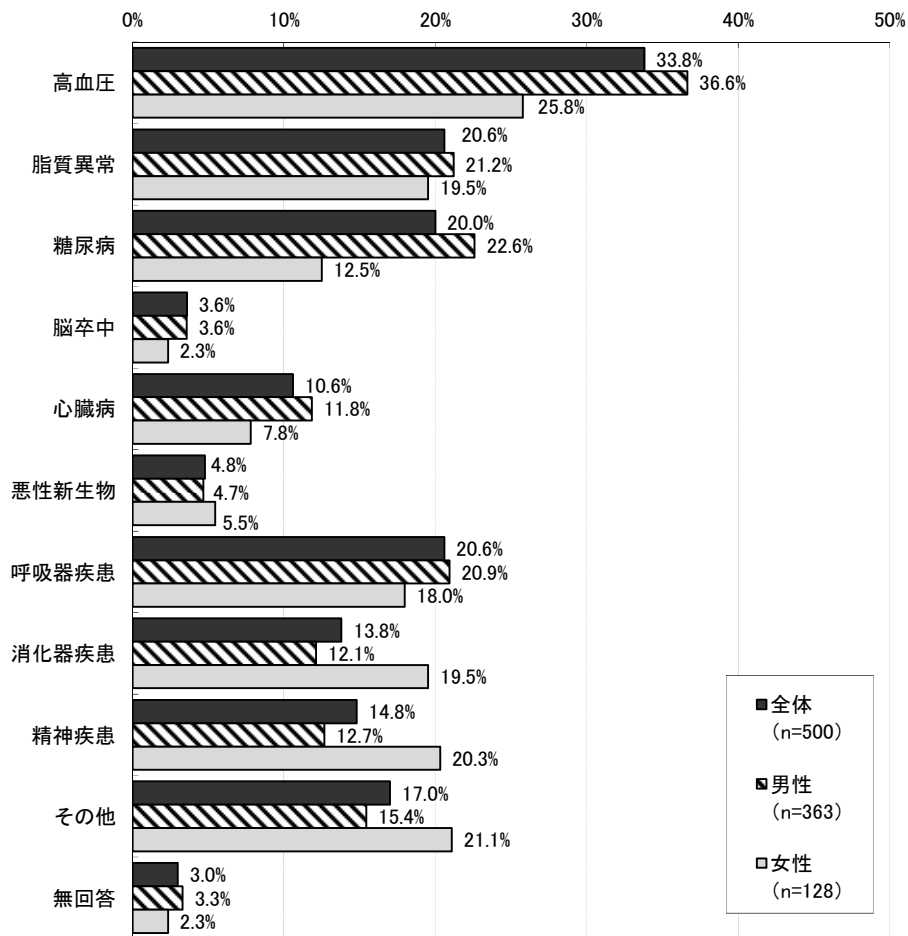


(注)「全体」には、年齢について回答のなかった25人が含まれる。

合併症が「あり」という患者について合併症の内容をみると、「高血圧」が 33.8%で最も多く、次いで「脂質異常」、「呼吸器疾患」（いずれも 20.6%）、「糖尿病」（20.0%）であった。

男女別にみると、女性と比較して男性での割合が特に高かったのは、「高血圧症」（10.8ポイントの差）、「糖尿病」（10.1ポイントの差）であった。一方、男性と比較して女性での割合が特に高かったのは、「精神疾患」（7.6ポイントの差）、「消化器疾患」（7.4ポイントの差）であった。

図表 89 ニコチン依存症管理料算定開始時点における治療中の合併症
（合併症のある患者、男女別、複数回答）



(注) 「全体」には、性別について回答のなかった9人が含まれる。

年齢階級別にみると、「高血圧」、「脂質異常」、「糖尿病」、「悪性新生物」は年齢階級が高いほど割合が高い傾向がみられた。一方、「精神疾患」は年齢階級が低いほど割合が高い傾向がみられた。

図表 90 ニコチン依存症管理料算定開始時点における治療中の合併症
(合併症のある患者、年齢階級別、複数回答)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	高血圧	脂質異常	糖尿病	脳卒中	心臓病	悪性新生物	呼吸器疾患	消化器疾患	精神疾患	その他	無回答
全体	500 100.0	169 33.8	103 20.6	100 20.0	18 3.6	53 10.6	24 4.8	103 20.6	69 13.8	74 14.8	85 17.0	15 3.0
34歳以下	21 100.0	0 0.0	0 0.0	2 9.5	1 4.8	1 4.8	0 0.0	3 14.3	3 14.3	8 38.1	4 19.0	3 14.3
35～39歳	37 100.0	2 5.4	3 8.1	3 8.1	0 0.0	1 2.7	0 0.0	2 5.4	5 13.5	12 32.4	10 27.0	2 5.4
40～49歳	106 100.0	22 20.8	17 16.0	14 13.2	1 0.9	11 10.4	3 2.8	24 22.6	19 17.9	27 25.5	18 17.0	6 5.7
50～59歳	92 100.0	34 37.0	22 23.9	19 20.7	1 1.1	9 9.8	2 2.2	17 18.5	13 14.1	12 13.0	19 20.7	1 1.1
60～69歳	144 100.0	69 47.9	42 29.2	40 27.8	8 5.6	12 8.3	11 7.6	33 22.9	17 11.8	10 6.9	18 12.5	1 0.7
70歳以上	93 100.0	42 45.2	19 20.4	21 22.6	5 5.4	19 20.4	8 8.6	24 25.8	10 10.8	3 3.2	15 16.1	2 2.2

(注)「全体」には、年齢について回答のなかった7人が含まれる。

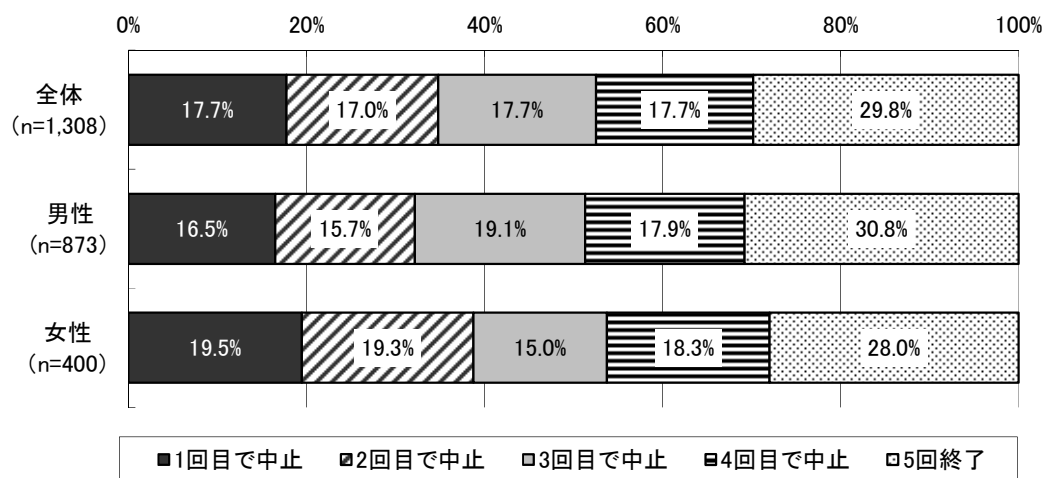
(2) 保険適用期間中の経過と追加治療の有無

①ニコチン依存症管理料の算定回数の状況

ニコチン依存症管理料算定回数(=治療回数)の状況についてみると、「5回終了」が29.8%で最も多く、「1回目で中止」、「3回目で中止」、「4回目で中止」がいずれも17.7%で続き、「2回目で中止」が17.0%であった。

男女別にみると、「5回終了」の割合は男性が30.8%、女性が28.0%で男性の方が2.8ポイント高かった。一方、「1回目で中止」、「2回目で中止」を合わせた割合は男性が32.2%、女性が38.8%と女性の方が6.6ポイント高かった。

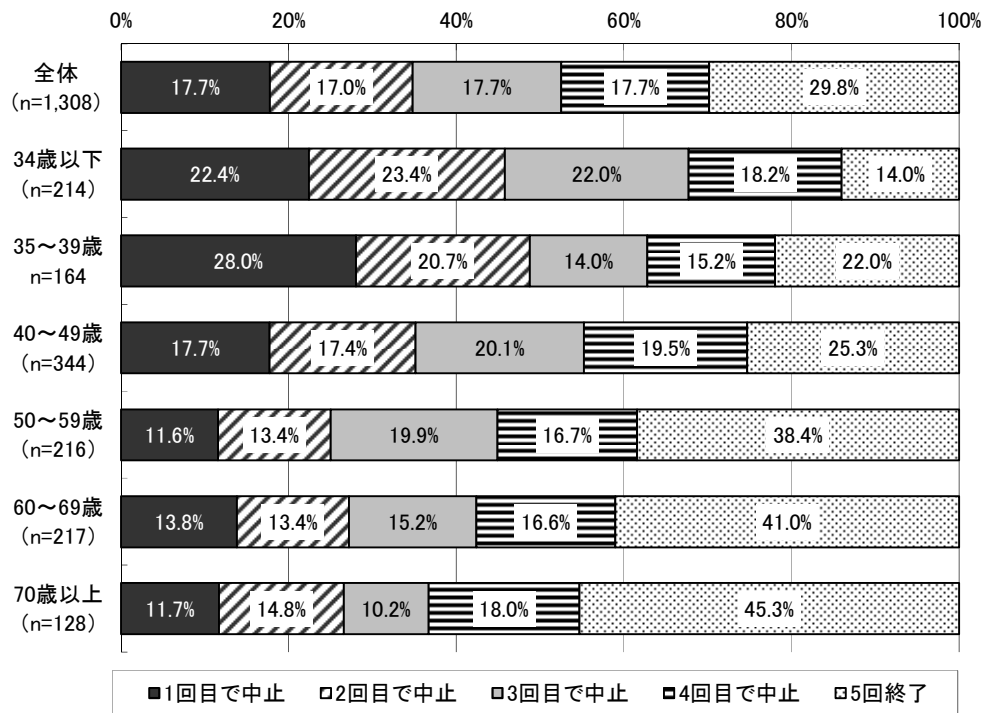
図表 91 ニコチン依存症管理料の算定回数の状況 (男女別)



(注)「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

年齢階級別にみると、「5 回終了」の割合は、年齢階級が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられた。「5 回終了」の割合は、34 歳以下が 14.0%、35～39 歳が 22.0%、40～49 歳が 25.3%で「全体」と比較して低かった。一方、60～69 歳では 41.0%、70 歳以上では 45.3%といずれも 4 割を超えた。

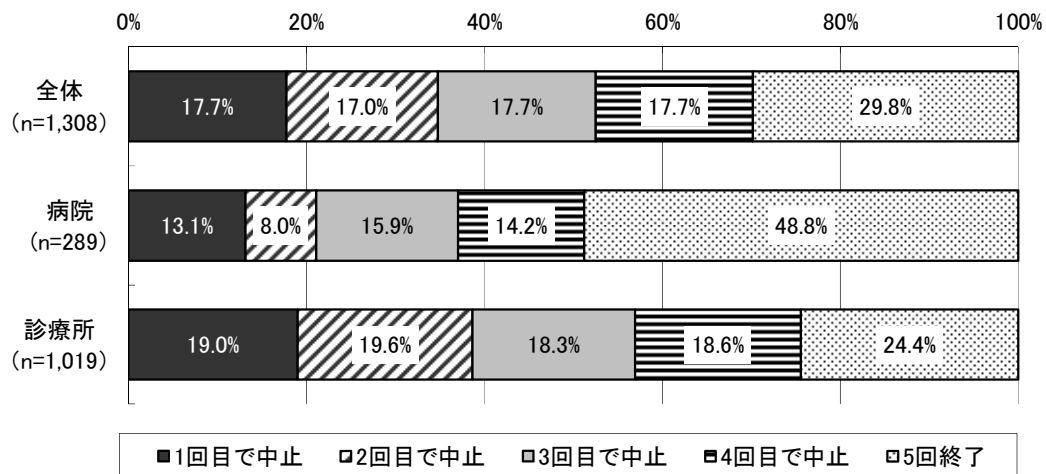
図表 92 ニコチン依存症管理料の算定回数の状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について回答のなかった 25 人が含まれる。

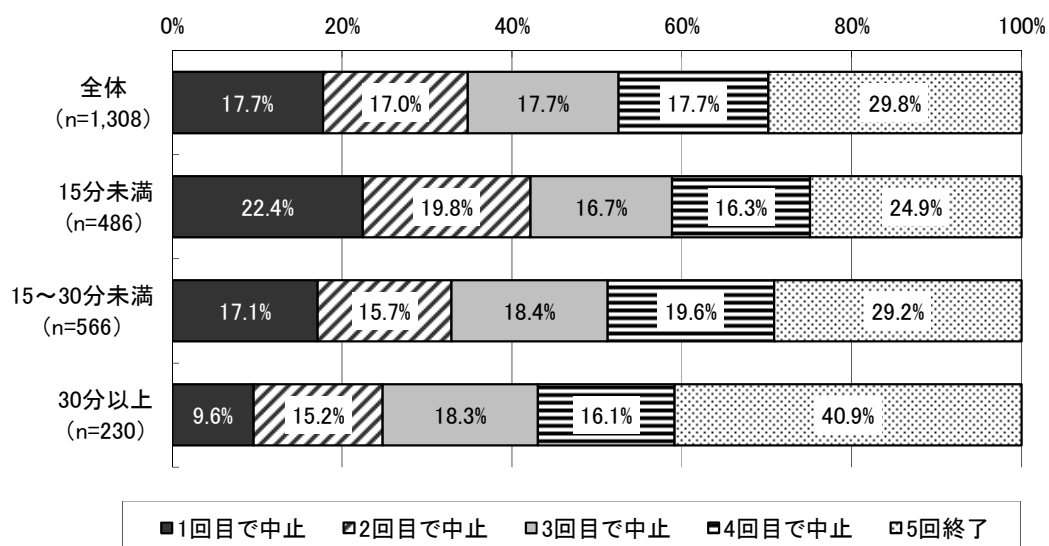
禁煙治療を受けた施設の種別別にみると、病院では診療所と比較して「5回終了」の割合が24.4ポイント高かった。

図表 93 ニコチン依存症管理料の算定回数の状況（禁煙治療を受けた施設の種別別）



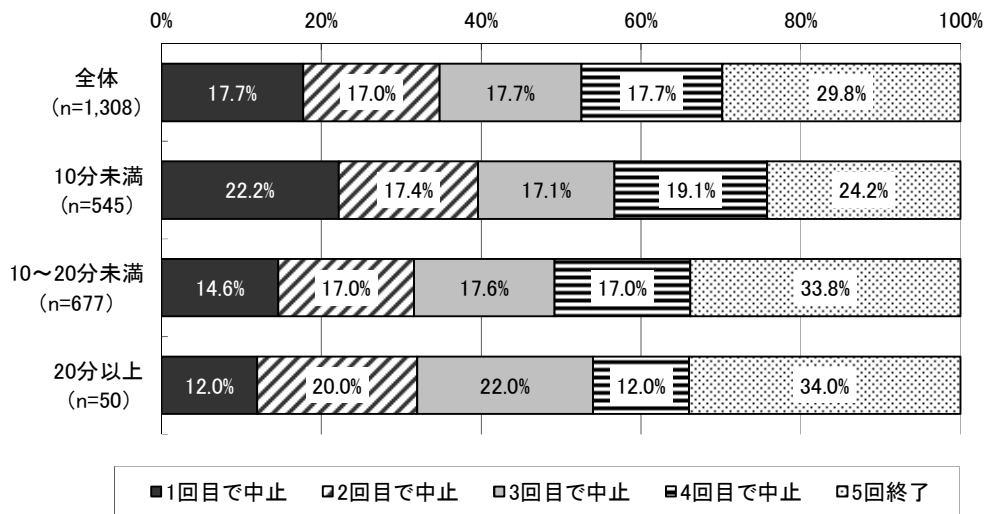
医師の1回あたりの平均禁煙指導時間（初回の指導）別にみると、指導時間が長いほど「5回終了」の割合が高くなる傾向がみられた。

図表 94 ニコチン依存症管理料の算定回数の状況
（医師の1回あたりの平均禁煙指導時間（初回の指導）別）



(注)・「全体」には、医師の1回あたりの平均禁煙指導時間について回答のなかった26人が含まれる。
・「医師の1回あたりの平均禁煙指導時間（初回の指導）」とは、当該患者が禁煙治療を受けた施設での、患者1人あたり1回の指導に係る平均指導時間（初回の指導）であり、当該患者に対する直接の指導時間ではない（以下、同様）。

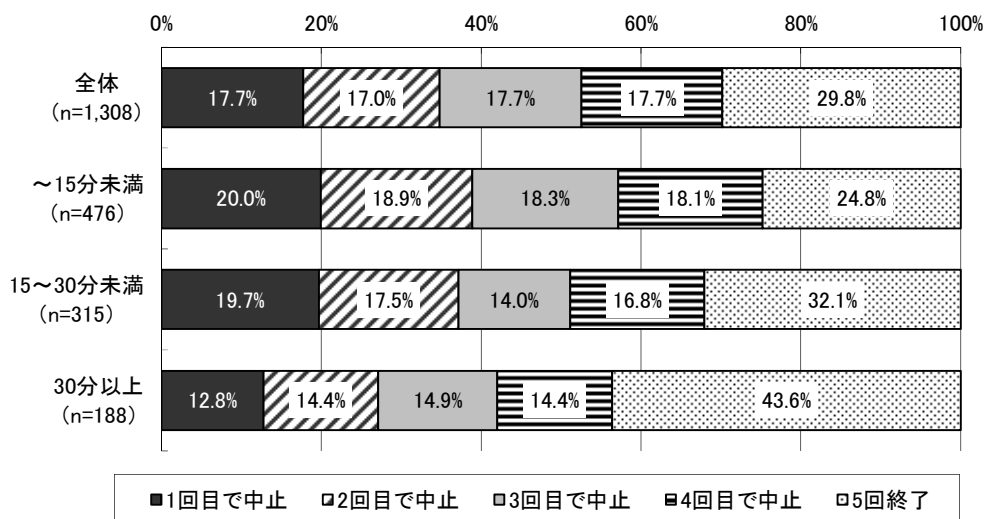
図表 95 ニコチン依存症管理料の算定回数の状況
 (医師の1回あたりの平均禁煙指導時間(2回目以降の指導)別)



(注)「全体」には、医師の1回あたりの平均禁煙指導時間について回答のなかった36人が含まれる。

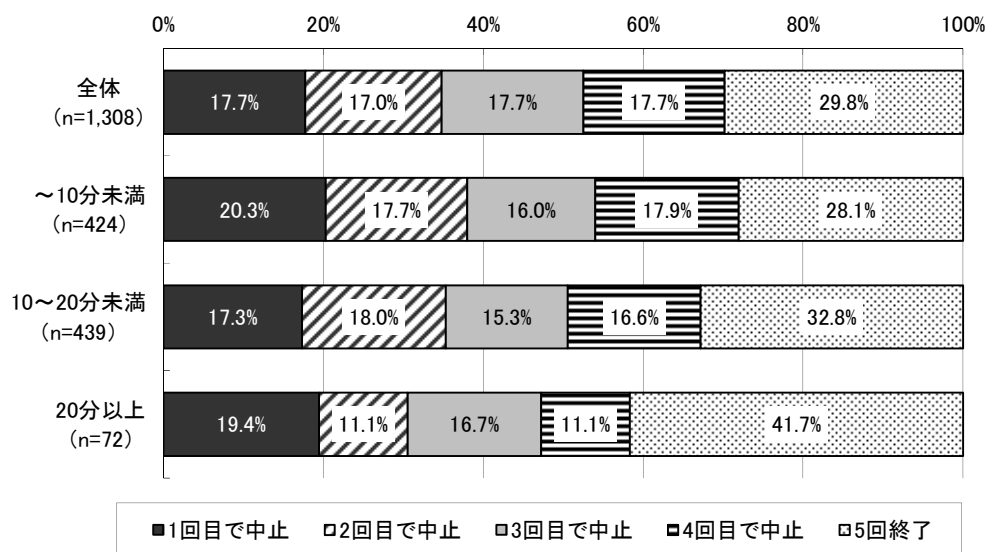
看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間(初回の指導)別にみると、指導時間が長いほど「5回終了」の割合が高くなる傾向がみられた。

図表 96 ニコチン依存症管理料の算定回数の状況
 (看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間(初回の指導)別)



(注)・「全体」には、看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間について回答のなかった103人、及び看護師・准看護師の指導時間が「0分」という施設の患者226人が含まれる。
 ・「看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間(初回の指導)」とは、当該患者が禁煙治療を受けた施設での、患者1人あたり1回の指導に係る平均指導時間(初回の指導)であり、当該患者に対する直接の指導時間ではない(以下、同様)。

図表 97 ニコチン依存症管理料の算定回数の状況
 (看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間(2回目以降の指導)別)



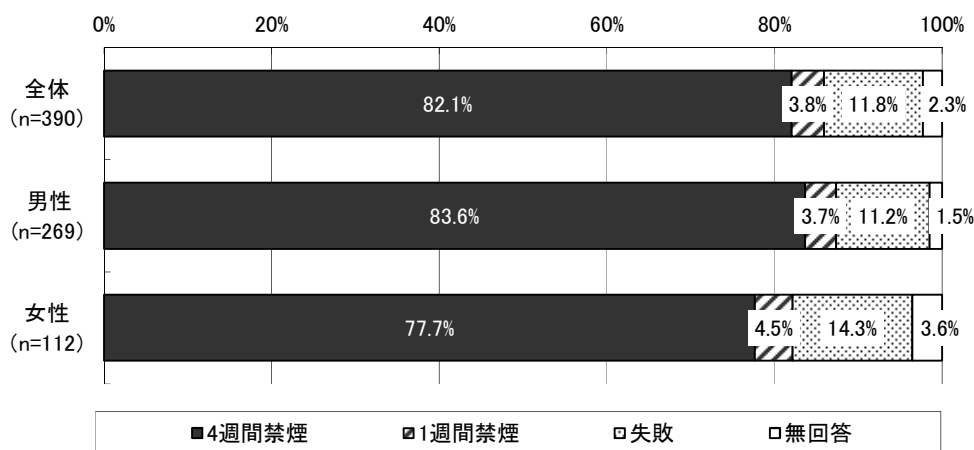
(注) 「全体」には、看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間について回答のなかった125人、及び看護師・准看護師の指導時間が「0分」という施設の患者248人が含まれる。

②5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況

ニコチン依存症の禁煙治療を5回全て終了した患者（n=390）における、5回目治療終了時の禁煙状況についてみると、「4週間禁煙」が82.1%、「1週間禁煙」が3.8%、「失敗」が11.8%であった。

男女別にみると、「4週間禁煙」の割合は男性が83.6%、女性が77.7%で男性の方が5.9ポイント高かった。

図表 98 5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況（男女別）



(注)「全体」には、性別について回答のなかった9人が含まれる。

【禁煙の定義（治療終了時）】

4週間禁煙	<ul style="list-style-type: none"> 5回終了時点で禁煙しており、5回終了時からさかのぼって少なくとも4週間、1本も吸わずに禁煙を継続している人。紙巻きたばこを吸っていても、新型たばこを使用していた場合は「失敗」と扱う。 かつ、4回目と5回目の指導時の呼気一酸化炭素濃度の値が非喫煙者レベル（8ppm未満）であった人。
1週間禁煙	<ul style="list-style-type: none"> 5回の治療が終了している時点で禁煙しており、5回終了時点からさかのぼって少なくとも1週間、1本も吸わずに禁煙を継続している人。紙巻きたばこを吸っていても、新型たばこを使用していた場合は「失敗」と扱う。 かつ、5回目の指導時の呼気一酸化炭素濃度の値が非喫煙者レベル（8ppm未満）であった人。
失敗	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙状況が把握できたが、上記の「4週間禁煙」「1週間禁煙」のいずれにもあてはまらなかった人。 呼気一酸化炭素濃度未測定であった人も含む。

年齢階級別にみると、「4週間禁煙」の割合は、「50～59歳」（85.5%）が最も高く、次いで「70歳以上」（84.5%）、「40～49歳」（81.6%）、「35～39歳」（80.6%）、「34歳以下」（80.0%）、「60～69歳」（78.7%）となった。

図表 99 5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況（年齢階級別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	4週間禁煙	1週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
34歳以下	30 100.0	24 80.0	1 3.3	4 13.3	1 3.3
35～39歳	36 100.0	29 80.6	2 5.6	5 13.9	0 0.0
40～49歳	87 100.0	71 81.6	4 4.6	12 13.8	0 0.0
50～59歳	83 100.0	71 85.5	3 3.6	7 8.4	2 2.4
60～69歳	89 100.0	70 78.7	4 4.5	11 12.4	4 4.5
70歳以上	58 100.0	49 84.5	1 1.7	6 10.3	2 3.4

（注）「全体」には、年齢について回答のなかった7人が含まれる。

ブリンクマン指数別にみると、「4週間禁煙」の割合は、ブリンクマン指数が「500～1000未満」（87.5%）が最も高く、次いで「1000～1500未満」（83.9%）、「200～500未満」（81.7%）、「200未満」（77.8%）、「1500以上」（59.4%）という順であった。

図表 100 5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況（ブリンクマン指数別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	4週間禁煙	1週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
200未満	9 100.0	7 77.8	0 0.0	2 22.2	0 0.0
200～500未満	131 100.0	107 81.7	2 1.5	21 16.0	1 0.8
500～1000未満	152 100.0	133 87.5	8 5.3	10 6.6	1 0.7
1000～1500未満	56 100.0	47 83.9	2 3.6	6 10.7	1 1.8
1500以上	32 100.0	19 59.4	2 6.3	7 21.9	4 12.5

（注）「全体」には、ブリンクマン指数が不明の20人が含まれる。

TDS 点数別にみると、「4 週間禁煙」の割合は、TDS 点数が「5 点」(90.2%) が最も高く、次いで「10 点」(87.3%)、「7 点」(85.9%) という順であった。

図表 101 5 回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況 (TDS 点数別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	4 週間禁煙	1 週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
5 点	41 100.0	37 90.2	0 0.0	4 9.8	0 0.0
6 点	37 100.0	30 81.1	0 0.0	7 18.9	0 0.0
7 点	64 100.0	55 85.9	3 4.7	6 9.4	0 0.0
8 点	84 100.0	60 71.4	5 6.0	16 19.0	3 3.6
9 点	85 100.0	72 84.7	2 2.4	9 10.6	2 2.4
10 点	55 100.0	48 87.3	5 9.1	2 3.6	0 0.0

(注)「全体」には、TDS 点数について回答のなかった 24 人が含まれる。

ニコチン依存症管理料再算定の有無別にみると、「4 週間禁煙」の割合は、ニコチン依存症管理料再算定「あり」の患者では 70.2%、「なし・不明」の患者では 87.1%であり、ニコチン依存症管理料再算定「あり」の患者の方が「なし」の患者よりも 16.9 ポイント低かった。

図表 102 5 回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況 (ニコチン依存症管理料再算定の有無別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	4 週間禁煙	1 週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
あり	114 100.0	80 70.2	12 10.5	20 17.5	2 1.8
なし・不明	264 100.0	230 87.1	3 1.1	25 9.5	6 2.3

(注)「全体」には、ニコチン依存症管理料再算定の有無について回答のなかった 12 人が含まれる。

合併症の有無別にみると、「4週間禁煙」の割合は、合併症「あり」の患者では77.7%、「なし」の患者では87.5%であり、合併症「なし」の患者の方が「あり」の患者よりも9.8ポイント高かった。

図表 103 5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況（合併症の状況別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

		総数	4週間 禁煙	1週間 禁煙	失敗	無回答
全体		390	320	15	46	9
		100.0	82.1	3.8	11.8	2.3
合併症有無	あり	211	164	10	31	6
		100.0	77.7	4.7	14.7	2.8
	なし	176	154	5	15	2
		100.0	87.5	2.8	8.5	1.1
合併症の内容	高血圧	74	56	5	11	2
		100.0	75.7	6.8	14.9	2.7
	脂質異常	57	39	5	10	3
		100.0	68.4	8.8	17.5	5.3
	糖尿病	52	38	1	11	2
		100.0	73.1	1.9	21.2	3.8
	脳卒中	11	6	1	3	1
		100.0	54.5	9.1	27.3	9.1
	心臓病	28	20	2	5	1
		100.0	71.4	7.1	17.9	3.6
悪性新生物	11	9	0	2	0	
	100.0	81.8	0.0	18.2	0.0	
呼吸器疾患	52	35	4	11	2	
	100.0	67.3	7.7	21.2	3.8	
消化器疾患	31	25	4	2	0	
	100.0	80.6	12.9	6.5	0.0	
精神疾患	29	20	1	8	0	
	100.0	69.0	3.4	27.6	0.0	
その他	36	27	2	6	1	
	100.0	75.0	5.6	16.7	2.8	

（注）「全体」には、合併症の有無について回答のなかった3人が含まれる。

保険適用中の禁煙補助剤の使用状況別にみると、「4週間禁煙」の割合が高かったのは、「いずれも使用せず」(85.7%)であったが、当該患者数が少ないことに留意する必要がある。また、「バレニクリンのみ」と「ニコチンパッチのみ」を比較すると、「バレニクリンのみ」のほうが「4週間禁煙」の割合が1.3ポイント高かった。

図表 104 5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況
(保険適用中の禁煙補助剤の使用状況別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	4週間禁煙	1週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
ニコチンパッチのみ	50 100.0	41 82.0	3 6.0	6 12.0	0 0.0
バレニクリンのみ	275 100.0	229 83.3	10 3.6	32 11.6	4 1.5
ニコチンパッチ→バレニクリン	4 100.0	1 25.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0
ニコチンパッチとニコチンガムの併用	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	14 100.0	11 78.6	0 0.0	2 14.3	1 7.1
いずれも使用せず	42 100.0	36 85.7	2 4.8	3 7.1	1 2.4

(注)「全体」には、保険適用中の禁煙補助剤の使用状況について回答のなかった5人が含まれる。

治療を受けた施設の種類の別に見ると、診療所は病院と比較して「4週間禁煙」の割合が6.3ポイント高かった。

図表 105 5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況
(治療を受けた施設の種類の別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	4週間禁煙	1週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
病院	141 100.0	110 78.0	5 3.5	24 17.0	2 1.4
診療所	249 100.0	210 84.3	10 4.0	22 8.8	7 2.8

治療を受けた施設における医師の平均指導時間（初回の指導）別にみると、「4 週間禁煙」の割合は、「15 分未満」では 81.0%、「15～30 分未満」では 82.4%、「30～45 分未満」では 79.8%であった。

図表 106 5 回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況
（治療を受けた施設における医師の平均指導時間（初回の指導）別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	4 週間禁煙	1 週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
15 分未満	121 100.0	98 81.0	2 1.7	17 14.0	4 3.3
15～30 分未満	165 100.0	136 82.4	7 4.2	19 11.5	3 1.8
30～45 分未満	84 100.0	67 79.8	5 6.0	10 11.9	2 2.4
45 分以上	10 100.0	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0

（注）「全体」には、医師の平均指導時間（初回の指導）について回答のなかった 10 人が含まれる。

治療を受けた施設における医師の平均指導時間（2 回目以降の指導）別にみると、「4 週間禁煙」の割合は、「10 分未満」では 84.1%、「10～20 分未満」では 80.8%であった。

図表 107 5 回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況
（治療を受けた施設における医師の平均指導時間（2 回目以降の指導）別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	4 週間禁煙	1 週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
10 分未満	132 100.0	111 84.1	3 2.3	13 9.8	5 3.8
10～20 分未満	229 100.0	185 80.8	9 3.9	32 14.0	3 1.3
20 分以上	17 100.0	13 76.5	3 17.6	1 5.9	0 0.0

（注）「全体」には、医師の平均指導時間（2 回目以降の指導）について回答のなかった 12 人が含まれる。

治療を受けた施設における看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）別にみると、「4週間禁煙」の割合は、「15分未満」では82.2%、「15～30分未満」では78.2%、「30分～45分未満」では82.1%であった。

図表 108 5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況
(治療を受けた施設における看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	4週間禁煙	1週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
15分未満	118 100.0	97 82.2	4 3.4	14 11.9	3 2.5
15～30分未満	101 100.0	79 78.2	5 5.0	16 15.8	1 1.0
30分～45分未満	67 100.0	55 82.1	2 3.0	6 9.0	4 6.0
45分以上	15 100.0	13 86.7	0 0.0	2 13.3	0 0.0

(注)「全体」には、看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）について回答のなかった34人、及び看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）が「0分」という施設の患者55人が含まれる。

治療を受けた施設における看護師・准看護師の平均指導時間（2回目以降の指導）別にみると、「4週間禁煙」の割合は、「15分未満」では82.2%、「15～30分未満」では78.2%、「30分～45分未満」では82.1%であった。

図表 109 5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況
(治療を受けた施設における看護師・准看護師の平均指導時間（2回目以降の指導）別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	4週間禁煙	1週間禁煙	失敗	無回答
全体	390 100.0	320 82.1	15 3.8	46 11.8	9 2.3
～10分未満	119 100.0	105 88.2	4 3.4	8 6.7	2 1.7
10～20分未満	144 100.0	108 75.0	7 4.9	25 17.4	4 2.8
20分以上	30 100.0	24 80.0	0 0.0	5 16.7	1 3.3

(注)「全体」には、看護師・准看護師の平均指導時間（2回目以降の指導）について回答のなかった40人、及び看護師・准看護師の平均指導時間（2回目以降の指導）が「0分」という施設の患者57人が含まれる。

治療を受けた施設での禁煙治療内容別にみると、「標準手順書に加えて独自の禁煙治療を行っている」は、「標準手順書に従った禁煙治療を行っている」と比較して「4週間禁煙」の割合が8.3ポイント高かった。

図表 110 5回の治療を終了した患者の治療終了時の禁煙状況
(治療を受けた施設における禁煙治療内容別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	4週間禁煙	1週間禁煙	失敗	無回答
全体	390	320	15	46	9
	100.0	82.1	3.8	11.8	2.3
標準手順書に従った禁煙治療を行っている	339	274	15	42	8
	100.0	80.8	4.4	12.4	2.4
標準手順書に加えて独自の禁煙治療を行っている	46	41	0	4	1
	100.0	89.1	0.0	8.7	2.2
その他	2	2	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

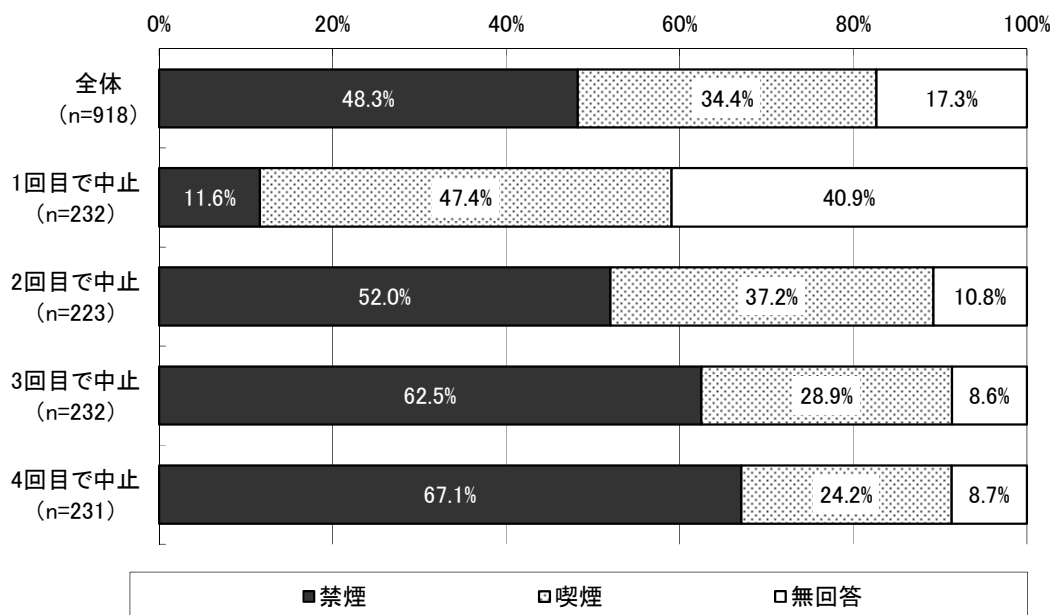
(注)「全体」には、禁煙治療内容について回答のなかった3人が含まれる。

③5回の治療を途中で中止した患者の中止時の禁煙状況

ニコチン依存症管理料の算定(治療)を5回目より前に中止した患者(n=918)では、中止時に「禁煙」していた人が48.3%、中止時に「喫煙」していた人が34.4%であった。

治療を受けた回数が多いほど、中止時に「禁煙」していた人の割合が高くなる傾向がみられた。

図表 111 5回の治療を途中で中止した患者の中止時の禁煙状況(治療回数別)



④保険適用中の禁煙補助剤の使用状況

保険適用中の禁煙補助剤の使用状況についてみると、「バレニクリンのみ」(70.0%)が最も多く、次いで「ニコチンパッチのみ」(11.1%)であった。また、「いずれも使用せず」という患者が1割程度であった。

図表 112 保険適用中の禁煙補助剤の使用状況 (男女別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	ニコチンパッチのみ	バレニクリンのみ	ニコチンパッチ→バレニクリン	ニコチンパッチとニコチンガムの併用	その他	いずれも使用せず	無回答
全体	1,308 100.0	145 11.1	916 70.0	7 0.5	1 0.1	66 5.0	137 10.5	36 2.8
男性	873 100.0	100 11.5	613 70.2	4 0.5	1 0.1	37 4.2	97 11.1	21 2.4
女性	400 100.0	45 11.3	284 71.0	2 0.5	0 0.0	28 7.0	31 7.8	10 2.5

(注)「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

年齢階級別にみると、すべての年齢階級で「バレニクリンのみ」が6割を超えていた。特に34歳以下では「バレニクリンのみ」が76.6%と他の年齢階級と比較して高かった。一方、50～59歳では「いずれも使用せず」が14.4%となっており、「全体」や他の年齢階級と比較して高かった。

図表 113 保険適用中の禁煙補助剤の使用状況 (年齢階級別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	ニコチンパッチのみ	バレニクリンのみ	ニコチンパッチ→バレニクリン	ニコチンパッチとニコチンガムの併用	その他	いずれも使用せず	無回答
全体	1,308 100.0	145 11.1	916 70.0	7 0.5	1 0.1	66 5.0	137 10.5	36 2.8
34歳以下	214 100.0	14 6.5	164 76.6	1 0.5	0 0.0	4 1.9	21 9.8	10 4.7
35～39歳	164 100.0	18 11.0	118 72.0	0 0.0	0 0.0	8 4.9	15 9.1	5 3.0
40～49歳	344 100.0	33 9.6	243 70.6	1 0.3	1 0.3	20 5.8	39 11.3	7 2.0
50～59歳	216 100.0	23 10.6	143 66.2	3 1.4	0 0.0	10 4.6	31 14.4	6 2.8
60～69歳	217 100.0	33 15.2	142 65.4	2 0.9	0 0.0	17 7.8	20 9.2	3 1.4
70歳以上	128 100.0	18 14.1	93 72.7	0 0.0	0 0.0	4 3.1	11 8.6	2 1.6

(注)「全体」には、年齢について回答のなかった25人が含まれる。

合併症の有無別にみると、合併症が「あり」の患者では「なし」の患者と比較して、「バレンクリンのみ」の割合が低く、「ニコチンパッチのみ」の割合が高かった。

図表 114 保険適用中の禁煙補助剤の使用状況（合併症の状況別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

		総数	ニコチンパッチのみ	バレンクリンのみ	ニコチンパッチ→バレンクリン	ニコチンパッチとニコチンガムの併用	その他	いずれも使用せず	無回答
全体		1,308 100.0	145 11.1	916 70.0	7 0.5	1 0.1	66 5.0	137 10.5	36 2.8
合併症有無	あり	500 100.0	81 16.2	339 67.8	5 1.0	0 0.0	21 4.2	47 9.4	7 1.4
	なし	771 100.0	62 8.0	556 72.1	2 0.3	1 0.1	45 5.8	86 11.2	19 2.5
合併症の内容	高血圧	169 100.0	20 11.8	126 74.6	3 1.8	0 0.0	5 3.0	13 7.7	2 1.2
	脂質異常	103 100.0	16 15.5	72 69.9	2 1.9	0 0.0	2 1.9	8 7.8	3 2.9
	糖尿病	100 100.0	14 14.0	69 69.0	0 0.0	0 0.0	6 6.0	9 9.0	2 2.0
	脳卒中	18 100.0	2 11.1	14 77.8	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	1 5.6
	心臓病	53 100.0	4 7.5	36 67.9	2 3.8	0 0.0	3 5.7	8 15.1	0 0.0
	悪性新生物	24 100.0	14 58.3	10 41.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	呼吸器疾患	103 100.0	14 13.6	72 69.9	3 2.9	0 0.0	5 4.9	9 8.7	0 0.0
	消化器疾患	69 100.0	9 13.0	47 68.1	1 1.4	0 0.0	3 4.3	8 11.6	1 1.4
	精神疾患	74 100.0	19 25.7	43 58.1	2 2.7	0 0.0	5 6.8	5 6.8	0 0.0
	その他	85 100.0	14 16.5	55 64.7	1 1.2	0 0.0	3 3.5	10 11.8	2 2.4

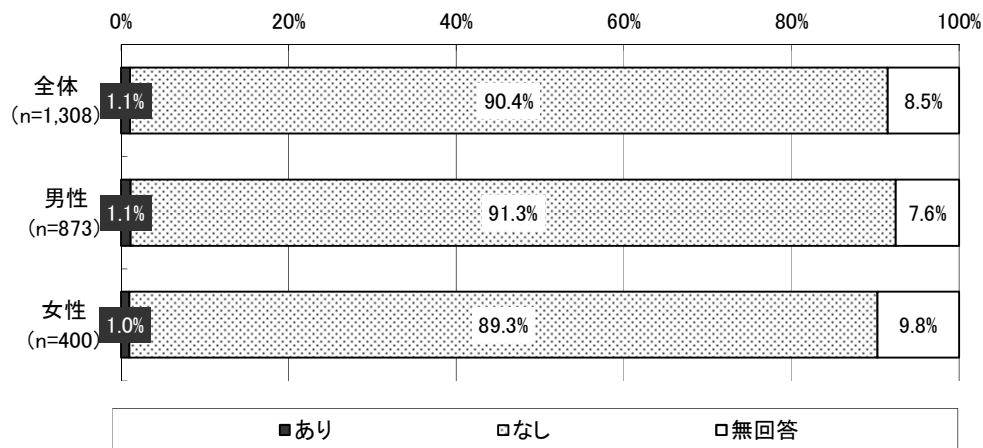
（注）「全体」には、合併症の有無について回答のなかった37人が含まれる。

(3) 保険治療終了後の状況等

① 保険治療終了後の追加禁煙治療の有無

保険治療終了後の追加禁煙治療の有無についてみると、「あり」は1.1%であった。

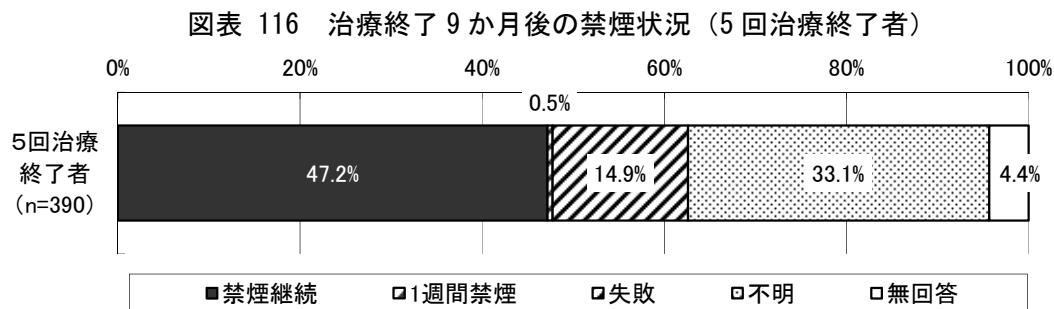
図表 115 ニコチン依存症管理料の算定回数の状況（男女別）



(注) 「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

② 5回の治療をすべて終了した患者の治療9か月後の禁煙状況

5回の禁煙治療をすべて終了した患者（5回治療終了者）390人における、治療終了9か月後の禁煙状況をみると、「禁煙継続」が47.2%で、「1週間禁煙」が0.5%、「失敗」が14.9%、「不明」が33.1%であった。



【禁煙の定義（治療9か月後）】

禁煙継続	<ul style="list-style-type: none"> 指導終了以降、9か月後調査までの期間、1本も吸わずに禁煙を継続できた人。または指導中断時に禁煙し、かつそれ以降9か月後調査までの期間、1本も吸わずに禁煙を継続している人。紙巻きたばこを吸っていなくても、新型たばこを使用していた場合は「失敗」と扱う。 禁煙／喫煙の状況については、自己申告とする。
1週間禁煙	<ul style="list-style-type: none"> 指導終了9か月後の調査時点（本調査を実施した時点）で禁煙しており、少なくとも直近1週間は1本も吸わないで禁煙を継続している人。紙巻きたばこを吸っていなくても、新型たばこを使用していた場合は「失敗」と扱う。 禁煙／喫煙の状況については、自己申告とする。
失敗	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙状況が把握できたが、上記の「禁煙継続」「1週間禁煙」のいずれにもあてはまらない人。
不明	<ul style="list-style-type: none"> 禁煙／喫煙の状況が把握できなかった人（調査を拒否した人を含む）。

男女別にみると、「禁煙継続」の割合は、男性が46.5%、女性が47.3%であり、大きな差異はみられなかった。

図表 117 治療終了9か月後の禁煙状況（5回治療終了者：男女別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
男性	269	125	2	42	89	11
	100.0	46.5	0.7	15.6	33.1	4.1
女性	112	53	0	16	38	5
	100.0	47.3	0.0	14.3	33.9	4.5

（注）「全体」には、性別について回答のなかった9人が含まれる。

年齢階級別にみると、「禁煙継続」の割合は、50～59歳が51.8%で最も高く、年齢階級の低い層で割合が低い傾向がみられた。

図表 118 治療終了9か月後の禁煙状況（5回治療終了者：年齢階級別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
34歳以下	30	9	0	4	15	2
	100.0	30.0	0.0	13.3	50.0	6.7
35～39歳	36	16	0	6	11	3
	100.0	44.4	0.0	16.7	30.6	8.3
40～49歳	87	38	0	11	34	4
	100.0	43.7	0.0	12.6	39.1	4.6
50～59歳	83	43	1	7	30	2
	100.0	51.8	1.2	8.4	36.1	2.4
60～69歳	89	44	1	18	22	4
	100.0	49.4	1.1	20.2	24.7	4.5
70歳以上	58	30	0	10	16	2
	100.0	51.7	0.0	17.2	27.6	3.4

（注）「全体」には、年齢について回答のなかった7人が含まれる。

喫煙年数別にみると、「禁煙継続」の割合は、喫煙年数が長い階級ほど割合が高い傾向がみられた。

図表 119 治療終了9か月後の禁煙状況（5回治療終了者：喫煙年数別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
20年未満	59	19	0	11	24	5
	100.0	32.2	0.0	18.6	40.7	8.5
20～30年未満	98	43	0	13	39	3
	100.0	43.9	0.0	13.3	39.8	3.1
30～40年未満	94	53	1	10	26	4
	100.0	56.4	1.1	10.6	27.7	4.3
40年以上	129	64	1	24	36	4
	100.0	49.6	0.8	18.6	27.9	3.1

（注）「全体」には、喫煙年数について回答のなかった10人が含まれる。

喫煙年数別にみると、「禁煙継続」の割合は、1日あたりの喫煙本数が少ない階級ほど割合が高い傾向がみられた。

図表 120 治療終了9か月後の禁煙状況（5回治療終了者：1日あたり喫煙本数別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
10本未満	2	2	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～20本未満	92	50	0	13	24	5
	100.0	54.3	0.0	14.1	26.1	5.4
20～30本未満	179	85	0	23	66	5
	100.0	47.5	0.0	12.8	36.9	2.8
30～40本未満	58	20	1	14	20	3
	100.0	34.5	1.7	24.1	34.5	5.2
40本以上	50	22	1	8	16	3
	100.0	44.0	2.0	16.0	32.0	6.0

（注）「全体」には、1日あたり喫煙本数について回答のなかった9人が含まれる。

ブリンクマン指数別にみると、「禁煙継続」の割合は、500～1000 未満が 50.7%で高かった。

図表 121 治療終了 9 か月後の禁煙状況（5 回治療終了者：ブリンクマン指数別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	禁煙継続	1 週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
200 未満	9	2	0	2	5	0
	100.0	22.2	0.0	22.2	55.6	0.0
200～500 未満	131	60	0	19	45	7
	100.0	45.8	0.0	14.5	34.4	5.3
500～1000 未満	152	77	0	19	50	6
	100.0	50.7	0.0	12.5	32.9	3.9
1000～1500 未満	56	26	1	11	18	0
	100.0	46.4	1.8	19.6	32.1	0.0
1500 以上	32	14	1	7	7	3
	100.0	43.8	3.1	21.9	21.9	9.4

（注）「全体」には、ブリンクマン指数が不明の 10 人が含まれる。

TDS 点数別にみると、「禁煙継続」の割合は、「10 点」を除くと比較的点数が低い患者で割合が高かった。

図表 122 治療終了 9 か月後の禁煙状況（5 回治療終了者：TDS 点数別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	禁煙継続	1 週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
5 点	41	25	0	8	7	1
	100.0	61.0	0.0	19.5	17.1	2.4
6 点	37	20	1	2	13	1
	100.0	54.1	2.7	5.4	35.1	2.7
7 点	64	28	1	12	20	3
	100.0	43.8	1.6	18.8	31.3	4.7
8 点	84	39	0	11	29	5
	100.0	46.4	0.0	13.1	34.5	6.0
9 点	85	34	0	18	30	3
	100.0	40.0	0.0	21.2	35.3	3.5
10 点	55	29	0	4	21	1
	100.0	52.7	0.0	7.3	38.2	1.8

（注）「全体」には、TDS 点数について回答のなかった 24 人が含まれる。

合併症の有無別にみると、「禁煙継続」の割合は、合併症「あり」が 50.2%、「なし」が 44.3%で、「あり」の方が「なし」よりも 5.9 ポイント高かった。

図表 123 治療終了 9 か月後の禁煙状況（5 回治療終了者：合併症の状況別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

		総数	禁煙継続	1 週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体		390	184	2	58	129	17
		100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
合併症有無	あり	211	106	2	42	54	7
		100.0	50.2	0.9	19.9	25.6	3.3
	なし	176	78	0	16	73	9
		100.0	44.3	0.0	9.1	41.5	5.1
合併症の内容	高血圧	74	41	0	16	17	0
		100.0	55.4	0.0	21.6	23.0	0.0
	脂質異常	57	26	1	13	16	1
		100.0	45.6	1.8	22.8	28.1	1.8
	糖尿病	52	25	0	12	13	2
		100.0	48.1	0.0	23.1	25.0	3.8
	脳卒中	11	6	0	2	3	0
		100.0	54.5	0.0	18.2	27.3	0.0
	心臓病	28	12	1	9	6	0
		100.0	42.9	3.6	32.1	21.4	0.0
悪性新生物	11	7	0	1	3	0	
	100.0	63.6	0.0	9.1	27.3	0.0	
呼吸器疾患	52	28	1	11	11	1	
	100.0	53.8	1.9	21.2	21.2	1.9	
消化器疾患	31	16	0	8	6	1	
	100.0	51.6	0.0	25.8	19.4	3.2	
精神疾患	29	11	0	8	8	2	
	100.0	37.9	0.0	27.6	27.6	6.9	
その他	36	13	2	6	12	3	
	100.0	36.1	5.6	16.7	33.3	8.3	

（注）「全体」には、合併症無の有無について回答のなかった 3 人が含まれる。

禁煙治療を受けた施設別にみると、「禁煙継続」の割合は、病院が 44.0%、診療所が 49.0% で診療所の方が 5.0 ポイント高かった。

図表 124 治療終了 9 か月後の禁煙状況（5 回治療終了者：治療を受けた施設別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	禁煙継続	1 週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
病院	141	62	1	29	39	10
	100.0	44.0	0.7	20.6	27.7	7.1
診療所	249	122	1	29	90	7
	100.0	49.0	0.4	11.6	36.1	2.8

医師の平均指導時間別にみると、「禁煙継続」の割合は、指導時間が長いほど割合が高くなる傾向がみられた。

図表 125 治療終了 9 か月後の禁煙状況

（5 回治療終了者：医師の平均指導時間（初回の指導）別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	禁煙継続	1 週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
15 分未満	121	50	0	22	47	2
	100.0	41.3	0.0	18.2	38.8	1.7
15～30 分未満	165	76	0	18	60	11
	100.0	46.1	0.0	10.9	36.4	6.7
30～45 分未満	84	49	1	14	16	4
	100.0	58.3	1.2	16.7	19.0	4.8
45 分以上	10	5	1	3	1	0
	100.0	50.0	10.0	30.0	10.0	0.0

（注）「全体」には、医師の平均指導時間（初回の指導）について回答のなかった 10 人が含まれる。

図表 126 治療終了9か月後の禁煙状況

(5回治療終了者：医師の平均指導時間（2回目以降の指導）別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
10分未満	132	56	0	22	52	2
	100.0	42.4	0.0	16.7	39.4	1.5
10～20分未満	229	113	0	33	68	15
	100.0	49.3	0.0	14.4	29.7	6.6
20分以上	17	10	2	2	3	0
	100.0	58.8	11.8	11.8	17.6	0.0

(注)「全体」には、医師の平均指導時間（2回目以降の指導）について回答のなかった12人が含まれる。

看護師・准看護師の平均指導時間別にみると、「禁煙継続」の割合は、指導時間が長いほど割合が高くなる傾向がみられた。

図表 127 治療終了9か月後の禁煙状況

(5回治療終了者：看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
～15分未満	118	50	2	18	46	2
	100.0	42.4	1.7	15.3	39.0	1.7
15～30分未満	101	44	0	13	35	9
	100.0	43.6	0.0	12.9	34.7	8.9
30分～45分未満	67	40	0	13	12	2
	100.0	59.7	0.0	19.4	17.9	3.0
45分以上	15	9	0	4	2	0
	100.0	60.0	0.0	26.7	13.3	0.0

(注)「全体」には、看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）について回答のなかった34人、及び看護師・准看護師の平均指導時間（初回の指導）が「0分」という施設の患者55人が含まれる。

図表 128 治療終了 9 か月後の禁煙状況

(5 回治療終了者：看護師・准看護師の平均指導時間 (2 回目以降の指導) 別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	禁煙継続	1 週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
～10 分未満	119	49	2	20	46	2
	100.0	41.2	1.7	16.8	38.7	1.7
10～20 分未満	144	74	0	19	41	10
	100.0	51.4	0.0	13.2	28.5	6.9
20 分以上	30	14	0	10	5	1
	100.0	46.7	0.0	33.3	16.7	3.3

(注)「全体」には、看護師・准看護師の平均指導時間 (2 回目以降の指導) について回答のなかった 40 人、及び看護師・准看護師の平均指導時間 (2 回目以降の指導) が「0 分」という施設の患者 57 人が含まれる。

禁煙治療を受けた施設での禁煙治療方法別にみると、「禁煙継続」の割合は、「標準手順書に従った禁煙治療を行っている」では 46.3%、「標準手順書に加えて独自の禁煙治療を行っている」では 56.5%となり、「標準手順書に加えて独自の禁煙治療を行っている」が 10.2 ポイント高かった。

図表 129 治療終了 9 か月後の禁煙状況 (5 回治療終了者：禁煙治療方法別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	禁煙継続	1 週間禁煙	失敗	不明	無回答
全体	390	184	2	58	129	17
	100.0	47.2	0.5	14.9	33.1	4.4
標準手順書に従った禁煙治療を行っている	339	157	2	49	115	16
	100.0	46.3	0.6	14.5	33.9	4.7
標準手順書に加えて独自の禁煙治療を行っている	46	26	0	7	12	1
	100.0	56.5	0.0	15.2	26.1	2.2
その他	2	0	0	0	2	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

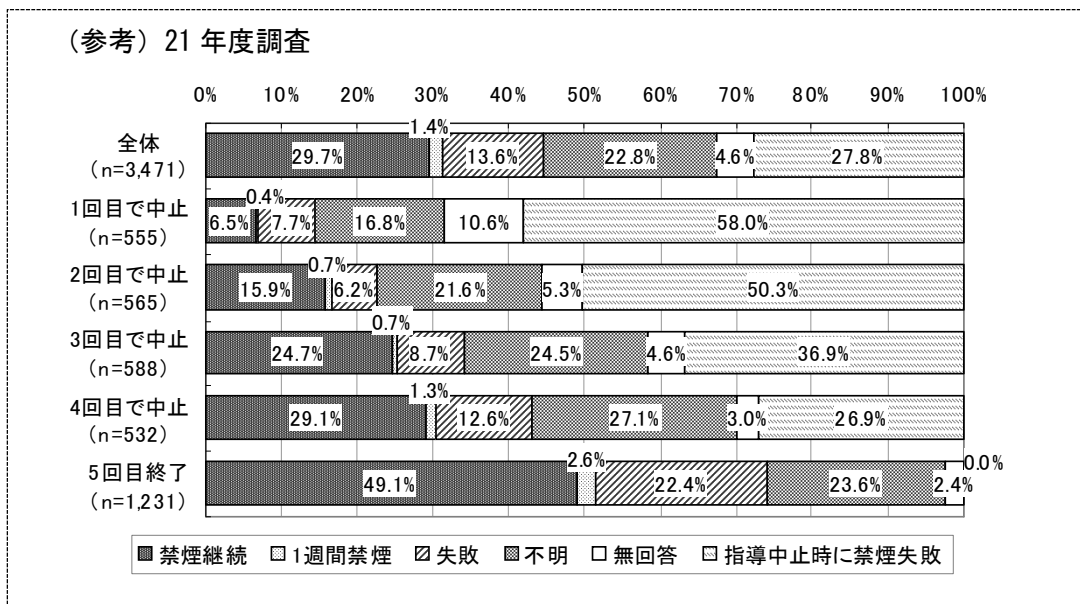
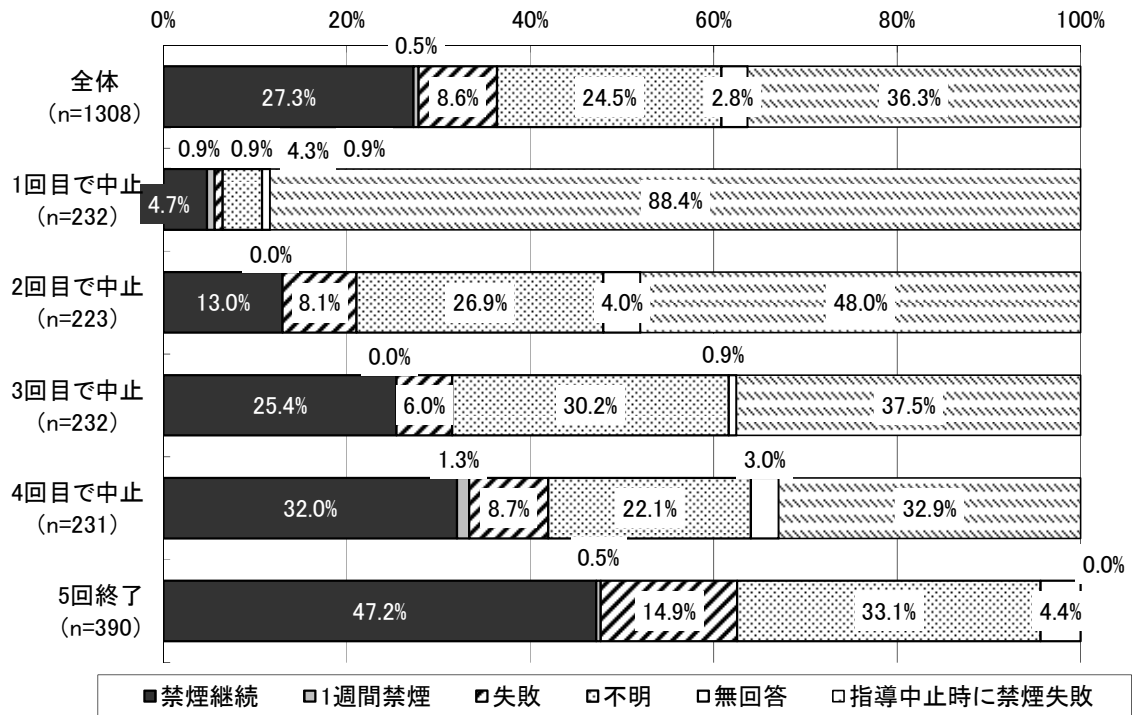
(注)「全体」には、禁煙治療方法について回答のなかった 2 人が含まれる。

③算定回数別の治療終了9か月後の禁煙状況

全対象患者について治療終了9か月後の禁煙状況を算定回数別にみると、「禁煙継続」の割合は27.3%であった。

算定回数（治療回数）が多いほど、「禁煙継続」の割合が高くなる傾向がみられた。

図表 130 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者、算定回数別）



男女別にみると、「禁煙継続」の割合は、男性が27.4%、女性が26.5%で男性の方がやや高かった。

図表 131 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：男女別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
男性	873 100.0	239 27.4	6 0.7	81 9.3	219 25.1	24 2.7	304 34.8
女性	400 100.0	106 26.5	1 0.3	30 7.5	91 22.8	12 3.0	160 40.0

（注）「全体」には、性別について回答のなかった35人が含まれる。

年齢階級別にみると、「禁煙継続」の割合は、年齢階級が高くなるほど高くなる傾向がみられた。

図表 132 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：年齢階級別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
34歳以下	214 100.0	34 15.9	1 0.5	16 7.5	57 26.6	7 3.3	99 46.3
35～39歳	164 100.0	39 23.8	0 0.0	11 6.7	36 22.0	7 4.3	71 43.3
40～49歳	344 100.0	85 24.7	0 0.0	23 6.7	100 29.1	8 2.3	128 37.2
50～59歳	216 100.0	70 32.4	2 0.9	19 8.8	54 25.0	4 1.9	67 31.0
60～69歳	217 100.0	73 33.6	2 0.9	29 13.4	43 19.8	6 2.8	64 29.5
70歳以上	128 100.0	48 37.5	2 1.6	12 9.4	26 20.3	4 3.1	36 28.1

（注）「全体」には、年齢について回答のなかった25人が含まれる。

喫煙年数別にみると、「禁煙継続」の割合は、40年以上を除くと、喫煙年数が長くなるほど高くなる傾向がみられた。

図表 133 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：喫煙年数別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
20年未満	344 100.0	70 20.3	1 0.3	27 7.8	85 24.7	13 3.8	148 43.0
20～30年 未満	381 100.0	84 22.0	1 0.3	27 7.1	111 29.1	10 2.6	148 38.8
30～40年 未満	239 100.0	86 36.0	2 0.8	22 9.2	50 20.9	5 2.1	74 31.0
40年以上	306 100.0	106 34.6	3 1.0	35 11.4	65 21.2	8 2.6	89 29.1

（注）「全体」には、喫煙年数について回答のなかった38人が含まれる。

1日あたり喫煙本数別にみると、「禁煙継続」の割合は、「10～20本」が30.4%で最も高く、「10本未満」が21.1%で最も低かった。

図表 134 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：1日あたり喫煙本数別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
10本未満	19 100.0	4 21.1	0 0.0	0 0.0	8 42.1	0 0.0	7 36.8
10～20本 未満	299 100.0	91 30.4	1 0.3	20 6.7	70 23.4	11 3.7	106 35.5
20～30本 未満	604 100.0	166 27.5	2 0.3	53 8.8	153 25.3	17 2.8	213 35.3
30～40本 未満	203 100.0	46 22.7	2 1.0	23 11.3	48 23.6	5 2.5	79 38.9
40本以上	148 100.0	39 26.4	2 1.4	16 10.8	34 23.0	3 2.0	54 36.5

（注）「全体」には、1日あたりの喫煙本数について回答のなかった35人が含まれる。

ブリンクマン指数別にみると、「禁煙継続」の割合は、「200 未満」が 11.9%で最も低く、「1500 以上」が 36.2%で最も高かった。

図表 135 治療終了 9 か月後の禁煙状況（全対象患者：ブリンクマン指数別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9 か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1 週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
200 未満	84 100.0	10 11.9	1 1.2	9 10.7	22 26.2	3 3.6	39 46.4
200～500 未満	508 100.0	132 26.0	0 0.0	35 6.9	130 25.6	17 3.3	194 38.2
500～1000 未満	458 100.0	139 30.3	1 0.2	39 8.5	117 25.5	11 2.4	151 33.0
1000～ 1500 未満	149 100.0	40 26.8	3 2.0	19 12.8	30 20.1	1 0.7	56 37.6
1500 以上	69 100.0	25 36.2	2 2.9	9 13.0	12 17.4	4 5.8	17 24.6

（注）「全体」には、ブリンクマン指数について回答のなかった 40 人が含まれる。

TDS 点数別にみると、「禁煙継続」の割合は、「5 点」が 34.0%で最も高く、次いで「10 点」(33.1%)であった。

図表 136 治療終了 9 か月後の禁煙状況（全対象患者：TDS 点数別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9 か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1 週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
5 点	94 100.0	32 34.0	0 0.0	10 10.6	18 19.1	3 3.2	31 33.0
6 点	128 100.0	33 25.8	1 0.8	14 10.9	31 24.2	2 1.6	47 36.7
7 点	221 100.0	65 29.4	2 0.9	19 8.6	46 20.8	5 2.3	84 38.0
8 点	291 100.0	79 27.1	0 0.0	21 7.2	84 28.9	8 2.7	99 34.0
9 点	304 100.0	77 25.3	4 1.3	29 9.5	84 27.6	12 3.9	98 32.2
10 点	157 100.0	52 33.1	0 0.0	10 6.4	34 21.7	2 1.3	59 37.6

（注）「全体」には、TDS 点数について回答のなかった 113 人が含まれる。

ニコチン依存症管理料の再算定の有無別にみると、「禁煙継続」の割合は、「あり」が25.3%、「なし・不明」が29.1%であり、「なし・不明」の方が「あり」よりも3.8ポイント高かった。

図表 137 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：ニコチン依存症管理料の再算定の有無別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
あり	380 100.0	96 25.3	1 0.3	41 10.8	98 25.8	10 2.6	134 35.3
なし・不明	877 100.0	255 29.1	6 0.7	63 7.2	214 24.4	26 3.0	313 35.7

（注）「全体」には、ニコチン依存症管理料の再算定の有無について回答のなかった51人が含まれる。

合併症の有無別にみると、「禁煙継続」の割合は、「あり」が35.4%、「なし」が23.0%であり、「あり」が「なし」よりも12.4ポイント高かった。

図表 138 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：合併症の有無別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
あり	500 100.0	177 35.4	5 1.0	58 11.6	98 19.6	12 2.4	150 30.0
なし	771 100.0	177 23.0	2 0.3	52 6.7	212 27.5	24 3.1	304 39.4

（注）「全体」には、合併症の有無について回答のなかった37人が含まれる。

合併症の内容別にみると、精神疾患では「禁煙継続」の割合が25.7%と低く、「治療中止時喫煙」の割合が高かった。

図表 139 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：合併症の内容別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
合併症あり	500 100.0	177 35.4	5 1.0	58 11.6	98 19.6	12 2.4	150 30.0
高血圧	169 100.0	64 37.9	1 0.6	20 11.8	31 18.3	3 1.8	50 29.6
脂質異常	103 100.0	43 41.7	1 1.0	14 13.6	23 22.3	1 1.0	21 20.4
糖尿病	100 100.0	39 39.0	0 0.0	13 13.0	17 17.0	3 3.0	28 28.0
脳卒中	18 100.0	6 33.3	0 0.0	2 11.1	5 27.8	1 5.6	4 22.2
心臓病	53 100.0	17 32.1	2 3.8	10 18.9	10 18.9	1 1.9	13 24.5
悪性新生物	24 100.0	13 54.2	0 0.0	2 8.3	4 16.7	0 0.0	5 20.8
呼吸器疾患	103 100.0	41 39.8	2 1.9	15 14.6	18 17.5	2 1.9	25 24.3
消化器疾患	69 100.0	26 37.7	0 0.0	10 14.5	14 20.3	1 1.4	18 26.1
精神疾患	74 100.0	19 25.7	0 0.0	9 12.2	15 20.3	2 2.7	29 39.2
その他	85 100.0	26 30.6	3 3.5	9 10.6	18 21.2	3 3.5	26 30.6

（注）「全体」には、合併症なしの患者771人や合併症の有無について回答のなかった37人が含まれる。

禁煙補助剤別にみると、「禁煙継続」の割合は「ニコチンパッチのみ」が34.5%で「全体」や「バレニクリンのみ」と比較して高かった。

図表 140 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：禁煙補助剤別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
ニコチンパッチのみ	145 100.0	50 34.5	2 1.4	9 6.2	30 20.7	4 2.8	50 34.5
バレニクリンのみ	916 100.0	259 28.3	4 0.4	80 8.7	228 24.9	23 2.5	322 35.2
ニコチンパッチ→バレニクリン	7 100.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	4 57.1	1 14.3	1 14.3
ニコチンパッチとニコチンガムの併用	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	66 100.0	11 16.7	0 0.0	8 12.1	11 16.7	4 6.1	32 48.5
いずれも使用せず	137 100.0	34 24.8	1 0.7	11 8.0	41 29.9	3 2.2	47 34.3

（注）「全体」には、保険適用中の禁煙補助剤の使用状況について回答のなかった5人が含まれる。

治療を受けた施設の種類の別に見ると、「禁煙継続」の割合は、病院では35.6%、診療所では24.9%であった。

図表 141 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：治療を受けた施設の種類の別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
病院	289 100.0	103 35.6	2 0.7	33 11.4	62 21.5	10 3.5	79 27.3
診療所	1,019 100.0	254 24.9	5 0.5	79 7.8	258 25.3	27 2.6	396 38.9

医師の1回あたりの平均禁煙指導時間（初回の指導）別にみると、「禁煙継続」の割合は、指導時間が長いほど、高くなる傾向がみられた。

図表 142 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：医師の1回あたりの平均禁煙指導時間（初回の指導）別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
15分未満	486 100.0	106 21.8	4 0.8	43 8.8	123 25.3	9 1.9	201 41.4
15～30分 未満	566 100.0	147 26.0	1 0.2	41 7.2	156 27.6	22 3.9	199 35.2
30～45分 未満	205 100.0	84 41.0	1 0.5	24 11.7	27 13.2	6 2.9	63 30.7
45分以上	25 100.0	11 44.0	1 4.0	3 12.0	6 24.0	0 0.0	4 16.0

医師の1回あたりの平均禁煙指導時間（2回目以降の指導）別にみると、「禁煙継続」の割合は、指導時間が長いほど、高くなる傾向がみられた。

図表 143 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：医師の1回あたりの平均禁煙指導時間（2回目以降の指導）別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
10分未満	545 100.0	120 22.0	4 0.7	52 9.5	133 24.4	10 1.8	226 41.5
10～20分 未満	677 100.0	204 30.1	1 0.1	56 8.3	171 25.3	27 4.0	218 32.2
20分以上	50 100.0	21 42.0	2 4.0	3 6.0	6 12.0	0 0.0	18 36.0

看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間（初回の指導）別にみると、「禁煙継続」の割合は、指導時間が長いほど、高くなる傾向がみられた。

図表 144 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間（初回の指導）別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
～15分未満	476 100.0	120 25.2	3 0.6	38 8.0	120 25.2	6 1.3	189 39.7
15～30分未満	315 100.0	83 26.3	2 0.6	23 7.3	85 27.0	10 3.2	112 35.6
30分～45分未満	159 100.0	54 34.0	1 0.6	18 11.3	27 17.0	11 6.9	48 30.2
45分以上	29 100.0	10 34.5	0 0.0	6 20.7	4 13.8	0 0.0	9 31.0

看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間（2回目以降の指導）別にみると、「禁煙継続」の割合は、指導時間が長いほど、高くなる傾向がみられた。

図表 145 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：看護師・准看護師の1回あたりの平均禁煙指導時間（2回目以降の指導）別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止 時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
～10分未満	424 100.0	110 25.9	3 0.7	37 8.7	114 26.9	6 1.4	154 36.3
10～20分未満	439 100.0	121 27.6	2 0.5	32 7.3	104 23.7	20 4.6	160 36.4
20分以上	72 100.0	23 31.9	1 1.4	12 16.7	9 12.5	1 1.4	26 36.1

禁煙治療の内容別にみると、「禁煙継続」の割合は、「標準手順書に従った禁煙治療を行っている」よりも「標準手順書に加えて独自の禁煙治療を行っている」の方が高かった。

図表 146 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：禁煙治療の内容別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
標準手順書に従った禁煙治療を行っている	1,166 100.0	310 26.6	7 0.6	100 8.6	289 24.8	30 2.6	430 36.9
標準手順書に加えて独自の禁煙治療を行っている	128 100.0	45 35.2	0 0.0	10 7.8	26 20.3	7 5.5	40 31.3

治療を受けた施設の平均禁煙治療回数別にみると、「禁煙継続」の割合は、治療を受けた施設の平均禁煙治療回数が多いほど、高くなる傾向がみられた。

図表 147 治療終了9か月後の禁煙状況（全対象患者：治療を受けた施設の平均禁煙治療回数別）

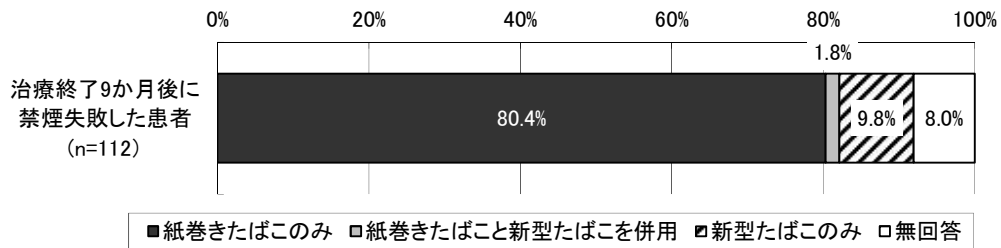
（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	9か月後の状況調査対象					治療中止時喫煙
		禁煙継続	1週間禁煙	失敗	不明	無回答	
全体	1,308 100.0	357 27.3	7 0.5	112 8.6	320 24.5	37 2.8	475 36.3
2回未満	23 100.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	4 17.4	0 0.0	18 78.3
2回以上～ 3回未満	382 100.0	104 27.2	1 0.3	25 6.5	71 18.6	6 1.6	175 45.8
3回以上～ 4回未満	592 100.0	153 25.8	4 0.7	57 9.6	164 27.7	21 3.5	193 32.6
4回以上	245 100.0	88 35.9	2 0.8	24 9.8	59 24.1	10 4.1	62 25.3

④治療9か月後の禁煙失敗時に喫煙したたばこの種類

治療9か月後の禁煙失敗時に喫煙したたばこの種類についてみると、「紙巻きたばこのみ」が80.4%で、次いで「新型たばこのみ」が9.8%、「紙巻きたばこと新型たばこを併用」が1.8%であった。

図表 148 治療9か月後の禁煙失敗時に喫煙したたばこの種類



參考資料

施設調査（様式1）において、禁煙治療を行う上で困っていることや課題等を自由記述式で記載していただいた内容のうち、主なものを以下にとりまとめた。

○5回の受診

- ・初回に受診の必要性を説明するが、全ての患者が5回受診達成できていない。禁煙できた時点で自己中断する人がいる。
- ・2回の通院で禁煙が成功し、その後、費用の関係で「治療は不要で、自分でもう大丈夫」といわれると2回の受診で終了してしまい、継続率の低下につながっている。
- ・5回の受診は無理だと思う。時間的、経済的に2~3回が適当と思う。
- ・薬物投与のない5回目は何度説明しても通院に理解を得られないことが多い。
- ・もう少しフレキシブルでもよいとなるとありがたい。3回で成功、2回で成功することもある。5回でないのだめとなると、それ自体が目的化してしまう。 /等

○12週間という期間

- ・12週以内に5回受診となっているが、患者は同じ曜日の受診が都合良く、初診日から、2週間、2週間、4週間、4週間後の同じ曜日に受診すると、「12週+1日」が5回目となる。1~2週という余裕を持たせてほしい。
- ・5回目の来院について、週での期間が決められており、その週に終了ができない患者がいる。その月中で良いことになれば終了者が増えるのではないか。
- ・12週間では不十分と思われるケースもある。
- ・特にバレニクリンでの治療の際、5回という回数だと服薬終了後のフォローがしづらい。必要な患者には6~7回まで保険のフォローができるとよいと思う。
- ・薬処方が限られており、GWや年末年始等で中断してしまうおそれがある。 /等

○バレニクリン服用時における自動車運転の制限について

- ・自家用車がないと生活できない地域なので、バレニクリンに「車の運転など危険を伴う機械の操作をさせないこと」という一文が追加されてから、ほとんど禁煙治療が不可能になった。ニコチンパッチで禁煙治療を行っている患者もいるが、当然成功率は下がる。
- ・自動車運転の一律禁止については、全く眠気のない患者もいるので検討していただきたい。
- ・バレニクリン服用時の運転禁止がある。外来のほとんどが車通院する状態である当院ではバレニクリンは使えないため、禁煙治療患者が激減している。
- ・バレニクリンを内服していると、自動車の運転ができないと添付文書上書いてあり、このことを患者に説明すると、「自動車が運転できないのでは生活に困る」ということで、治療を行わない人が非常に多い。この件については、よく検討して頂きたい。 /等

○保険適用

- ・1年未満のうちに再度禁煙治療を受けたいという患者がいる。

- ・禁煙治療脱落后に1年以内の再開が保険適用になれば、禁煙の機会が増える。
- ・呼吸器疾患を合併する患者には、禁煙外来適応のハードルをもう少し下げてほしい（再治療までの期間を1年→6か月にするなど）。
- ・外来のみならず入院患者にも保険適用が望ましい。
- ・未成年の喫煙者に対し保険適用を認めてもらいたい。
- ・薬剤投与継続の場合、薬処方を自由診療にするが、保険算定最終回の5回目に処方できない。 /等

○精神疾患患者の禁煙治療

- ・最近、「うつ病」治療中の患者が多く（禁煙希望者の半数以上）、バレニクリンが使いづらいためニコチンパッチにしているが成功率が低い。今後、医療機関ごとの禁煙成功率が問題になるなら、「うつ病」治療中の患者の禁煙外来をしにくくなる。
- ・心療内科に通院している患者の禁煙成功率が極めて低い。
- ・精神科加療中の患者は禁煙希望者が多いがほぼ全員失敗に終わる。精神科主治医からの働きかけが必要と感じる。
- ・精神科通院中の患者の場合、併用薬が不明のことがあり、投薬可能か決定困難なことがある（本人が通院歴を明らかにしないこともある）。 /等

○その他

- ・若年者のブリンクマン指数の要件が外れたことの認知度が低い。
- ・禁煙治療に従事している専任スタッフの要件は不要にしてほしい。無床診療所では医師のみで十分。
- ・2回目以降の受診時、呼気中CO濃度を測定することは義務だろうか。うまく禁煙できていない人にとっては踏み絵のようなもので、受診の気持ちが萎えてしまうことがある。
- ・呼吸器疾患を持病としている患者のみを対象とすべき。
- ・治療負担金のない患者の禁煙治療に対する意志が弱い。
- ・定期通院のない人は禁煙治療後のフォローが難しい。
- ・内服薬での副作用による途中中止が多い。副作用によって中断する場合、どのように対策を考えるべきか。
- ・新型の加熱式たばこが登場して禁煙希望者が減り、加熱式たばこ使用者が増えていると感じる。加熱式たばこによる害は科学的根拠を示して説明できないので困っている。
- ・循環器科等では「治療の前提としての禁煙」などと指導すれば、患者の動機づけとなる。
- ・社会的環境により再喫煙に至るケースがある。外出時には喫煙できないようにする法律や条例で強制力を持たせれば、受動喫煙防止にも役立つと思う。一種の薬物依存治療、社会的制約があってもよいと思う。
- ・たばこの価格をもっと引き上げて気軽に吸えなくする対策をぜひ考えてほしい。肺気腫、喘息、COPD、肺がん、動脈硬化など、たばこの害は明らか。 /等